

公立大学法人 滋賀県立大学

スチューデントファーム

「近江楽座」

まち・むら・くらしふれあい工舎

2023年度 活動報告書

近江楽座＝学生らしさを生かして、地域に学び、育ち、貢献できる場 をめざしています

近江楽座の20年 ―地域に支えられ地域とともに

本報告書は2023年度の近江楽座の活動成果をまとめたものである。翌2024年度にとりまとめ作業を行っており、1年遅れの年度末になってしまったが、今年も無事、近江楽座の活動報告をお届けできたことになった。滋賀県立大学が誇る、滋賀県立大学らしい活動がここに凝縮されている。

近江楽座の活動は2004年度文部科学省の教育改革プログラムとしてはじめられた「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）」に端を発し2024年度で20年の節目を迎える。印南比呂志 前委員長の後を引き継ぎ、今年度から私が近江楽座専門委員会の委員長を務めることとなった。

近江楽座の1年は、プロジェクトの応募、プレゼンテーション・審査から始まる。この場面に関わることで、近江楽座の20年の蓄積を実感することができる。2024年度は、継続20件、新規1件の応募があり、5月25日の審査会を経て21のプロジェクトが採択された。採択プロジェクトはいずれも個性的で、その成果も千差万別であると思われるが、審査・全体講評には、審査委員会名で下記の点を意識した活動をお願いする文言を入れさせていただいた。

1. 自分たちがおもしろいと思うことを思いっきりやる。[主体性とチャレンジ精神]
2. 地域が発展するよう、地域の活動をサポートする。
[信頼関係づくり]
3. 多くの人に活動を知ってもらう。[効果的な情報発信]
4. 楽座同士で連携を図る。学内外の他団体とも連携する。[地域や社会への広がり]
5. 事業収支やデータを押さえ、効果や成果をきちんと出す。[コスト意識]
6. ミッションやビジョン、成果・課題を確認し共有する。[活動の継承]
7. 安全確保を充分に行い、事故を防止する。無理をしない。[安全管理]

1は失敗や実現の可否に振り回されない創造的活動、学生らしいエネルギーにあふれた活動を期待して

提示したものである。2は楽座の本質的目的の再確認、3・4は自己満足に終わらない「外部」を意識した活動への期待を込めたもの、5・6・7はプロジェクト遂行のための実務的技能育成を念頭に置いたもので、社会に出て役立つ能力の養成を期待した項目である。

近江楽座は地域貢献を目的としたプログラムであるが、学生が主体となって取り組む人材育成プログラムでもある。学生たちは様々な問題に正面から取り組み、挫折と成功を繰り返しながら課題解決の方法、組織運営の方法を学んでいく。上記文言はそんな楽座の取組の中で常に意識してほしい指針として提示したものである。学生諸君には、年度末に活動の総まとめをする際、今一度「何を、どこまで達成できたか」「何が残されたか」「なぜ課題が残されたか」そして「楽しめたか」を再確認してもらえればと思う。

これらに加えて忘れてならないのは、地域貢献は上から目線の一方向であってはならない、という点である。採択されたプロジェクトは大半が継続プロジェクトであり、長期にわたる活動の中で地域と密接な関係を築いているものも少なくない。目に見えた成果が上がっているもの、地味な活動で目立った成果の出ていないものなど様々であろう。しかし、いずれのプロジェクトも、実際には「貢献」以上に、地域に支えられ地域とともに成り立っているのである。この点を忘れると、時に地域貢献は地域介入・干渉になってしまい、瓦解する。常に地域の方々の目線で自己の活動を検証する謙虚さが必要ではないだろうか。

近江楽座の20年は常に地域の方々に支えられてきた。活動場所の提供、人的交流の仲介、受け入れ側の意見調整、人的・物的資源の提供、知識の提供など、文章化できない多くのご支援をいただいていた。これまでの地域に皆さんのご支援に深く感謝するとともに、次の20年に向けて、近江楽座を支えていただけるよう、改めてお願い申し上げたい。

2025年2月

近江楽座専門委員会委員長

佐藤亜聖

(人間文化学部地域文化学科)

	はじめに	1
	1 近江楽座について	5
	1-1 近江楽座とは	6
	1-2 プロジェクト区分	7
	1-3 プロジェクトの採択について	8
	1-4 事業の実施	10
	2 各プロジェクトからの活動報告	11
	2-1 活動実績報告	12
	2-2 『らくざしんぶん』	54
	3 共通プログラムの報告	61
	3-1 活動の安全確保のためのスキルアップ講座	62
	3-2 中間報告会「地域での経験を語り合う」－先輩を交えた情報交換会	64
	3-3 活動成果報告会 まちづくり farmer's festa - まちをたがやす人たちの感謝祭 -	67
	4 学生有志活動	71
	4-1 近江楽座合同説明会	72
	4-2 近江楽座チャレンジショップ	73
	4-3 B プロジェクト 「県営開出今団地コミュニティ再生プロジェクト」	74
	5 その他トピックス	75
	5-1 全国公立大学学生大会 LINK topos	76
	5-2 一般社団法人 滋賀県建設コンサルタント協会 活動助成	77
	5-3 表彰・助成	78
	5-4 近江楽座 20 周年 写真展「記憶・語り・つながり」	80
	6 情報発信	81
	6-1 ホームページ、リーフレット、キャンパスガイド	82
	7 付録	83
	7-1 プログラム推進メンバー	84
	7-2 メディア掲載一覧	85
	7-3 近江楽座・活動安全マニュアル	87
	7-4 お知らせ	91

1 近江楽座について

1-1 近江楽座とは

滋賀県立大学の「近江楽座」は、「地域に根ざし、地域に学び、地域に貢献する」を目的とする学生主体のプロジェクトを募集、選定し、全学的に支援する教育プログラムです。

2004 年度に文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」に採択され、2006 年度までの3年間の活動実績が大学発地域貢献の先進的な取組として学内外で高く評価されました。そして、翌 2007 年度からは大学独自の予算を用いてプログラムを継続し、2023 年度までの 20 年間で延べ 448 のプロジェクトが地域と連携した活動を展開しています。

教育効果を高め、大学と地域の連携を深めるための3つの目標

- 地域の課題に学生・大学が取り組み、地域の活性化に向けて共に活動する。
- 学生が地域の方々と一緒に活動することにより、学内だけでは学べないことを体験する。
- 大学と地域が共同して、よりよい地域づくり・人づくりにつながるしくみをつくる。

3つのサポートシステム

近江楽座専門委員会・学生委員会・近江楽座事務局（地域共生センター）の連携の下、3つのサポートシステムにより、全学的に活動を推進しています。

■ 活動助成システム

「近江楽座」として選定されたプロジェクトの事業計画に基づき、活動に必要な事業費を審査し、助成します。

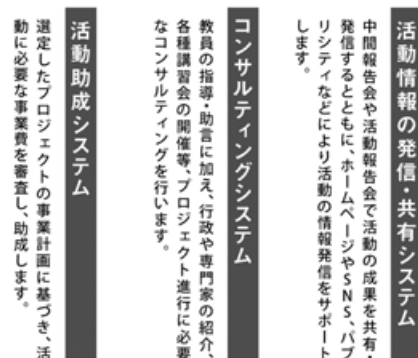
■ コンサルティングシステム

教員の指導・助言に加え、行政や専門家の紹介、各種講習会の開催など、学生がプロジェクトを進めていくために必要なコンサルティングを行います。

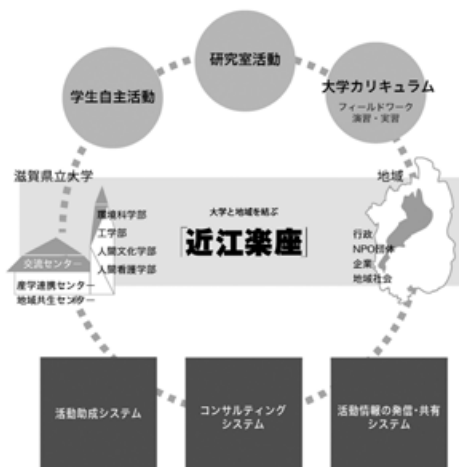
■ 活動情報の発信・共有システム

中間報告会や活動報告会で活動の成果を共有・発信するとともに、ホームページや SNS、パブリシティなどにより活動の情報発信をサポートします。

<3つのサポートシステム>



<サポートシステム概念図>



1-2 プロジェクト区分

2007 年度より、「地域活性化への貢献」をテーマに学生主体の地域活動を行う「A プロジェクト(学生主体型プロジェクト)」に加え、自治体や企業等から提示された課題について、学生主体のプロジェクトチームを結成し活動する「B プロジェクト(地域協働型プロジェクト)」がスタートしました。

Ⅰ A プロジェクト (学生主体型プロジェクト)

SDGs の視点を踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動を 3 つの区分で募集し、支援するプロジェクトを選定しています。

① 継続プロジェクト

過去に近江楽座の助成を受けたことがあるプロジェクト。

② 新規プロジェクト

近江楽座の助成を受けたことがないプロジェクト。

③ S プロジェクト (2011 年度～)

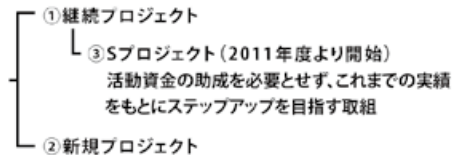
近江楽座でのこれまでの実績をもとにステップアップを目指し、活動資金の助成を必要としない自立したプロジェクト。(上位 senior、特別 special の S)

Ⅱ B プロジェクト (地域協働型プロジェクト)

自治体や企業、団体等から依頼のあった課題について、「近江楽座」として取り組むテーマを設定し、学生主体のプロジェクトを募集します。学生チームにはテーマに対する企画提案を求め、採択されたチームは、指導教員と地域共生センターが支援し、依頼先と共同で取り組みます。

A プロジェクト (学生主体型プロジェクト)

SDGs の視点を踏まえ「地域活性化への貢献」をテーマとする学生主体の地域活動プロジェクト



B プロジェクト (地域協働型プロジェクト)

学生が主体となって取り組むのがふさわしい自治体や企業等から提示された課題に、学生チームが依頼先と協働で取り組むプロジェクト (2007 年度より開始)



1-3 プロジェクトの採択について

Ⅰ プロジェクト募集期間

A プロジェクト

日 時：2023 年 4 月 17 日（月）～ 5 月 15 日（月）

2023 年度は、SDGs の考え方や取組を地域や社会に広げていくとともに、特に地域から始める無駄なエネルギー削減（省エネ）や意識醸成など、地球温暖化防止、CO2 ネットゼロ社会の実現に貢献する活動についてアイデアを求めた。

Ⅱ 応募件数

A プロジェクト 21 件

- ・継続プロジェクト 18 件
（うち S プロジェクト 2 件）
- ・新規プロジェクト 3 件

Ⅲ プロジェクト審査

A プロジェクト「プレゼンテーション・審査会」

日 時：2023 年 5 月 27 日（土）

場 所：講義棟 A7-101

内 容：プレゼンテーション（プレゼンテーションシートによるプロジェクト説明）および質疑応答（1 チーム 7 分（発表 4 分＋質疑 3 分）、審査（非公開）

選定委員（順不同 敬称略）：

- 滋賀県立大学 地域連携担当理事
地域共生センター長 中嶋毅
- 滋賀県立大学人間文化学部 教授 佐藤亜聖
- 滋賀県立陶芸の森 副館長 青田朋恵
- 株式会社 iop 都市文化創造研究所
マネージャー 中野優
- 滋賀県立大学人間文化学部 教授
近江楽座専門委員会 委員長 印南比呂志

Ⅳ 採択および採択通知

A プロジェクト

日 時：2023 年 6 月 1 日（木）

通知方法：近江楽座ホームページおよび学生ホール掲示板にて通知

Ⅴ 採択件数

A プロジェクト 21 件

- ・継続プロジェクト 18 件 ※
（うち S プロジェクト 2 件）

- ・新規プロジェクト 3 件

※うち 1 件は、5 月 27 日の審査会で継続審議となり、補足資料に基づき再審査を行い、6 月 14 日に採択が決定。

Ⅵ 活動説明

A プロジェクト

日 時：2023 年 6 月 5 日（月）12:30 ～ 13:00

場 所：交流センター 研修室 1 ～ 3

内 容：採択プロジェクト代表者に対する審査会
講評、活動全般にあたっての注意事項、事業計画、会計処理等の進め方に関する説明会

<プレゼンテーション・審査会 スケジュール>

時間	発表順	区分	採択年数	チーム名	プロジェクト名
9:30～9:35	はじめの挨拶				
パート1 9:35～10:31	1	継続	12年(2011年～)	滋賀県大生き物研究会	内湖の再生と地域の水辺 コーディネート
	2	Sプロ継続	2年(2021年～)	竹林GAKU	犬上川竹林整備プロジェクト
	3	継続	11年(2012年～)	かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-	かみおかべ古民家活用計画
	4	継続	19年(2004年～)	未来看護塾	未来看護塾
	5	継続	10年(2013年～)	政所茶レン茶`ー	政所茶レン茶`ー
	6	継続	16年(2004年～)	ボランティア部 Harmony	障がい児・者、自立支援・ 共生社会プロジェクト
	7	継続	11年(2012年～)	地域博物館プロジェクト	地域博物館プロジェクト
	8	継続	2年(2021年～)	オオリヤロウ	男鬼里山再生プロジェクト
10:31～10:40	休憩				
パート2 10:40～11:36	9	継続	13年(2010年～)	おとくらプロジェクト	おとくらプロジェクト
	10	継続	7年(2016年～)	BAMBOO HOUSE PROJECT	BAMBOO HOUSE PROJECT
	11	新規		ヴォーリス研究会	ヴォーリス研究会
	12	Sプロ継続	14年(2009年～)	あかりんちゅ	あかりんちゅ
	13	継続	7年(2016年～)	座・沖島	座・沖島
	14	継続	5年(2018年～)	Cebu Parian Project	Cebu Parian Project
	15	新規		はっしん歴史遺産@近江	はっしん歴史遺産@近江
	16	継続	14年(2005年～)	廃棄物バスターズ	廃棄物バスターズ
11:36～11:45	休憩				
パート3 11:45～12:20	17	継続	19年(2004年～)	とよさと快蔵プロジェクト	とよさと快蔵プロジェクト
	18	継続	1年(2022年～)	リソーズ	日夏里かがやけプロジェクト
	19	継続	17年(2005年～)	フラワーエネルギー「なの・わり」	フラワーエネルギー「なの・わり」
	20	継続	2年(2021年～)	沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト	沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト
	21	新規		三津屋町地域活性化プロジェクト	三津屋町地域活性化プロジェクト
12:20～12:25	終わりの挨拶				
13:15～14:30	審査会				

<プレゼンテーションの様子>



1-4 事業の実施

3年間猛威をふるった新型コロナウイルス感染症が沈静化し、5月には5類感染症に移行し、近江楽座の活動もこれまでのような制限を受けることがなくなった。同時に地域行事も再開されるようになり、徐々にコロナ前の状況に戻ることで、学生たちの活動の幅も広がっていった。

4月には、近江楽座のチームが合同で東京の中学校の修学旅行体験プログラムを受入れ、これまでの活動の成果を存分に活かすことができた。また、2021年度から活動を始めた犬上川竹林整備プロジェクト（竹林GAKU）がSプロジェクトに移行し、「あかりんちゅ」に次ぐ第2号が誕生した。7月には未来看護塾の提案事業が、県民の健康づくりに資する取組として、令和5年度「健康しが」活動創出支援事業に採択され、活動の幅が広がるなど、多くの新たな動きが見られた。

さらに、2024年に近江楽座が20周年を迎えることから、2023年末～2024年初め、交流センターホワイエにて近江楽座20周年写真展「記憶・語り・つながり」を開催した。延べ448件のプロジェクトに1万人を超える学生関わっており、約420枚の写真でこれまでの活動の様子を紹介した。

また、近江楽座の発展を図るため、卒業生の協力を得て、スキルアップサポート会議をスタートさせた。卒業生との連携では、活動成果報告会と中間報告会にゲストとして卒業生を招き、コロナ禍で課題を抱えた学生たちの活動を応援していただいた。その他、「あかりんちゅ」の第13回毎日地球未来賞 奨励賞の受賞や「BAMBOO HOUSE PROJECT」の学生ボランティア団体活動レポート優秀賞の表彰など、嬉しい出来事が重なった。

令和5年度の事業実施日程は次のとおりである。

< 2023年度の事業実施日程 >

日程	行事
4月17、18、19日	プロジェクト合同説明会
4月24、27、28日	2022年度活動成果報告会開催
4月17日～5月15日	プロジェクト募集
5月27日	令和5年度プレゼンテーション・審査会
6月1日、5日	審査結果発表<21プロジェクト採択>、活動説明会・プロジェクト活動開始
6月14日	継続審議案件(1件)の採択決定(補足説明依頼、審査会(書面開催))
7月11日	スキルアップ講座「危機対応講習」開催
7月10日	滋賀県建設コンサルタント協会 NPO 活動支援事業 助成金交付式
7月13日	第1回代表者会議
9月4～6日	全国公立大学学生大会(LINKtopos2023in沖縄)廃棄物バスターズ参加
10月27日	第2回代表者会議
12月3日	開出今団地でのイベント開催(キャンドル製作体験&お茶の淹れ方講座)
12月12、13、15日	中間報告会開催「地域での経験を語り合う」
12月18～22日	チャレンジショップ(政所茶レン茶 TM 、リソース(22日のみ))
12月20日	第3回代表者会議
12月21日～1月11日	近江楽座20周年写真展「記憶・語り・つながり」
2月10日	「あかりんちゅ」第13回毎日地球未来賞 奨励賞受賞 受賞記念報告会
2月14日	「BAMBOO HOUSE PROJECT」学生ボランティア団体活動レポート優秀賞 表彰式
3月4～6、11、13日	助成金最終ヒアリング
3月15日	活動実績報告提出



各プロジェクトからの活動報告



活動実績報告

01	政所茶レン茶 [®] ー	12
02	BAMBOO HOUSE PROJECT	14
03	男鬼里山再生プロジェクト	16
04	廃棄物バスターズ	18
05	とよさと快蔵プロジェクト	20
06	未来看護塾	22
S 07	あかりんちゅ	24
08	かみおかべ古民家活用計画	26
09	ヴォーリズ研究会	28
10	フラワーエネルギー「なの・わり」	30
11	内湖の再生と地域の水辺コーディネート	32
12	沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト	34
13	三津屋町地域活性化プロジェクト	36
14	地域博物館プロジェクト	38
S 15	犬上川竹林整備プロジェクト	40
16	座・沖島	42
17	おとくらプロジェクト	44
18	障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト	46
19	日夏里かがやけプロジェクト	48
20	はっしん歴史遺産@近江	50
21	Cebu Parian Project	52

S : S プロジェクト

次ページ以降のチームデータについて
補足説明

※近江楽座活動年度について

☐ : 不参加

☒ : 参加

を示しています

※メンバー数は、活動に関わった学生の
総数です。

01 政所茶レン茶´ー



政所に学生の風を！

「宇治は茶処、茶は政所」と古くから歌われ、在来種の有機栽培・手摘みといった伝統的な栽培方法を守り継がれてきた政所茶。そんな政所茶を次世代に残すべく地元の畑をお借りし、生産や販売、学生ならではの視点から政所茶・政所町の魅力を発信しています。

TEAM DATA

チーム名：政所茶レン茶´ー

代表者：津井美咲（人間文化学部）

メンバー数：25名

指導教員：上田洋平（地域共生センター）

活動場所：滋賀県東近江市政所町

関係団体：政所茶縁の会、政所茶生産振興会

近江茶座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 新茶摘み

★見出し写真：茶摘みメンバー（05/21）

(2) チャレンジショップ

(3) 茶畑作業



ススキ刈り（07/16）

(4) 販売イベント

(5) おおたき里づくりネットワークとの連携活動

(6) 開出今ワークショップ

(7) 地域の方々との交流会



交流会の様子（12/23）

1年のまとめ・考察（成果と課題）

今年度の政所茶レン茶´ーの目標として掲げていた大学内での認知度の向上は、生協ショップのパフェコンテストでのコラボやチャレンジショップを通じて大きな成果を得られたと思う。前者のパフェコンテストではPRと共にアンケートを行った。その結果、「政所茶レン茶´ーの名前は聞いたことがあるが何をしている団体かは知らない」「名前も知らない」という回答が57.9%を占めていた。その後、チャレンジショップという形でお茶の試飲と販売を一週間行ったところ、アンケートを行えていないため具体的な数値は不明だが、お茶をつくっている団体があるという話を学内で耳に挟むなど、広く認知されるようになった実感があつた。

また今年度からこれまでの半分の量の煎茶の販売を開始した。これは販売イベントでお試しサイズのもの欲しいという声を反映したものである。500円以下で多くの方に試してもらえるようにと思い販売を開始したところ、実際にお試しでということを買ってくれる方が多かった。また、番茶のほうじ茶加工はどうかと近江茶ますきちさんから声をかけていただき、試した。以上のように積極的に意見を取り入れた。

今後の課題としては外部のPRを強化したい。ネット販売を行っているが設置が遅くなったこともあり、売れなかった。また、ブログやHP等も以前は行っていたが、今年度はX（旧Twitter）とInstagramの投稿に偏ってしまった。これまでの既存サイトも活かして学内、学外ともにPRを強化していきたい。申請時に述べたお茶以外の政所のいいところを紹介することが実際にはできなかったが、日々の発見などを発信していきたい。

活動を通して学んだこと

畑での活動や地元の祭りでの販売から、学生が地域の方とどのように関わっていきけるのかを学ぶことができた。茶摘みの時期は隣の茶農家さんも作業されているので、一緒に政所茶をつくっているような感じがしてお茶への思い入れがより強くなった。

京田千穂（人間関係学科 1 年生）

湖風祭で政所茶のテイクアウトを販売することで、学内でより多くの人に知ってもらう良い機会になったと感じた。また茶葉の販売も、学内や地域の人に対面販売することで、自分たちの活動をもっと県立大に身近な人たちに知ってもらえるいい機会になったと思う。

津田若菜（生物資源管理学科 2 年生）

小学生を対象にしたお茶の淹れ方教室や大学での試飲・販売など多様な年代に政所茶の魅力を発信でき、嬉しかった。お茶を淹れる場や試飲する場など政所茶を肌で感じる機会の提供による政所茶の効果的な魅力発信術を習得できた。政所茶の魅力発信に尽力し続けたい。

藤本莉子（地域文化学科 2 年生）

活動を通じて、人との会話や関わりが持つ力の強さと助け合いの大切さを改めて感じた。茶の栽培を基礎とした人のつながりがこの地域の 1 番の魅力であり強みである。この団体が受け入れられ長年愛してもらっているのはそういった関わりを大事に積み重ねてきたからだと学んだ。

田代帆華（生物資源管理学科 3 年生）

地域からのコメント

白木加代子さん（お借りしている茶畑の管理者）

茶レン茶一が発足して 10 年？早いですね。政所町までのアクセスが大変にも関わらず、また学業と両立しながら政所茶の生産に携わっていただけていること地域住民の皆さんも元気をいただいています。お天気都合に左右されながら昔ながらの作り方を守ることは大変なことですが、お茶は手をかければかけるほど応えてくれます。政所茶は希少価値のあるお茶です。皆さんが頑張ってくれた政所茶。自信をもってお客様に提供して下さい。限られた学生期間ですが新たな後輩にもしっかりと引き継いでバトンを繋いでいってくださいね。そして卒業してからも政所茶と関わって地元住民との交流も深めていってください。ありがとうございます。

指導教員より

地域共生センター 上田洋平

いよいよ老舗チームの仲間入り

茶レン茶一の顧問には皆さんを政所まで送迎する運転手という役目もある。その道中で、それぞれの生い立ちや郷里のこと、講義や教員のうわさ、趣味や流行り、将来のことなど、みなで話しているのを聞くのも楽しみなのだけれど、年々忙しくなって、今年はそれも数えるくらいにしかできなくて残念&ごめんなさい。なかにはそこでさらに口車に乗せられて、思いもよらないところに漂着してしまった OB・OG もいるようだけれど。

ある老舗茶座チームの格言(?)に、「顧問が姿を現す時はピンチの時」というのがある。実際、安定飛行を続けているチームでは、リーダー以外のメンバーは顧問（指導教員）と滅多に会うことがなく、ついにも一度も顧問の顔を見ないまま引退ということもあるとか。基本的には単位にもお金にもならない活動を、ときに葛藤しながら、学生諸君が自主的・自律的にやってくれる。それが茶座の矜持。だから顧問の出番がなくて、介入する機会のないのはリーダーたちが頑張っ、チームがうまくいっているということなので、いいことだ。でもちょっと寂しいな。

リゾートホテルグループとの連携の話もいよいよ具体的になってきた。この連携から、政所地域や政所茶全体にとって、どんな仕合せが生み出せるか、ビジネスとブジネス、両方の視点をもって、この機会を生かして行こう。

リスク安全管理の取組

- ・畑の行き帰り
- ・畑作業時
- ・商品作成時

DELIVERABLE

成果物／制作物



お茶

02 BAMBOO HOUSE PROJECT



生きる自然は地域を育む

全国、どこにでもある放置竹林。この問題を地域の方々と学生が協力して解決しようという取組です。滋賀県湖南市菩提寺区の竹林で、毎年竹林整備を行い、その際に出た竹廃材を再利用し、子どもたちや地域の方々が集まる憩いの場となることを目指します。

TEAM DATA

チーム名：BAMBOO HOUSE PROJECT

代表者：箱田里菜（環境科学研究科）

メンバー数：50名

指導教員：陶器浩一（環境科学部）

活動場所：滋賀県湖南市菩提寺

関係団体：菩提寺まちづくり協議会

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 春のWS

(2) 「竹線景」解体



解体と点検（11/30）

(3) サイン計画

(4) 修学旅行生の受入



交流の様子（05/14）

(5) 菩提寺まちづくりフェスタ展示の部に 出展

(6) 竹廃材の撤去（竹チップ制作）

★見出し写真：チップ散布（02/29）

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度は例年より多くの事業を行い活発に活動を行った。またそれに伴い、BAMBOO HOUSE PROJECTの活動をより多くの方々に知ってもらえた。

5月には東京の中学生のSDG s学習として活動紹介・作業レクチャーを行い、放置竹林問題の深刻性や竹の可能性について知ってもらう機会を得た。様々な楽しい最先端の技術が集まる東京の中学生たちが、竹についてどれほど興味を持ってもらえるか、不安な部分もあったが興味津々に見学してくれ、楽しんでもらった。また、活動から10年以上経過し、竹林全体の活気も薄れてきたので、昨年「竹の庭」の新たな“象徴”となる大規模な建築の作成を地域の方々と計画してきた。まちづくり協議会の方々に改めてヒアリングし、「竹の庭」に対してどのように思っているか、竹林の未来をどのように考えているか改めて知ることが出来た。春のWSである2週間に及ぶ長期のワークショップは久しく行っておらず、不安な部分もあったが、多くの人の協力があり、新築「椎竹庵」の完成・竹線景の解体・「竹の庭」全体の整備など多くのことを成し遂げられた。しかし、作業中に怪我人が出てしまうなど、安全管理に対して課題が上がった。長期間の作業ということもあり、安全に対する意識の低下や作業の多さなど管理できていない部分もあったと感じる。今後このような怪我が無いよう、安全管理の再確認・作業中の注意喚起の徹底を行っている。

今年度は地域の方々とこれまで以上に密にコミュニケーションをとることが出来た。宿泊中には施設利用者と話す機会もあり、私たちの活動について知ってくださっており、応援も頂いた。私たちが思っているより、私たちの活動が地域に根付いており、愛されていることを改めて知ることが出来た。また、学生ボランティア活動レポートが優秀作品として表彰されるなど活動の社会的意義を再確認することができた。

活動を通して学んだこと (抜粋)

学生と地域の人とが関わる放置竹林問題に取り組む活動に参加できて、とても楽しかった。竹を有効活用して地域の魅力的な場所を作ることができ、その成果が今では地域の人々に愛されている姿を見て、とても満足感を得た。

植松時右 (環境建築デザイン学科 2 年生)

この取組の代表になり、地域の人と一緒に、その地域の魅力を高めていくことに貢献できたことを誇りに思った。今回の活動は例年に比べ、約 2 週間の長期的な活動であり、悪天候が多かったことから工程管理が難しかった。ただ、学生一人一人のプロジェクトに前向きな姿勢が作業工程を素早く進めてくれた。学生の間でしか体験できない様々なことが自分の成長に繋がったと強く思った。

伊藤羽祐磨 (環境建築デザイン学科 3 年生)

放置竹林問題の解決に協力できてとても光栄だった。竹を活用して地域の交流の場を作るアイデアは素晴らしいと感じた。今では子どもたちが楽しめる場所や学びの場として活用されているのを見ると、自分たちの取組が地域に良い影響を与えていることを実感した。これからもこの活動を続けていってほしいと思う。

小田龍斗 (環境建築デザイン学科 3 年生)

竹林問題を解決するために学生と地域の方々が力を合わせるという活動は素晴らしいものだった。竹を使った建築は新鮮で面白く、地域の交流の場になっているのが嬉しい。特に子どもたちが楽しんでくれている様子を見ると、自分たちの活動の意義を感じた。

土山乃愛 (環境建築デザイン学科 3 年生)

地域からのコメント (抜粋)

菩提寺まちづくり協議会 地域活性化委員会 委員長

浅井基義さん

今期は例年になく雨の多い日が続き、ご苦勞の多い年となりましたが、いつも作業に来ていただき大変感謝しております。

2 月 18 日～3 月 1 日迄の長期間、学生の皆様は、寝袋持参で菩提寺まちづくりセンターを拠点に自炊、宿泊して作業をしていただき、施設の充実を行っていただきました。今年は新たな施設をお願いして、東屋(バンブーハウス 3 号基)の建設、その他の施設、プランコ、ハンモック、デッキなどの補修もして頂きました。新しい代表のもとメンバーが協力して、BAMBOO HOUSE PROJECT を継続的に維持出来る事は素晴らしいものです。まちづくり協議会のメンバーもそう有りたいのですが、毎年同じメンバーで活動しています。

最近管理外の竹林も整備を少しずつ行っているうちに、地元の方からも感謝されています。地元の甲西北中学校の環境学習については、ここ 4 年間出来ていませんが、今年は出来るように中学校とのパイプ役になれるようになりますと思います。今年は各区自治会さんを招いての筍掘を行います。新たな施設のお披露目となります。これからも皆様のご協力よろしくお願いします。

指導教員より (抜粋)

環境科学部 陶器浩一

この活動も今年度で 12 年目となった。当初築造した構築物は老朽化が進んだため今年度解体撤去を行うことになった。解体は新築以上に難しい作業であるが、安全に解体する方法につき議論を重ねて準備し、無事安全に解体することが出来た。解体は一見地味な作業であるが大変重要な作業であり、それに対してみな前向きに熱心に準備および作業を進めて遂行してくれたことを嬉しく思っている。

地域の方々からそれに替わる新たな象徴となる構築物を希望され、今年は久しぶりに大きな構築物を構築することになった。計画に際し、まず地域の方々の要望を聞き取り、学生間で案を出し合い議論を重ねてひとつの案にまとめて地域の方にプレゼンを行って制作案を決めてゆくプロセスは、まさに実際の建築設計のプロセスそのものであり、学生たちにとっても貴重な経験になったと思う。また、「人に寄り添う、自然に寄り添う」「生きる自然は地域を育む」という活動理念が代々の学生にしっかりと引き継がれていっていることを嬉しく思う。

リスク安全管理の取組

- ・移動時
- ・作業時
- ・緊急時
- ・安全点検リストの見直し

DELIVERABLE

成果物 / 制作物



「菩提寺まちづくりフェスタ」展示物

03 男鬼里山再生プロジェクト



里山の原風景をつむぐ、おおりびと

廃村から約50年経つ男鬼（おおり）集落には、今でも多くの歴史や文化の痕跡が残っています。廃村集落・男鬼の持続的な再生を目指して、集落のさまざまな可能性を模索しながら、集落の調査・研究と実践活動に取り組んでいます。

TEAM DATA

チーム名：オオリヤロウ

代表者：澤木花音（環境科学研究科）

メンバー数：7名

指導教員：芦澤竜一、川井操（環境科学部）

活動場所：男鬼集落跡（彦根市）

関係団体：一般社団法人おおりびと

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 炭焼きワークショップ

★見出し写真：炭焼き窯の制作（07/28）

(2) 比婆神社／日枝神社 お祭りへの参加



しめ縄奉納会に参加（11/26）

(3) 炭焼き窯の移設／炭焼きの実施



炭焼きの様子（7/28）

(4) 炭焼き小屋の設計

1年のまとめ・考察（成果と課題）

昨年度は一軒の家屋を中心に活動を行い、今年度の活動では視野を広げ、里山全体でできることを考え、集落を使うことを意識した活動を行なった。

今年度の大きな成果として、炭焼きワークショップを開催した。昨年度、裏山の木の伐採で出た端材を拾い炭焼きを行う。集落での活動を継続する小さなきっかけを作っていくことは今後の活動の手助けになるのではないだろうか。

今後の活動では、住人を失った集落に再び人の気配を漂わせ、集落再生という大きな目標に向けて、少しずつ地域コミュニティに馴染み広げていくこと、集落を使うことで里山環境の改善につなげることによってプロジェクトを持続的なものにするための小さな一歩となったのではないかと考える。

活動を通して学んだこと

集落を「使う」ことに目を向けた今年度では、集落に足を運び、家屋の手入れを行う中で、一度は人の手を離れた、離さざるを得ない理由があった廃村集落を使っていくことの難しさを実感することもあった。今後も集落での実践を通して、現代での廃村集落という場所の存在意義を模索していきたい。

澤木花音（環境科学研究科環境計画学専攻1回生）

今年度、集落での炭焼きワークショップを通して、学生が里山資源の循環に触れる機会となったと思う。今後は炭焼きを通して、集落を使うきっかけを作り、廃村に人の居場所を取り戻していければと考える。

森岡大喜（環境科学研究科環境計画学専攻1回生）

地域からのコメント

男鬼町 比婆神社氏子総代 大久保則雄さん

澤木院生・川井先生を中心として「おおりびと」活動が行われたことに感謝と敬意を表します。比婆神社祭礼にご支援くださったことにも感謝します。

今年度は、起点となる拙宅裏手の樹木伐採で視界が広がった事に始まり、ドラム缶炭焼き等新しい動きが見えてきました。一方、鳥居本の知己がドローンで村落を撮影したデータを提供してくださいました。今後有効に活用して頂きたい。

「おおりびと」初代院生川畑さん2代目院生岡田さんが卒業されても、会議に参加して思いを共有される事は、男鬼町の高い潜在性が基底にあると拝察しています。新年度は、ホームページの立ち上げ等広報活動にも目を向けて下されば幸いです

琵琶湖につながる芹川の源流であり、歴史的な潜在力も高い神社・山城跡、日本の山間地を象徴するような地を大切に次世代につなげるよう皆様のご理解とご支援を重ねてお願い致します。ありがとうございます。

指導教員より

環境科学部 川井 操

オオリヤロウのプロジェクトの活動が始まり3年目となった本年度では、昨年度までの活動を引き継ぎ、次に繋げていくため、男鬼集落を取り囲む里山全体を意識した活動を指導した。所有者不明の土地問題など多くの問題が残る中で、今後は男鬼集落に限らず、周辺地域の調査、また彦根市への働きかけを行うなど、広域的な活動を通して、大学の枠を超え、学生が社会に対して主体的に活動・提案できる能力を身につけてくれることを願う。

リスク安全管理の取組

- ・万全な事前準備（参加メンバー、現場の確認、作業の段取りなど）

DELIVERABLE

成果物／制作物



炭焼き窯



建具

04 廃棄物バスターズ



ゴミ拾いを科学する！

地域での清掃活動やリサイクルプランターを活用した hana-wa 活動など、環境と福祉を繋ぐ活動を行っています。また数年前から、一般家庭から排出される廃棄プラスチックを原料に雨水タンクを製造する技術の研究を始め、マイクロプラスチック問題や様々な環境問題に関する教育普及活動に取り組んでいます。

TEAM DATA

チーム名：廃棄物バスターズ

代表者：澤田奎湖（工学研究科）

メンバー数：18名

指導教員：徳満勝久、竹下宏樹、木田拓充（工学部）

活動場所：彦根市、滋賀県内

関係団体：社会福祉法人いしづみの家 他

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

- (1) マテリアルリサイクル事業
- (2) 彦根市清掃活動
- (3) 荒神山春まつりでの清掃活動
- (4) 宇曽川清掃活動
- (5) たねやグループとの清掃活動、田植え体験
★見出し写真：田植え体験の様子（06/03）
- (6) 西東京市立田無第四中学校修学旅行生の受入
- (7) 彦根中央中学校学生の受入
- (8) LINKtopos2023 参加
- (9) 「サイエンスフェスタ」実施
- (10) 彦根系びす講でのブース出店
- (11) 「ご当地キャラ博」協力
- (12) 「しが R キッズ連続講座」講師
- (13) R キッズ環境フォーラム参加



フォーラムの様子（10/15）

- (14) グリーン経済フォーラム事例報告
- (15) 草津市子ども環境会議コーディネーター

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

本年度は当初、雨水タンクに関する活動を減らし、地域貢献や教育活動に力を入れる年にしようと計画を立ててきた。しかし、先生方からのお話や各所で廃棄プラスチックから雨水タンクを作製することを目指す活動を行っていることと発表するたびに、私たちの生活に与える影響や当団体がどれほどこれからの社会に大きな意味を持たせる活動を行っているかを痛感した。雨水タンク作成事業では本年度もリサイクルプラスチックの物性を測ることのみにとどまってしまい、大きな進展を得られなかった。この事業には原料供給、成形の不安定性、モニター不足といった多くの問題を抱えており、すぐに解決することは難しいが、今後さらなる発展や新たな事業展開に期待したい。

本年度、新たな取組として中学生を受入れ、琵琶湖を中心とした環境問題やプラスチックの知識を提供することや実際に琵琶湖岸に足を運び、マイクロプラスチック回収の体験学習を実施した。これは昨年度特に「教育」に力を入れて活動してきたことが実を結んだ成果である。マイクロプラスチックやプラスチックごみによる生態系への悪影響の話などが広く出回る今の世の中でプラスチックを悪とする考えを持つ人は少なくない。このことを踏まえ我々は、プラスチックが悪いのではなく誤った処理を行う人間に非があり、プラスチックは今日の社会でなくてはならない存在であるということアピールし続け、正しい知識を共有し続けていきたい。最後に、本年度私が最も印象に残ったこととして12月末に行われた近江楽座中間報告会がある。そこで、本学人間文化学部・印南教授から当団体へのコメントとして、「廃棄物バスターズが清掃活動の発表をしないのは団体の中でそれが当たり前になっているからであり、これは非常に素晴らしい事だ」という意見をいただいた。私はこの言葉を聞いて、当団体の清掃活動が大学内でも少しずつ浸透してきていることを感じる事ができたと共に、地道で地味な活動でも継続することで活動の幅が広がり、多方面に良い影響を与えることができることを実感した。清掃活動など決して派手な取組ではないとしても継続することを大切に、これからも活動していつてほしいと思う。

活動を通して学んだこと (抜粋)

小中学生や地域の方々に正しい知識を共有し、交流を深めていくことができたことに達成感を得ることができた。教育活動をしていく中で、教わる側の知識量などを考慮し、内容構成を一から構築していくことにやりがいを感じた。また、代表として団体全体を見渡し、活動に対するメンバーの意見を聞き、与えられたタスクをメンバーと協力しながらこなすことができた。同期をはじめとしたメンバーたちに感謝したい。 **澤田奎湖 (工学研究科材料科学専攻1回生)**

今年1年間、廃棄物バスターズの中心メンバーとして、地域のイベントへの参加、キレイ隊・小中学生への教育活動、雨水タンクなどの幅広い活動をさせていただきました。どれも勉強になることばかりで大変貴重な経験となりました。研究への両立で大変なことも多々ありましたが、同期5人で力を合わせて乗り越えることができました。バスターズメンバーとして沖縄に行けたのは最高の思い出です。

畑翔太郎 (工学研究科材料科学専攻1回生)

特に印象に残るのは、小中学生向けのマイクロプラスチックに関する校外学習です。他人に教えるというのは、十分な知識が必要になります。そのため、子どもたちに指導することで、私たち自身のマイクロプラスチックに関する理解を深めることができ、充実した1年となりました。

坂口紀彦 (工学研究科材料科学専攻1回生)

地域活動では、地域の方々と交流し意見を聞くことで日々成長する必要がある、小さなことも継続することでいずれは大きな潮流になることを学びました。教育活動では、自身の知識を相手に分かるように言葉を再構築する必要があり、自身の足りない部分に気づくことができ、いい経験となりました。 **鈴木峻真 (工学研究科材料科学専攻1回生)**

子どもたちにマイクロプラスチック問題をはじめとする環境問題について伝えることで、自分自身も非常に多くのことを学び、現状を再認識することができました。また、環境問題に対して関心を持つ子どもたちがたくさんいることを知り、刺激を受けると同時に、未来に希望を見ることができました。今後社会に出てからも活動を通して学んだことを活かして、地域・社会に貢献をしていきます。 **須川駿 (工学研究科材料科学専攻1回生)**

地域からのコメント (抜粋)

地域共生センター 地域連携コーディネーター 谷口嘉之さん
(事業⑥⑦の主催者)

最近、小・中学校や高校からの探究学習に関する大学への問合せが増えてきています。今年度、廃棄物バスターズのみなさんには、中学生の探究学習受入れ2件にご協力いただきました。探究学習が必修科目となり、これまで図書館などでの調べ学習が中心だった内容も、どんどん児童・生徒が学校を出て、いろいろな人と関わりながら現場での学びを深めることへと広まっているようです。今後も廃棄物バスターズをはじめ、近江楽座チームに対応いただきたい問合せ案件が続くと思います。子どもたちの探究学習を充実させるとともに、本学学生の成長にもつながれば嬉しいです。

指導教員より (抜粋)

工学部 徳満勝久

今年度の廃棄物バスターズの活動は、黎明期における「学生活動コンペ」での優勝や世界大会出場と言った“派手な活躍”ではなく、地道に肅々と自分たちの出来ること、するべきこと、しなければならないことをきちんと理解し、活動に活かした「安定期の活動」だったように思います。多方面からの依頼を少ない人数ながら着実に計画・実施し、さらには依頼された方々から高い評価を得たのは、その証左に当たるように思います。また、「地道で地味な活動でも、継続することで自分たちの活動の幅が広がり、多方面に良い影響を与えることができることを実感した」という感想を述べてくれたのは、今まで多くの学生たちが「廃棄物バスターズ」の活動として繋いでくれ“地道な糧”の賜だと感慨深いものがあります。

工学部 竹下宏樹

活動実績報告書を見て、研究室での活動との折り合いを上手くつけながら多岐にわたる活動を精力的に行ってきたことが改めてよく分かりました。幅広い社会的・教育的活動を通じて、研究活動では得ることの出来ない様々な視点を獲得することになったのではないかと思います。今後もこれまでと同様に活動の幅を広げるとともに、プラスチックの物性研究を行っているという自分たちの強みを活かした深みとインパクトのある活動に取り組んでほしいと思います。そのようにして身につけた社会的課題やニーズに対する視点は本業である研究活動においても役に立つことと期待しています。

工学部 木田拓充

今年度から本学に赴任し、廃棄物バスターズの活動を間近で見守ってきましたが、非常に多方面の活動を精力的に行っており、頭が下がる思いでした。廃棄物バスターズの特徴として、活動している学生の皆さんがプラスチックの物性や成形加工に関する研究に精通していることかと思えます。今後は、研究面での知見・経験も活かして、リサイクルプラスチックを用いた貯水タンクの製造にも取り組んで欲しいと思います。研究でも素晴らしい成果を報告してくれることを期待しております。

リスク安全管理の取組

- ・新型コロナウイルス感染防止対策
- ・清掃活動などでは手手や清掃用トングを用いる
- ・現地での危険物の有無などの事前確認の徹底
- ・怪我をしないようプラスチック材料の加工を工夫

DELIVERABLE

成果物／制作物



活動紹介資料

05 とよさと快蔵プロジェクト



空き家改修とまちづくりに参加しよう！

豊郷町に残っている空き家や蔵を学生の発想を生かして改修し、活用することで町を元気にしていこうと活動しています。古民家の改修だけでなくとまらず地域のイベントへの参加やイベント企画、蔵を改修した Bar 運営、古着のリメイクなど幅広い活動を行っています。

TEAM DATA

チーム名：	とよさと快蔵プロジェクト
代表者：	河野麗、小林翔生（環境科学部）
メンバー数：	81 名
指導教員：	迫田正美（環境科学部）
活動場所：	滋賀県犬上郡豊郷町
関係団体：	NPO 法人とよさとまちづくり委員会
近江楽座活動年度：	2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 改修事業



夏合宿でたく庵を改修（09/18）

(2) 快蔵 20 周年記念イベント

★見出し写真：イベントの様子（11/18）

(3) まちのイベントへの参加



酒蔵祭りに参加（04/29）

(4) タルタルーガ運営

(5) redon（古着リメイク）の活動

(6) ワークショップ事業

1 年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度は、とよさと快蔵プロジェクト設立 20 年目の年であり、先輩方の活動を振りかえり、団体の運営・活動体制をより良くすることをテーマに設定し活動を行った。

昨年度から引き続き活動拠点であるたく庵の改修、過去に携わった物件の改修、タルタルーガ運営、redon 事業、ワークショップ事業、まちのイベントへの参加を行った。改修作業やタルタルーガの運営では活動に携わって頂いている方々と意見交換を行い、事業の内容や活動体制を改めて整えていくことができたと感じる。redon 事業やワークショップ事業では学生自ら企画・運営を行い、湖風祭や報告会などを通して、成果物を発表する機会を設けた。事業を通して、ものづくりの難しさや楽しさを実感し、より多くの学生に参加してもらえるような仕組みを整えていくことが今後の課題であると考えている。

感染症の影響から中止になっていたまちのイベントも再開し、企画段階から携わらせていただいた。イベントでは出店や展示企画を行い、プロジェクトの活動を知ってもらう機会作りを行った。

20 周年記念イベントでは、部門ごとにグループを分け、過去の困難や活動の課題点などを共有し発表をした。多くの部門で挙げられた課題として、活動に参加している学生が固定化していることが挙げられた。多くの学生に参加してもらいたいという意見もある一方、大人数の活動になると注意事項や連絡事項などが伝わりにくく活動に支障が出る可能性があるという意見もあった。情報共有や報告をしっかりと行い、活動がより活性化する活動体制を整えていく必要があると考えている。また先輩方の活動を振りかえることで、改修事業、イベント事業だけでなく、どの活動もたくさんの方々の協力や支えがあって活動できていることを改めて実感できた。感謝を忘れず、今まで築いてきた関係をより強固なものとし、まちの方と一緒に豊郷町を盛り上げていきたい。

活動を通して学んだこと

周りの人と協力して必要なことを考えたり、物事を進めたりして色々な力がついた。他学部や他学年と仲良くなることができ、楽しく活動することができた。普段の改修や集まり、夏合宿を通して、1回生や3回生、4回生、社会人の方ともお話しすることができ、興味の幅を広げることができた。

綾部仁子（生活デザイン学科2回生）

今年はコロナによる制限が減り、イベントの開催が多くなったり、20周年の企画があったりと様々な活動をする事ができた一年であった。学生だけでなく、まちの方々と連絡を取り合うことも多くあり、言葉遣いや連絡の仕方など1年を通して反省点も多くあるが、様々な機会から良い学びの場となった。

河野麗（環境建築デザイン学科3回生）

とよさと快蔵プロジェクトの活動は、地域の方々の理解や協力なくしては成り立たないものだ実感する機会が多くあった。次年度の代表をするにあたり、自ら積極的にまじに関わり、まちを知ることが重要だと感じた。改修作業だけでなく、地域のお祭りに参加したり、バーの運営を行ったり、地域の方々と交流する機会はたくさんある。残りの大学2年間、しっかりと責任をもって活動に励みたい。

中本空（環境建築デザイン学科2回生）

今年度は代表、会計という役職に就き、活動内容の決定や予算計画、イベントの企画など初めての経験が多く大変であった。計画通りにならないことも多々あったが様々な場面で多くのひとと関わり、たくさん勉強させて頂いた。学生やまちの方から感謝の言葉を頂き、とても充実しやりがいのある一年であった。

小林翔生（環境建築デザイン学科3回生）

地域からのコメント（抜粋）

NPO 法人とよさとまちづくり委員会 理事長

北川稔彦さん

コロナもあけて少しずつではありますが、以前のような生活が多少形を変えながらも戻ってきています。そんな中、吉田地区にある古民家「たく庵」を改修する活動を進めてくれています。11月には20周年イベントを開催し、OBの方々もつめかけて賑やかに開かれました。地域のイベントへの参加、かつて改修したシェアハウスの物件に住んでくれたり、bar タルタルレーガを平日も運営する日を増やして地域の人たちとの交流出来る機会を積極的に作り、活動を進めてくれている事をありがたく思います。

NPO 法人とよさとまちづくり委員会 副理事長

岡村博之さん

コロナで長い間の活動制限がようやく解禁されました。しかしこの期間は長く環境は大きく変わり、長年かけて創り上げてきたものや人と人との関係が希薄になる中で、今年も変わらず豊郷町に通い続けてくれた快蔵メンバーやご理解いただいている県立大学に感謝いたします。

今年も各地域の事業や会議の運営に参加して頂き、町にとって欠かせない存在です。皆さんの活動は地域に住む人に影響を与え、今年も町にU・Iターン組が目に見えて増えています。コロナでいろいろなことが一変し、今まで普通にできていたことが、明日も同じようにできるとは限らない。その中で時間だけは同じように進んでいきます。大学の4年間も限られた時間かもしれない。その貴重な時間を、これから一緒に活動していければ幸いです。

指導教員より

環境科学部 迫田正美

20周年という節目の年でもあり、OBOGとの交流も図れたことでこれまでの歩みについても意識を新たにできたのではないかな。新型コロナウイルスへの感染対策が緩和されていく中で、新たな活動も展開できていることはとても良かったと思う。

ウィズコロナの期間の活動制限が緩和されていく中で、活動の自由度は大きくなるけれど、地域の方々と関係を大切にし、チーム内の風通しを良く保つという基本を忘れずに活動を継続していけるよう常に気を引き締めてほしい。

リスク安全管理の取組

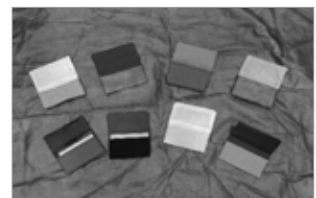
- ・危機対応マニュアルによる安全管理

DELIVERABLE

成果物／制作物



Bar タルタルレーガ「夏湖風祭」チラシ



古着リメイク「redon」名刺入れ

<その他成果物>

「たく庵」改修

06 未来看護塾



地域に住む方に健康と福祉を！

地域に住むさまざまな人々との交流や病院でのリラクゼーション活動などの健康支援活動を通じて、心も身体も健康にその人らしく生きることを志向するとともに、未来の看護のあり方を考えていきます。

TEAM DATA

チーム名：未来看護塾

代表者：安部智華（人間看護学部）

メンバー数：251名

指導教員：伊丹君和、米田照美、関恵子、千田美紀子（人間看護学部）

活動場所：学内、彦根市

関係団体：彦根市立病院、NPO 法人ぽぽハウス 他

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

- (1) ピバシティ彦根「ちびっこ広場」
★見出し写真：イベントの様子（05/07）
- (2) 同「応援！生き生き健康生活」
- (3) 湖風夏祭「ちびっこ広場・肌年齢」
- (4) 「田の浦」ボランティア



ボランティアで参加（08/08）

- (5) 野瀬町防災訓練
- (6) 「健康しが」健康づくり支援活動
- (7) 彦根市立病院 ボランティア
- (8) 城南小学校 ボランティア
- (9) どんぐり県大前保育園 ボランティア
- (10) 特定非営利法人 NPO ポポハウス / はばたき ボランティア

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度の活動まとめとして、キーワードとなるのは「共有」であると考え。感染症の影響により活動が制限されていたことから、活動経験者が少ない中、活動をどのように進めていけば良いのかわからずOBの方や先生から情報を集め活動を行なった。

先生の紹介から今年度の新たに挑んだのが「健康しが」の活動である。これまで行なっていた未来看護塾としての活動もある中で、「健康しが」の取組に募集することは、すごく大変なことであったが、地域の高齢者の方に少しでも元気を与えることができ、学生で事業を提案・準備し実施できたことは自分自身を成長させ、強みになったと考える。過去に、学生が計画するイベントが行われていたことと比べると活動内容は変わったが、時代や地域の方のニーズに合わせた学生ボランティアを行うことができた。そのため「地域のさまざまな人々が心も体も生き活きと健康な生活が送れるよう支援する」という未来看護塾の目的に沿った活動ができたと考える。定期的なボランティアも再開し、地域の方から依頼いただいた活動にも多数参加し、様々な場所で貢献することができた。

今年度の活動の課題として、参加学生の固定が目立ったことや情報の共有不足から予定していたイベントを行うことができず、組織の運営に問題があったことが挙げられる。ボランティアに参加することは、地域を身近に感じることができ、看護学生として何ができるのかよく考える機会となる。また、人と関わることの楽しさを実感し、ボランティアのやりがいを感じることができる。そのため、より多くの方が参加し、自分を成長させるきっかけにしてほしい。ボランティアを終えた後に周りのメンバーと情報を共有する機会を設け、組織を円滑に運営することに繋げていきたい。また、月の1回のミーティングや広報を大切に、「共有」することの大切さを後輩に繋げていきたい。そして、今年度繋がってくださった沢山の縁を大切に、地域の方の健康をサポートしていきたい。

活動を通して学んだこと

大学内では関われない幼い子からお年寄りまで幅広い年代の方と関わり、相手に合わせた話し方や接し方を学ぶことができました。授業ではできない学びや経験ができることが未来看護塾の良さだと思いました。これらの活動を今後の看護に活かしていきたいです。

饗庭みらい（人間看護学科 2 回生）

今年度は、コロナが緩和する中で、様々なボランティア活動に参加して、直接地域の方と交流する機会が多くなりました。改めて、人と関わるのが楽しいことに気づくことができました。また、多くの方の支えがあって活動を続けることができるため、感謝の言葉を忘れないように活動を続けていきたいです。

安部智華（人間看護学科 2 回生）

人と関わることの楽しさを改めて実感しました。地域の高齢者の方々の生の声を聞き、自分の看護師像を広げることができたため、良い経験となりました。患者さんに寄り添える看護を目指し、今後の学習に生かしていきたいです。

橋本愛里（人間看護学科 2 回生）

地域からのコメント（抜粋）

ビバシティ彦根 企画マネージャー 河村慎二さん
（イベントの協同主催者）

2 回のイベントを通じて感じたことは、リーダーの方を中心に、計画から運用まで自身の手でやり遂げる責任感、チームワーク、そしてみんなの素敵な“笑顔”でした。心からの笑顔はみんなを幸せな気分にもさせてもらえます。そんな皆さんの精神を後輩の方たちが引き継いで更なる「未来看護塾」の成長へとつながると感じております。

指導教員より（抜粋） 人間看護学部 伊丹君和

未来看護塾は、結成以来 20 年間「近江楽座」のプロジェクトチームとして活動を継続しています。

新型コロナウイルスが 5 類に移行し、やっと通常の活動が戻りつつあります。しかし、長かったコロナ禍での活動自粛によって、先輩からのバトンが途切れたものも多くあります。学生たちは手探り状態ではありますが、新たに自分たちにできる活動は何か、どうしたらできるかを模索しています。そのプロセスこそが大切だと思っています。昨年は、滋賀県の「健康しが」の活動助成金も獲得し、新たな活動の場を拡げるとともに、多くの学びを得ることができました。本当に頑張っていると思います！小規模でも地域での活動を継続していくことに意義があります。次々と活動のバトンを繋げていけるよう、私たち顧問（教員）も陰ながら支援していきたいと思っています。

このような「近江楽座」の活動は、地域課題の解決とともに、学生の自ら学ぶ力、それぞれの専門分野への興味・関心や知識・技術を高めるものであり、教育的な効果も大きいと考えています。各プロジェクトにおける学生間の縦と横のつながりの関係性はもちろん、地域住民との関係性など、自ずと社会性やコミュニケーション力の向上にもつながります。また、悩み試行錯誤を重ねながら企画実施する中で、実行力と豊かな感性をも育んでいます。

リスク安全管理の取組

- ・怪我をしないように、周囲の安全確認や物の扱いの注意
- ・はさみやカッターなどの安全利用
- ・移動手段の把握、帰宅後の活動報告、怪我などの有無の確認
- ・通常活動における感染防止対策の徹底
- ・イベント時における対面や接触による感染リスクの低減

DELIVERABLE 成果物／制作物



「応援！生き生き健康生活」ポスター

<その他成果物>

「ちびっ子広場」遊具



エコでスローな夜を

お寺などから使えなくなったろうそく、「残ろう」をいただき、それを再利用してリサイクルキャンドルを作り、キャンドルナイト、キャンドル作り教室、キャンドル販売などを行っています。自分たちで運営資金をまかない、独自予算で活動しているSプロジェクトとなって9年目になります。

TEAM DATA

チーム名：あかりんちゅ

代表者：太田恵里佳（人間文化学部）

メンバー数：17名

指導教員：平山奈央子（環境科学部）

活動場所：学内、彦根市、滋賀県内 他

関係団体：滋賀教区浄土宗青年会

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

- (1) 西京市立田無第四中学校修学旅行生の受入
- (2) おおたき・ものづくりラボとのコラボ
- (3) 湖風祭
- (4) 彦根銀座商店街キャンドルナイト
★見出し写真：キャンドルナイトの様子 (07/29)
- (5) 第3回ヨシフェス
- (6) 開出今団地でのワークショップ
- (7) 滋賀県立大学生協ショップ キャンドル販売
- (8) 新入生向けクラブ紹介
- (9) あかりんちゅ新歓
- (10) にちようびの寺子屋
- (11) キャンドル作り体験教室@三井アウトレットパーク
- (12) あかりんちゅ交流会
- (13) 作品展示@喫茶おとくらギャラリー輪々
- (14) 毎日新聞地球未来賞 奨励賞受賞
- (15) 廃ろう回収、ティーライトキャンドル製造委託、キャンドル製作

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度の初めに掲げた目標が3つある。一つ目は「参加メンバーを増やすこと」、二つ目は「購入してもらえるキャンドルの開発」、三つ目は「キャンドルナイトの際のガラスの使い方を見直し、割れないように工夫すること」であった。一つ目に関しては、お菓子パーティーやミーティングをすることでメンバー間の交流を増やし、仲を深めるなど、活動に参加したいと思える雰囲気づくりに取り組んだ。結果として、前年度よりイベントや定期製作への参加率は増加した。二つ目については、新たにアロマキャンドルやガラスキャンドルを製作し、手に取りたくなるような可愛くて、目を引くキャンドルの開発に取り組んだ。イベントでの販売額は思うように伸びなかったが、大学の生協ショップでの販売では、アロマキャンドルや豆大福キャンドルなどが売れ、少しずつではあるが手に取ってもらえるキャンドルの開発が進んでいると思う。三つ目については、あまり取り組むことができず、キャンドルナイトの際にガラスが割れてしまうことが多かった。ガラスの使い方が原因の場合もあるが、劣化が進んでいることも考えられる。新たにガラスを調達することも視野に入れる必要があるかもしれない。

これら三つの目標に加え、今年度は毎日地球未来賞という名誉な賞をいただけた。資源を工夫して有効に使う意義を伝え、環境について考えるきっかけを作るというあかりんちゅの活動を、地球未来賞を通して多くの方々に知っていただくことができた。また、評価していただける活動であると認識できたことで、より誇りとやる気をもって活動に取り組むことができるのではないかと感じた。

課題としては、新たな取組を行うとき、代表と副代表の負担が大きくなってしまふことがあると感じた。また、和蝋燭をいただく機会が増えたため洋蝋燭だけでなく和蝋燭の活用方法を模索する必要がある。

活動を通して学んだこと

今年度は湖風祭やさまざまなイベントで地域の方と関わることができ、人と人との交流の大切さを学んだ。また、大学内でのキャンドル販売も始まり今までよりも多くの方にあかりんちゅの活動を知ってもらうことができたと思う。今後も多くの方との繋がりを大切に活動していきたい。

安藤楓（国際コミュニケーション学科 1 年生）

たくさんの人とコミュニケーションを取ることができた。キャンドル製作体験・販売を通して小さい子どもと関わり合う機会があった。小さい子どもにキャンドルの作り方をわかりやすく伝えるため同じ目線でコミュニケーションを取ることを心がけた。様々な人と出会い貴重な経験ができた。

井上七海（環境政策・計画学科 3 年生）

物を無駄なく大切に使うことの重要性を実感した。普段の生活の中でも物の利用方法を意識するようになったので良かったと思う。また、子どもとの関わりの中で子ども達に喜んでもらうことの嬉しさを感じると共に、怪我をさせないよう安全面に配慮した。

福永希咲（生物資源管理学科 1 年生）

地域からのコメント（抜粋）

まるやまの自然と文化を守る会 宮尾陽介さん
（ヨシフェス主催者）

私たち「まるよし」とあかりんちゅは、ヨシフェスの第1回からの付き合いです。むしろ、あかりんちゅに所属されていた方の発案でヨシフェスが生まれたので、あかりんちゅは私たちにとって特別な存在です。第1回のヨシフェスは「とりあえずやってみよう！」という精神で挑み、失敗もたくさんありましたが、良かったところや反省すべき点を踏まえ、次回にどう生かすか、といったところまで一緒に関わっていただき本当に心強かったです。ヨシの花言葉が「音楽」であるということも、あかりんちゅの方に教えてもらい、琵琶湖よし笛の演奏にもっと着目してもらうための構成を考えたのが第2回、そこからさらにヨシを五感で楽しんでもらえるような企画を盛り込んだのが第3回、と年々進化を遂げてきました。今後、近江八幡市内のお寺から出る残蠟をリサイクルする取組も検討しており、あかりんちゅ自体の活動というよりは、リサイクルキャンドルづくりのノウハウをあかりんちゅの方からご指導いただき、私たち自身が自地域で展開することも必要ではないかと考えています。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

指導教員より（抜粋） 環境科学部 平山奈央子

本年度は特に、年度初めに明確な目標を掲げ、メンバーがそれらの目標を共有した上で活動を進められたことがよかったと思います。目標の達成度についてはうまくいかなかったことや今後工夫が必要なものもあるかと思いますが、そのプロセスやノウハウの蓄積そのものが重要であると考えます。また、これまで通りお寺さんやジョブカレさんとのつながりを大切に、残蠟のご寄付やキャンドルづくりなど継続した関係性を築けていることも大変良いことだと思います。さらに、それらのつながりをベースにしつつ、多くの活動で他の学生団体や地域の活動団体・コミュニティ活動・商店街などとの連携が広がっていることがあかりんちゅのメンバーにとって学びの機会となっているのではないのでしょうか？それら活動の一つ一つに対して成果や課題を取りまとめ、今後さらに豊かな活動になっていくことを期待します。

最後に、これまでの活動が評価され毎日地球未来賞を受賞したとのこと、大変喜ばしいことです。この受賞は現メンバーだけではなく、これまでの先輩方の活動も合わせて評価された結果で、あかりんちゅ内部の結束や日頃お世話になっている方々への感謝が深まったことと思います。今後も活動メンバー間や一緒に活動を実施するお一人お一人との関係を大切に、活動を継続してもらえればと思います。

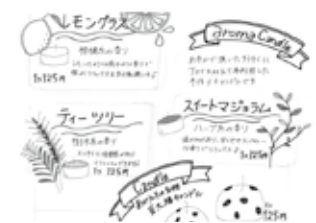
リスク安全管理の取組

- ・WS やイベント前の動線確保確認
- ・火傷をしない・させない
- ・ガラスが割れた場合の迅速な対応
- ・感新型コロナウイルス染防止対策の徹底
- ・感染が起きにくい環境づくり

DELIVERABLE 成果物／制作物



竹キャンドル



大学生協ショップ キャンドル販売用 POP

<その他成果物>

- 活動紹介チラシ
- 定期製作・新歓イベントチラシ
- 湖風夏祭チラシ
- 開出今団地イベントチラシ
- 「喫茶おとくらギャラリー輪々」展示チラシ

08 かみおかべ古民家活用計画



地域よし×学生よし×家主よし

彦根市上岡部町にある古民家で「地域よし×学生よし×家主よし」の三方よしの古民家活用プロジェクトを展開しています。古民家を地域交流の場、学生の学びの場として活用するため、改修作業、交流イベント、ひょうたん栽培・加工・販売など様々な活動を行っています。

TEAM DATA

チーム名：かみおかべ古民家活用計画

代表者：瀧澤正真（工学部）

メンバー数：19名

指導教員：林宰司（環境科学部）

活動場所：彦根市（上岡部町）

関係団体：上岡部町自治会、滋賀県愛郷会、ベストハウスネクスト株式会社

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 古民家イベント事業

★見出し写真：流しそうめんの準備（08/19）

(2) 上岡部町自治会共同イベント事業

(3) 古民家改修事業



浴室の改修（08/12）

(4) ひょうたん事業



ひょうたんの販売（05/12）

(5) 「ひこねで朝市」のボランティア

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度の申請時の目標は、イベント事業を定期的なものとして根付かせて地域の人とのつながりを育むことであった。この目標に対して、今年1年間で非常に大きな成果を出したといえる。自治会との協力体制の基盤をつくることができた。空き家として朽ちていくはずだった古民家をコミュニティスペースとして有効活用し、地域のために役立てることができた。また、コロナで失われたつながりを再び取り戻すことができた。古民家を活用したイベント事業には大いに将来性があるため、当団体の活動の軸とし、今後も継続していくつもりである。

ひょうたん事業については、新商品の開発が想定していた以上に技術的に困難であったため、実現できなかった。郷土野菜栽培事業に関しては、管理できるメンバーがいなかったため、断念した。1年間でできるだけ多くの事業に取り組む予定であったが、申請内容に忠実に事業を展開することはできなかった。また、新しい取組を進めていく中、役割分担などの組織としての体制が整っておらず、当団体の運営を主導する学生メンバーが少数であったため、多忙な学生生活の中、事業を並行することは非常に大変であった。申請時は様々なジャンルの事業に取り組むことを目指していた。しかし、得意とする事業に注力し、その幅を広げ、より深いものへと追求することも大事なことだと気づいた。事業をすべて成功させることはできなかったが、コロナによる規制で廃れていた当団体の活動を復活させ、強みと弱みをはっきりさせることができ、次への成長につながる有意義な一年であったと感じている。

今後も、地域活性化に貢献する「地域よし」、事業を通して学生が楽しみながら学ぶ「学生よし」、家主の意向に沿って古民家を活用する「家主よし」を達成する事業を続け、当団体のモットーである「地域よし×学生よし×家主よし」の三方よしを基に活動を展開していく。

活動を通して学んだこと

地域の方に楽しんでいただくために、イベントを開催する側としてどんな言動が適切なのかということと、学生と地域のつながりだけでなく地域の方同士のつながりの重要性を学んだ。古民家改修とひょうたんの栽培・加工にあまり参加できなかったので、来年度は積極的に参加したい。 **芦田琴美**(生活デザイン学科1回生)

古民家があることで地域の方々やサークル内の仲を深めることができる、憩いの場になるということだ。古民家でほぼ毎月イベントを行い、地域の方々を招いた。サークル内では古民家の改修や掃除、古民家で一緒にご飯を食べることで仲が深まった。

山北麗奈(人間看護学科1回生)

当プロジェクトの代表を務める上で、メンバーの喜ぶ姿を見ることが私にとって何よりも一番のモチベーションであった。代表者として背負うものの多さに悩むこともあったが、組織のリーダーを遂行するという貴重な体験をすることができ、また仲間とのかけがえのない思い出をつくることができた。 **瀧澤正真**(電子システム工学科3回生)

子どもから老年期の方まで多様な世代の地域の方々と広い古民家を活用し交流することで、様々な世代の方とのコミュニケーションの取り方を学んだ。ひょうたん作りを実際に体験したり、作品を見せて頂いたりして、伝統工芸品について知ることが出来た。

竹内香乃(人間看護学科1回生)

3年間の古民家改修プロジェクトを通して、企画・実行の難しさを学び、地域住民の方々との関わりから地域の重要性を再認識した。歴史と文化を継承する古民家は地域活性化の鍵となる可能性を秘めている。今後も地域と連携し、古民家再生を通して社会貢献していきたい。 **太田黒智景**(電子システム工学科3回生)

今年の活動は地域の方々と月に一回イベントを行なっており、つながりを強めた一年間だった。しかし、良かれと思って行っているイベントに不満も言われるようになった。なので、今後どう地域の方々と接すれば、よりよい関係でいられるか考えさせられた。

辻井大地(電子システム工学科3回生)

地域からのコメント

上岡部町自治会長 **赤田善弘**さん

(上岡部町の地域行事の案内をしていただいた)

子ども会の子どもと親が、古民家活用計画の1年間の行事に参加し、楽しく、親しく過ごさせてもらいました。

指導教員より

環境科学部 **林宰司**

コロナ禍において縮小していた活動の大部分を回復できたようです。拠点である古民家から外へ出ていく、外に向けて発信する活動がまだまだ課題であると思います。集落内には独居老人世帯もあるかと思いますが、そうした世帯をどのようにコミュニティに巻き込んでいくかということも課題として考えてみて下さい。また、近江楽座の他団体とコラボレーションを行うことによってできることが増えるものもたくさんあると思いますので、検討してみてください。

リスク安全管理の取組

- ・活動安全マニュアルを作成
- ・新型コロナウイルス感染防止対策の徹底

DELIVERABLE

成果物／制作物



ビザ窯



ひょうたん

<その他成果物>

浴室水栓改修



ヴォーリスから学び、次世代へ！

滋賀県近江八幡市を拠点に活躍した建築家、W.M. ヴォーリスを現代的な課題である環境共生やSDG sの視点から再評価することを通して、ヴォーリス建築の保存活用の推進と近江八幡市のまちづくりに貢献することを目的に活動しています。

TEAM DATA

チーム名：ヴォーリス研究会
代表者：石川博利（環境科学研究科）
メンバー数：13名
指導教員：金子尚志（環境科学部）
活動場所：学内、近江八幡市
関係団体：学校法人ヴォーリス学園

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

- (1) 展覧会「建築図面展 VORIES- 窓と光の対話 -」の企画・運営



建築図面の展示（02/23）

- (2) 展覧会開催に伴う記念シンポジウムの企画、運営

★見出し写真：シンポジウム 1日目の様子（02/17）

- (3) 輪読会

- (4) ヴォーリス建築の調査・見学



ヴォーリス学園との会議（12/28）

- (5) “近江八幡ヴォーリスストリート・スタンブラリー”のデジタル化

- (6) Instagram・お便りによる活動報告・告知

- (7) 活動成果発表

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

本年度は、展覧会「建築図面展 VORIES- 窓と光の対話 -」を企画・運営し、建築図面の迫力や魅力を発信しました。これまでの活動成果を示す集大成として位置付け、準備を進めました。これまでの活動で築き上げた関係者の皆様との信頼関係があつてこそ実現させることができた成果だと思います。展覧会のイベントとして開催した記念シンポジウムでは、山形政昭先生や嘉田由紀子前滋賀県知事をはじめとする有識者の方や一般の方に至るまで、広くさまざまな視点から意見交換をすることができ、大変貴重な学びの機会となりました。また、会期中の在廊では、来館者の方からヴォーリスや展覧会についての率直な意見をいただくことができ、多くの発見と今後の課題を得ることができた大変有意義な時間となりました。また、昨年度に引き続き、ヴォーリス建築を活用した取組を行うことができ、「ヴォーリス建築も展示の要素として計画する」という視点は極めて重要な視点であり、今後の保存活動運動の主題のひとつであると考えています。

本プロジェクトは、地域の大学として、ヴォーリスや近江八幡市のまちづくりに継続的にコミットすることで、双方に学びの機会を提供することができていると考えてきました。「ヴォーリス研究会」の名のもと、独自の視点やスキルを持って活動し、一定の成果を上げることができたという自負がある一方で、ヴォーリスやまちに対する全般的な知識量や愛情においては、これまで活動を支援して下さった方々に劣る部分も多々あり、いつも有益な助言をいただきます。しかし、「ヴォーリスっておもしろい、何かコトを起こしたい」という純粋な気持ちや熱意においては負けず劣らず強く持ち続けてきたからこそ、ヴォーリス研究会の活動を厚く支援いただけたと感じています。この場をお借りして関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

活動を通して学んだこと (抜粋)

ヴォーリズの“FULL SIZE”と書かれた現寸図面を見た時、私は衝撃を受けました。大きくても1/25サイズである自らの設計の稚拙さを痛感しました。そんなヴォーリズの図面から、「現寸大で考えるほどに、住まい手の生活をどこまでイメージできるかが大切である」ということを学びました。

木下岳空 (環境建築デザイン学科 3 回生)

展覧会の開催によって、人に寄り添う建築のあり方をより広い視野から考えることができました。来場者がヴォーリズが目指した建築像について考え、新たな視点で意見を交換できた体験は非常に貴重なものになりました。また、Instagramを活用した活動発信は、多くの方々に私たちの活動を知ってもらえかけとなると同時に、日常的な活動の様子を届ける有力な手段であることを実感することができました。

桑原春香 (環境建築デザイン学科 4 回生)

日々、「ヴォーリズを最大限に伝えられる展示は何だろう…」と難しい課題に取り組み、様々な関係者の支援によって、その課題が解決できたように思います。この展覧会は近江八幡の方々と共に作り上げた展覧会と言っても過言ではありません。先輩方が築き上げたコミュニティや信頼すること、されることの重要さを再認識する展覧会になりました。

寺下響 (環境建築デザイン学科 3 回生)

今年度から近江楽座として新たなメンバーを迎えて活動を行いました。学年をまたいで様々なアイデアが飛び交い、それらが重なることで図面展という成果が実現できたと思います。また図面展の企画や協議会への参加など、地域に対して本研究会の活動を広く認知してもらえる重要な1年になったと感じています。

中谷祐紀 (環境科学研究科環境計画学専攻 2 回生)

地域からのコメント (抜粋)

学校法人ヴォーリス学園理事長 藤澤俊樹さん

(事業①の協同主催者)

論語の「後生畏るべし」を実感しています。今年はハイド記念館で、「建築図面展 VORIES」では、ヴォーリズの原図を撮影し、その映像(スライド)や模型等の展示会を実現してくれました。金子尚志教授のご指導の下、ヴォーリス建築の窓に着目し、そこから彼の思想に迫る鋭い切り口の展示会となりました。トレーシングペーパーをスクリーンに使うなどの斬新な発想や展示会を記念したトークイベントでの学生さんの活躍に専門家もタジタジなど、まさに「後生畏るべし」。「先生」も頭張らなければ・・・。

あきんど道商店街振興組合理事長 藤井勝さん

(事業⑤の協力団体、事業①の後援団体)

旧近江八幡郵便局やアンドリュース記念館など、商店街内にヴォーリス建築が所在している私どもの商店街にとって、ヴォーリス建築を研究する皆さんの専門知識や情熱、そして若々しい感性に触れることができ、新たな気づきや活気をもたらしてくださりました。今後もヴォーリス建築やそれを育んできた近江八幡の地域環境などについて、研究や活動に励まれ、益々活躍されますことを心よりご期待申し上げます。

指導教員より

環境科学部 金子尚志

本研究会は学生たちの自主的な活動から始まりました。滋賀県立大学と近江八幡の関わりはこれまでも様々な視点で存在していましたが、W.M.ヴォーリスと近江八幡に着目した点が特徴で、それぞれの想いを持って集まったのがきっかけでした。私はそこに価値があると考えています。ひとり一人の想いが重なることによって大きな動きになり、そこに共感した人がさらに集まることで現在の研究会となっています。地域の大学が、学生・教員の専門性を活かし、自主的な想いと行動を動力にして、地域活性化への貢献を果たすという視点で、近江楽座の思想に合致したものでもあると思います。

ある時はヴォーリズの視点から近江八幡市街地を逍遙・熟考し、ある時は近江八幡の市街地の様子からヴォーリスという人物像と思想を探り、視点を移動しながら活動することを心がけてきました。ヴォーリスが後世に残した多くの建築を掘り所として、多様なつながりを発掘するかのような活動が研究会の軸となっています。没後60年という節目の年に、ヴォーリス建築図面展を開催したことが、これからのヴォーリスと近江八幡を考えるための嚆矢となることを期待しています。

リスク安全管理の取組

- ・新型コロナウイルス感染防止対策の徹底
- ・文化財保護の配慮
- ・安全運転
- ・指導教員への活動報告

DELIVERABLE

成果物／制作物



「建築図面展 VORIES- 窓と光の対話 -」
「言葉のカーテン」展示



「建築図面展 VORIES- 窓と光の対話 -」告知用ポスター

<その他成果物>

建築図面展示
窓の実寸模型

10 フラワーエネルギー「なの・わり」



資源循環型社会のモデル化

菜の花やひまわりを栽培し、種から油を搾り、その油からバイオディーゼル燃料を生産、使用することで資源循環型社会を形成することを目標に活動を行っています。また科学実験教室や出前授業を開催し、子どもたちに科学の楽しさやエネルギーの大切さについて知ってもらう活動をしています。

TEAM DATA

チーム名：フラワーエネルギー「なの・わり」
代表者：吉田史彦（工学研究科）
メンバー数：16名
指導教員：山根浩二、河崎澄、出島一仁（工学部）
活動場所：学内、彦根市（石寺町）
関係団体：菜の花プロジェクトネットワーク
近江菜座活動年度：
2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 菜の花・ひまわり栽培

★見出し写真：学園内畑でひまわり種採集（10/13）

(2) 湖風祭



県大産菜種油で揚げたフライドポテト（11/04）

(3) 豊郷町隣保館出前授業



授業の様子（12/06）

(4) 高大連携授業支援

(5) リスク安全マニュアル作成

(6) ブログやSNSでの広報活動

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

ひまわりの栽培については、昨年同様、多くの花を咲かせることができた。土壌環境等は問題がないと思われるが、育ってきた後の水やりの量を考える必要があると感じた。また、ひまわりの種を有効に使えていないため、次年度は適切な形で使ってほしい。

菜の花の栽培については、近年で最も豊作で、58.6kgと喜ばしい量を収穫することができた。しかし活動できる人材が不足していたため収穫作業は大変であった。今後は当団体のキャパシティを考え、種を蒔く量を決めてもよいと思う。

湖風祭では部員が協力し、とても士気の高い中でイベントに取り組むことができた。大量に採集できた菜種から14ℓもの油を手に入れることができ、お客様とも共有できた。しかし、調理が忙しく、当団体の宣伝活動がおろそかになったことが悔やまれる。来年度は、効果的な宣伝が打てる方法を考える必要がある。

豊郷町隣保館でのイベントでは、バイオマス燃料を用いて動力を得られることを多くの方に実感していただける貴重な機会となった。小学生だけでなく、大人の方にも関心を持ってもらい、バイオマス燃料について詳しく話をすることができた。バイオマス燃料でゴーカートを動かす様子が多くの新聞に記載され、より多くの方に活動の宣伝ができた。

総括として、今年度は主に菜種の収穫により、廃食油を作るに至るまでの資源循環型社会のモデルの一部が再現できたことが嬉しかった。来年度以降も活動の広報に力を入れ、地域へ発信し、たくさんの方・団体との「つながり」を大切に守っていききたい。

活動を通して学んだこと

学内でひまわりを育てた。雑草を刈り、畑を耕すところから成長したひまわりを収穫するとこれまで全部自分たちの力で、農業の大変さを学ぶとともに、メンバーと協力して一つのことをやり遂げる楽しさを知った。また湖風祭で模擬店を出したり、高大連携講座で高校生にバイオディーゼルについて教えたりと貴重な経験ができた。

井本匡哉（機械システム工学科4回生）

作物を育てることの大変さを学んだ。また、湖風祭の模擬店では自分たちで育てて収穫した菜種からとれた油を使った揚げ物を多くの方に手に取っていただくことができ、とても良い経験ができた。

横江駿介（工学研究科機械システム工学専攻1回生）

「なの・わり」のような活動を行ったのは初めてで作物に関しては知らないことだらけだったが、作物の成長過程や植物油の採取など、いろいろな知識が身についた。「なの・わり」をはじめとした環境活動に興味を持つ良いきっかけとなった。今後も環境活動に携わりたいなと感じた。

森川貴寛（機械システム工学科4回生）

今年度は、昨年植えた菜の花から菜種を収穫し、搾油した菜種油を湖風祭の模擬店で揚げ油として使用した。菜種の収穫量は非常に多かったため大変ではあったが、自分たちで育てた菜種から実際に油を採り、食用として利用できたことは心に残る経験であった。活動を通して、普段資源を当たり前のように使っているありがたさを感じた。

横山友輝（工学研究科機械システム工学専攻1回生）

地域からのコメント（抜粋）

豊郷町隣保館 教育担当 松尾甚吾さん

放課後に地域の子どもたちが集う隣保館で、今年はバイオマスエネルギー（ひまわり油・菜種油）を使ってゴーカートが動く様子を見せていただいたり、実際に小学生に運転させていただいたりしました。当日は、およそ40名の子どもたちが参加し、実際に動くゴーカートや力強いエンジン音に興味津々でした。また、去年のイベントを覚えている子どもたちもいて学生さんと地域のつながりを強くできてよかったです。興味を持った子どもたちが、環境に優しいことを自分たちもやろうと意識してくれると嬉しいです。

NPO 法人愛のまちエコ倶楽部 伊藤真也さん

（湖風祭での活動の様子を見て）、盛況の中たくさんの方に、「菜種油」「バイオディーゼル燃料」の本物に触れる機会を作り、なおかつ、なの・わりの皆さんが楽しそうに資源循環に取り組んでおられる様子も頼もしく思いました。

指導教員より（抜粋）

工学部 山根浩二

本年度の良かった点としては、コロナ禍ではできなかった、いろいろな取組を実施できたことです。なお、従来実施していた小学校へ出向いて行う出前授業が無いのが残念です。滋賀県内の子どもたちは、小学3年で校内の花壇に菜種を植え、4年生で刈り取り、5年生になって菜の花バイオディーゼルで動いている環境学習船「うみのこ」に必ず乗船することになっていて、一連の資源循環型のエネルギー社会実験が実施されています。その一環を「なの・わり」が担えるというのではないかと思います。また、これまでの取組に加えて、新たな取組を考えてみてはどうでしょうか。例えば、搾油したあとの菜種やひまわりの種の絞り粕をバイオプラスチック素材に加工することを試みてはどうでしょうか。これは彦根工業高校の「マイスター・ハイスクール」で実証済みで、ネームプレートや銘板などに加工され、小倉百人一首に仕上げられて滋賀県の「ふるさと納税返礼品」にもなっています。彦根工業高校と協力して新たに取り組んでみてはいかがでしょうか。

工学部 河崎 澄

菜種油を育て、食べ、エネルギーとして再利用する様々なステージで、地域の方々との協働、学び、レクリエーションを行えたことで、地域の方々とはもとより、メンバーにとって実りある経験になったのではないかと感じました。研究活動と地域ボランティア活動の両立には、時間確保やメンバーの温度差など難しいこともあったと思います。自分たちにとって、まずはおもしろく、そして成長につながる活動を期待します。

工学部 出島 一仁

「なの・わり」の活動を通じて得られる経験を糧として、成長へつなげてもらえると良いと思います。一方で、時期によっては活動の負担が過度にのしかかっており、苦悩する学生の様子も見受けられます。例えば、畑は学内か学外のどちらかのみに減らすというのも一考の価値があるのではないのでしょうか。

リスク安全管理の取組

- ・リスク安全マニュアル作成
- ・感染防止対策の徹底
- ・事前に計画、情報共有

DELIVERABLE

成果物／制作物



ひまわり



菜種

11 内湖の再生と地域の水辺コーディネート



水辺の多様な生き物に触れる

滋賀県立大学の内外には多様な自然環境が存在し、魅力あふれる生物が生息しています。希少な生物を調査・保全することや外来生物の駆除などを通して地域の生態系を保全することをめざしています。地域の方々に向けた観覧会も行っています。

TEAM DATA

チーム名：滋賀県大生き物研究会

代表者：井上聖花（環境科学部）

メンバー数：28名

指導教員：浦部美佐子（環境科学部）

活動場所：学内、彦根市 他

関係団体：彦根市生活環境課

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 外来魚駆除イベント



バス駆除イベントの様子（06/17）

(2) 鳥居本小学校環境学習出前講座

★見出し写真：出前講座の様子（06/20）

(3) 蝶の採集・標本作製

(4) 湖風夏祭ワークショップ

(5) 魚類調査・外来魚駆除



神上沼魚類の調査（10/08）

(6) プランクトン観察会

(7) 安全講習

(8) 科学部ネットワークシンポジウムの参加

1年のまとめ・考察（成果と課題）

今年度は地域の人々との交流やイベントの参加、積極的な情報発信など、年度初めに立てていた目標をかなり達成することができたと感じている。コロナ禍によって地域社会との繋がりが希薄になっていたなか、小学校の環境学習出前講座をはじめとする地域のイベントへの参加を通して、地域と直接的に関わりを持つことができたのは当団体にとって大きな一歩といえる。それに加え、出前講座に向けて制作したパンフレットは関係各所から好評をいただき、後のイベントにも引き継いでいける充実した資料が作成できたことも大きな成果の1つだと考えている。また、積極的なSNSの発信を心がけた結果、長浜バイオ大学自然科学研究会の皆様からSNSを通じてお声がけいただき、オンライン上だけでなくオフラインでも他大学の学生団体と繋がることできた。特に科学部ネットワークについては今年度始まったプロジェクトであり、来年度以降はより活発な共同事業を行う予定であるため、積極的な交流を続けていきたい。

多くの地域の方々や同年代の大学生の団体と繋がることができた一方で、活動におけるリスク管理に関して十分な対応ができなかったことは今年度の課題といえる。フィールドでの注意事項や野生生物の取り扱い方についての注意事項等は今まで口頭では伝えられてきたものの、具体的なマニュアルは引き継がれていなかった。所属学部や生き物の知識の有無を問わずに様々な部員が所属している団体だからこそ、誰が見ても分かるような明確なマニュアルを策定する必要があると1年の活動を通して考えさせられた。今年度関わった地域の人々との良好な協力関係を継続して築いていくためにも、部内でのリスク管理を徹底していきたい。

活動を通して学んだこと

以前は昆虫以外の生物に関する知識が皆無であったが、活動を通して水域を中心に様々な生物についての知識を得ることができた。特に魚類に関して、その分類や生態などを他の部員から教えてもらうことが多くあり、サークルでの活動は自分にとって非常に学びとなるものであった。

門 虹之介（環境生態学科 1 年生）

生き物研究会に所属してから、研究会のメンバーと様々な活動を行った。そしてその活動はどれもメンバー全員の助け合いなしには成り立たなかったと感じた。自分の知識や経験を伝えたり、誰かに教わったり、人とのつながりがとても重要であることを学んだ。

吉川陽（環境生態学科 1 年生）

生き物研究会での活動を通して、地域の生き物に触れることができた。これにより、地域の生態系や環境保護の重要性について学ぶことができた。また、人獣共通感染症についても学ぶことができた。これからも、生態系や環境問題に目を向けていきたい。

橋本拓也（電子システム工学科 3 年生）

地域からのコメント

彦根市環境保全指導員連絡会議

（鳥居本小学校での環境学習講座の主催団体）

本会が毎年参加している鳥居本小学校での出前講座に講師としてご協力いただき、心より感謝申し上げます。例年、会員のみで参加していた出前講座ですが、皆様のご協力のおかげで充実した内容の講座となりました。特に矢倉川での水生生物の観察では、小学生向けに写真や絵が入った資料を作成いただくなど工夫いただき、知識を深めることができました。子どもたちにとっても地元の川に豊かな自然が残っていることを再確認でき、貴重な経験となったことと思います。今後も引き続き、生き物研究会の皆様との活動が継続できることを願っております。

指導教員より

環境科学部 浦部美佐子

世間のコロナ対策も一区切りがつき、本年度は本格的に野外活動の再開ができたことを嬉しく思います。地域の方々も活動再開を喜び、期待されていると思いますので、今後も良い関係を継続して行くことを期待しています。それと同時に野外活動における課題も新たに見えてきたようです。グループでの活動は個人での活動と異なり、万一事故が発生した場合にはグループ全体の責任となることを念頭に置き、自分自身だけでなく周囲の参加者の行動にも十分目を配ることができるようにしてください。少々冒険的な行為をすることはスリルがあって楽しいものですが、事故なくフィールドワークを完遂するのがプロ研究者です。プロの卵としてのプライドを持って安全面に配慮しつつ、楽しくフィールド活動を続けていってください。

リスク安全管理の取組

- ・フィールドでの事故防止
- ・安全管理のマニュアルづくり
- ・野生動物に触れる際のリスクや法律上の規制等の安全講習

DELIVERABLE

成果物／制作物



「鳥居本小学校環境学習」資料

12 沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト



モノ、コトを創造する喜びを

琵琶湖の湖畔に流れつく流木を収集し、収集した流木を用いて、地域の人の交流、遊び、学びの場として活用できる建築や空間をつくり、様々な地域活性イベントを行いながら、多世代にわたる地域の人達と交流を進めます。

TEAM DATA

チーム名：沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト

代表者：湊能之（環境科学部）

メンバー数：9名

指導教員：芦澤 竜一（環境科学部）

活動場所：沖島（近江八幡市沖島町）

関係団体：沖島ファンクラブ「もんで」

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) RYUBOKU HUT 躯体の定期メンテナンス

★見出し写真：メンテナンスの様子（08/20）

(2) ランドスケープ計画・施工・家具製作



家具の製作（10/27）

(3) 竹林整備

(4) 清掃手伝い

(5) 沖島マルシェ手伝い



マルシェ手伝いの様子（10/28）

(6) 事業内容整理

1年のまとめ・考察（成果と課題）

今年度の活動を通して、学生間で RYUBOKU HUT という建築のあり方について深く考察し、何が必要かを考えだし、実践できたように感じる。今年度の主な計画はランドスケープ計画・施工であったが、この事業にとどまらず、竹林整備やイベント手伝い、清掃手伝いといったような RYUBOKU HUT と直接的に関係しないことにも積極的に参加できたことは非常に良かったのではないと思う。

今年度の RYUBOKU HUT の目標はより多くの人に心地よく使用してもらうことであり、目標を達成するため、ランドスケープや家具等の強化を図ったわけだが、計画通りにある程度は進められたのではないと思う。ランドスケープに関しては敷地面積が非常に広いことからまだ完成には至っていないが、来年度にはある程度完成する見込みである。また、施工中に島民の方々にお声がけいただき、学生と島民との関係性をより深めることができたのではないと思う。来年度に関しても、定期メンテナンスや清掃活動などの継続してきた活動に加え、RYUBOKU HUT を学生や島民の中で再評価し、今後目指していくべき方向性を定め、新たに更新していく。現状、RYUBOKU HUT は休憩所というプログラムのみであるが、今後はそれ以外のアクティビティを挿入したり、何かイベントを開いたりして、定期的に人が集まる場所になっていくような拡張性のある展開の仕方を期待する。

活動を通して学んだこと

RYUBOKU HUT が休憩所として振舞うためには何が必要か。島の人の日々の生活に RYUBOKU HUT の体験を挿入するために本年度はランドスケープの計画を行った。沖島にあるものを用いて遊歩道や家具を設計・施工したが、ものを見てそれに用途を見出すことの難しさを痛感した。来年度も活動を続け、賑わいを生む建築を目指したい。

廣田蒼（環境建築デザイン学科 4 回生）

今年度の活動の中で、RYUBOKU HUT に何ができるのかを今まで以上に考えさせられた。建築を真に地域のものとしていく難しさを身をもって感じた。

湊能之（環境建築デザイン学科 4 回生）

私はこのプロジェクトで家具を作る体験が一番印象に残っている。竹や流木などタダで手に入る素材で、自分達や集落の方々が使う家具を作った。体と道具を使って素材集めなどのプロセスを踏んで生活に必要なものを作る体験は、集落のコミュニティや自然のサイクルの一部であることを体感でき、現代社会で感じられない生命力と幸福感を感じられた。

藤田晴斗（環境建築デザイン学科 4 回生）

プロジェクトを通じ感じたことは、モノ（建造物、土地含めたエリア）の維持管理の重要さと、沖島での居場所とはどういう空間であるべきかということを考えさせられた。島の人の生活に身近にある場所としての価値を、この RYUBOKU HUT の場所や活動を通してより高めていく必要を感じた。

角田亮輔（環境科学研究科環境計画学専攻 2 回生）

地域からのコメント

沖島町離島振興推進協議会事務局 小川文子さん

流木ハットが沖島に完成してから 6 年経ちました。沖島に流れ着いた流木で、島の人や訪れる人がほっと一息つけるような休憩所を、との願いを形にして下さり、それからも代々引き継ぎながら手を加え整備をし、学生さんが関わり続けてくださっています。自然物なのでどうしてもメンテナンスが必要で、また夏季には周りの草刈りもしないといけないので、暑くても天気が悪くても作業してくださっています。また流木ハットの作業ばかりでなく、イベントや行事にも参加して盛り上げてくださっています。こうして沖島に関わり続けて下さることが高齢化の進む沖島を元気づけ、これからも生活を営んでいけることに繋がるのだと思います。春になればまた観光に訪れる人が増えてくると思われますが、自然のものだけで作られた流木ハットの空間で、少し腰を下ろして癒される、そんな光景が目に見えます。これからもどうぞよろしくお願い致します。

指導教員より

環境科学部 芦澤竜一

RYUBOKU HUT の活動が 6 年目となった本年度は、今までも継続的行なってきたメンテナンスに加え、ランドスケープの計画・施工や家具制作を学生が主体となり活動する様子が見受けられた。これらの活動を通して、自分たちの活動の意義や自分は何かができるのかといったことを学生なりに考える良き機会になったのではないかと考える。

7 年度以降も、収集した材料やこれまでの活動をもとに、より具体的な実践を学生が主体性を持って取り行うことを期待する。また、現在の生業の衰退が見られ、自立性を失いつつある沖島に何ができるかを考え、本学学生が社会に対して何らかのメッセージを主体的に発信できる能力を身につけてくれることを願う。

リスク安全管理の取組

- ・工具取り扱いの注意（片付けの徹底、使用時に周りとの距離の確保、場所指定で使用など）
- ・感染防止対策の徹底

DELIVERABLE

成果物／制作物



家具



ランドスケープ模型

<その他成果物>

躯体メンテナンス

13 三津屋町地域活性化プロジェクト



三津屋を学生の力で盛り上げたい！

滋賀県立大学に近い彦根市三津屋町にある空き家の古民家を改修して、地域の歴史や伝統を継承する場、地域に対してアクションを起こしたい学生と地域の方々の交流の場を創出し、空き家問題や地域の社会的課題の解決に貢献することをめざしています。

TEAM DATA

チーム名：三津屋町地域活性化プロジェクト

代表者：假屋心太（環境科学研究科）

メンバー数：5名

指導教員：芦澤竜一（環境科学部）

活動場所：彦根市（三津屋町）

関係団体：三津屋町自治会

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 地域行事・イベント参加

★見出し写真：自然農ワークショップの様子
(03/03)



えびす講に参加（11/19）

(2) Hikone Work Academy への参加

(3) 拠点化整備（畑フェーズ）



活動拠点の外観（09/01）

1年のまとめ・考察（成果と課題）

今年度の活動は当初、土蔵の改修としていたが、まずは地域の方々に自分たちの活動を知ってもらい、ご理解をいただくため、地域行事に積極的に参加し、住民の方々の声を聞き計画に反映する活動に重きを置く方向に、シフトした。行事に参加することで、実際に地域の方と交流し、新たな活動が生まれた。地域に入り込み地域で活動されている方々と関わることは学生にとって、実社会で必要な様々なノウハウを地域から学び、主体的に考え、行動し、課題を解決するための学びの場となる。本プロジェクトでは、自分たちで考えたアイデアを実際に自分たちの手で組み立てていく場を提供する。それが地域の活性化につながると考えている。

また、拠点での自然農WSを行ったが、地域で暮らしていく中での農業の大切さを体感した。畑を作ることで、空き家であった古民家に新たな命が吹き込まれ、蘇ったような感覚がした。地域の皆様も興味をもって寄ってくださり、交流拠点として整備していく実感が湧いた。また、人だけでなく鳥や虫たちが寄ってくるようになり、自然循環の一部になることの実感があった。

空き家は、空き巣の被害にあったり、倒壊の危険性などが挙げられ、地域全体としての問題となる。そのような空き家を学生の活動拠点として利用し、三津屋町だけでなく周辺地域である須越町や石寺町などとも連携し、全体として課題解決できるようなシステム作りに意義があると感じた。

活動を通して学んだこと（抜粋）

実際に古民家に住んでみることで、今まで知らなかった古民家ならではの多くの発見があった。かつての日本人が過ごした古民家という住宅建築には現代人の暮らしが失いかけている魅力が詰まっている。本プロジェクトでそれらを再認識し、建築として実現し、意義あるものにしていきたい。

岡本晃輔（環境建築デザイン学科 3 回生）

私は現在、古民家で暮らしながら活動しており、実際に“地域”に入り込むことの難しさを実感した。私も“地域コミュニティ”という言葉をよく使うが、三津屋町に実際に住んで、言葉の意味を全く理解していなかったことがわかった。地域での課題を机上で検討することと実際に体感することでは大きな違いがあり、地域の課題を自分の問題であると捉えることができる。このプロジェクトでは、実際に自分でアクションを起こし、問題解決へのプロセスを体感できるところに 1 番のおもしろさを感じる。

假屋心太（環境科学研究科環境計画学専攻 1 回生）

古民家を拠点とし居住空間を豊かに、かつ昔ながらの伝統工法などを失わない改修計画や、町民の方々に開き、町をより活性化させるための方法を模索してきた。今年度は 1 年目ということもあり、我々の活動を知ってもらおうと同時に、町を活性化させるために求められていることを知る機会を増やそうと、三津屋町の行事などに積極的に参加した。町のお祭りや集会などは町内の様々な情報の交換の場となり、今後必要となるモノを見出すことができる。そしてそれらを整理し我々の視点でアプローチすることが大切だと感じた。

妹尾隆誠（環境科学研究科環境計画学専攻 1 回生）

地域からのコメント

三津屋町 前自治会長 菱田尚志さん

三津屋町に県立大学の環境科学研究科の学生がやってきた。彼らに接すると実に清々しい。荒神山の北西に位置する三津屋町は、彦根市の中でも高齢化率が最も高い集落の一つだ。そんな集落の空き家であった古民家に移住し、建築物の研究に没頭しているものだと思う。しかし、積極的に町内行事にも参加し、地蔵盆では準備や子どもたちと楽しく接してくれた、また「ふれあいフェス」では資料や模型を使つての発表により、改めて三津屋町の良さを再発見させてくれた。

指導教員より

環境科学部 芦澤竜一

滋賀県の初源的な集落構造が見られる三津屋町でのプロジェクトである。三津屋町ではかつて周辺集落と争論になるほど豊かな自然資源が存在した。地域内にも茅葺き民家が残るなど、地域的な自然素材の循環が三津屋町でもあったと言えるが、現在では地域コミュニティとともにそれらの豊かな原風景も失われてしまっている。プロジェクトの活動としては 3 年目となり、現在では利用可能な空き家で、私含めプロジェクトメンバーが実際に地域のコミュニティに属しながら、課題の発見と解決に向けて主体的に考え、実行している。

リスク安全管理の取組

- ・活動や WS 時の直前ミーティングと危険予測
- ・活動報告まとめと次の活動への反映・改善

DELIVERABLE

成果物／制作物



「ふれあいフェス」模型・展示



イベント出展看板

<その他成果物>

「自然農ワークショップ」畑

14 地域博物館プロジェクト



文化財を守る学生学芸員

民具や古文書、お祭りなど、地域には多くの文化財があります。地域の皆さんと一緒に“地域文化財”を活用するための博物館をつくりあげることで、地域の魅力を再発見することをお手伝いしています。

TEAM DATA

チーム名：スチューデント・キュレーターズ

代表者：十二里青慈（人間文化学部）

メンバー数：27名

指導教員：市川秀之、東幸代（人間文化学部）

活動場所：学内、彦根市、高島市、近江八幡市

関係団体：白谷荘歴史民俗博物館

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 近江八幡西川嘉右衛門家調査



西川家古文書の調査（06/17）

(2) 白谷荘歴史民俗博物館調査・展示事業

★見出し写真：展示の様子（08/17）

(3) 湖風祭出展



展示作業（11/03）

(4) 近江八幡ヨシ刈イベント

1年のまとめ・考察（成果と課題）

今年度は西川嘉右衛門商店調査および白谷荘歴史民俗博物館調査を中心にいくつかの事業を実施することができた。今年度の活動で特筆すべき点は今津東コミュニティセンターでの展示である。展示では白谷荘歴史民俗博物館所蔵の絵はがきをはじめとした資料を利用し、現在の写真と比較しながら昔の景観との時間的な変化を紹介した。また、湖西地域になじみ深い江若鉄道の資料も活用した。今まで博物館で調査してきた資料を展示するとともに、同館の来歴などを紹介することで館の広報にも貢献することができた。

展示の準備では、チラシのデザインやキャプションなどをはじめ、さまざまなことを同時並行でおこなう必要がある。作業の進捗状況の確認や役割分担などのため、今年は定期的なミーティングをひらいた。入学間もない1年生にも短いキャプションをつくってもらうなど、積極的な参加を呼び掛けた。展示設営日は夏季休暇中であつたが、何人かは設営作業にも参加していた。

当プロジェクトの課題として活動の参加率の低さが度々問題となっていたが、今年度は比較的参加人数が多く活気ある活動になったと感じている。原因は1年生を中心とした新規プロジェクト加入者が多かったことや、新型コロナウイルス感染対策が緩和されたことなどが考えられる。調査も以前より効率がよくなったかと思われる。

活動を通して学んだこと

授業では経験できないことが多く経験できました。古文書を読むことももちろん貴重な体験でしたが、地域の伝統文化であるヨシ刈りを体験したり、調査に協力していただいている西川さんの詳しいお話を聞いたりしたことが特に他ではできない経験であるため、近江楽座に参加して良かったと思っています。

佐々木颯透（環境政策・計画学科1年生）

大学入学時から将来的には学芸員になりたいという思いがあり、この活動に参加しました。この活動では展示をするために活動していますが、より良い展示を行うためには調査や勉強が欠かせません。そのプロセスを知ることができるとともに、より実践的な展示についての学びが得られるのでとても良い経験をさせていただいていると思います。

堀絢音（地域文化学科2年生）

実際に古文書や民具を調査したり、かつての人々の生活を聞いたりすることは、とても貴重な体験でした。ヨシの生い茂る風景が現存していたり、民具を保存していたりして、今後も保護し続けてられていることに感動しました。これからも多くの古文書や民具に触れていきたいです。

堀尾祐芳（地域文化学科1年生）

活動に参加することで、古文書の扱い方やくずし字の読み方、展示や整理の方法などを学ぶことができました。実際に史料に触れたり、ヨシ刈りをしたりといった貴重な体験ができて嬉しく思います。授業で習うこと以上の学びを実践的に得られたので、とても有意義な経験になりました。

山田春香（地域文化学科2年生）

地域からのコメント（抜粋）

白谷荘歴史民俗博物館館長 川島光男さん

白谷荘歴史民俗博物館の調査・整理・保存・公開につき、滋賀県立大学の皆様に絶大なご協力を賜り厚く感謝申し上げます。当館での資料のデータ化等の整理は進んでいましたが、もう少し時間がかかります。皆様のご尽力により、民具を中心に古文書類、教科書類の展示を行うことができます。また、当館見学が目的の来館者も少しずつ増えてきました。

一方、近年高島市内の博物館・資料館は市町村合併により人員・施設とも集約されました。さらに、今後、市内で一館に集約されることになり、地域文化の保存・交流を行うことのできる場所が少なくなりつつあります。当館は過疎地の小さな私設の博物館ですが、このような施設であるゆえに、より皆様に多く出入りしていただき地域の博物館・資料館の現状を少しでも理解していただきたいと思っています。当館が地域の文化交流の場を守っていくことは、地域文化の保存にとって非常に重要であると考えています。とりわけ学生のみなさんにとっては、当博物館での活動が、知識を身に着けるだけでなく、学内だけでの活動ではわかりにくいであろう地域文化の現状を若い感性によって理解することにつながるかと思います。学生のみなさんが社会に出れば見えにくいであろう地域の現状を少しでも肌で感じ取っていただけると幸いです。そして、それがこれからの地域文化を守っていくみなさんの活動のお役に立つと確信しております。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

指導教員より

人間文化学部 市川秀之

令和5年度は、近江八幡市円山の西川家、高島市白谷の白谷歴史民俗博物館における資料調査を毎月実施したほか、夏季には白谷歴史民俗博物館所蔵の絵葉書の展示を地元の公民館で実施し、また西ノ湖でのヨシ刈りを実施するなど新たな活動にも取り組んだ。資料調査には、県下の博物館学芸員が何度か参加し、また雑誌編集者の取材を受けるなど、その活動が社会的に広く受容されつつある。今後とも地道な調査活動を継続するとともに、その活動を広く発信することがもめられるだろう。

リスク安全管理の取組

- ・調査前の手洗いの徹底
- ・史料の傷つき防止（薄葉紙を机に敷き、腕時計等を外す）
- ・感染防止対策の徹底
- ・こまめに水分補給

DELIVERABLE

成果物／制作物



湖風祭「くずし字クイズ」展示

<その他成果物>

「白谷荘歴史民俗博物館」展示

15 犬上川竹林整備プロジェクト



竹の魅力を発見！発信していきます！！

大学前の一級河川犬上川河辺林を中心とした放置竹林の整備を行うとともに、整備で得た竹を製作活動に利用し、竹の魅力を発見し、価値を上げるために発信しています。今年度から自分たちで運営資金をまかなうSプロジェクトとして活動しています。

TEAM DATA

チーム名：竹林 GAKU

代表者：岡谷内日菜（環境科学部）

メンバー数：36名

指導教員：肥田嘉文、荒木希和子（環境科学部）

活動場所：彦根市、近江八幡市、学内

関係団体：犬上川開出今地区竹林愛護会

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 竹林整備



竹林整備の様子（11/11）

(2) 湖風祭出展



竹細工の展示（11/05）

(3) 竹細工（試作）

(4) 大瀧ものづくりラボとの連携

(5) セタ企画

(6) エコキャンパスセンター清掃

(7) ヨシフェス

★見出し写真：フェスの様子（10/29）

(8) 研究協力

1年のまとめ・考察（成果と課題）

今年度の竹林整備は、これまでに伐採した竹を処理することを中心に行った。そのため、今年度中に竹を処理するという目標は達成することが出来、良かった。しかし、犬上川河川敷の竹も立派であること、綺麗な青竹の状態であれば需要もありそうなことから、今後は学内・学外で竹を使ってくれる団体を探し、竹を伐採し提供できたら理想だと考える。竹の活用については、竹のおもちゃや竹笛など、今まで製作したことのない竹細工にも挑戦出来たと思う。また、今年も地域の方と一緒にイベントを行ったり、湖風祭で「門松ワークショップ」を行ったりなど、昨年度の経験を活かしたことも多く、良かったと感じる。

昨年度からの課題である、活動に参加する部員の固定化については今年度解決できなかったため、竹林整備に魅力を感じるような仕掛けを模索していきたい。竹林 GAKU は竹林整備と竹の活用活動の2つを柱としたプロジェクトのため、その年その年で、竹林 GAKU の雰囲気が異なると思う。この自由さを竹林 GAKU の魅力として、来年度の活動も楽しんで取り組んでいきたい。

活動を通して学んだこと

私は滋賀県出身ではないが、近江楽座はこの地域の問題をより間近で知るきっかけになった。半年間の活動を経て、問題の深刻さだけでなく先輩方の熱心な姿勢や地域の方々の人柄の良さに触れる機会が多々あり、滋賀県の大学に通う一学生として、よりこの問題を解決したいと思うようになった。

世原彩恵子（生物資源管理学科 1 年生）

普段の活動では伐採に関する経験を得られ、秋の湖風祭においては、竹林 GAKU は門松制作のワークショップを行った。この時の活動では、どのようにすれば外部の方たちに自分たちの活動に興味を持ってもらえるのかという外部の理解について少し学ぶことができた。

山本安人（環境生態学科 2 年生）

主に竹林整備と竹細工を行い、時々地域交流としてヨシフェスなどのイベントに参加させていただいた。今年度で特筆すべき事項は、蓄積していた竹を大量に処分したこと。これからは、より計画的な整備を行い、竹を積み立てないようにして、ただ廃棄処分するよりも有効的な活用法を考えたい。

徳井勇斗（環境生態学科 2 年生）

地域からのコメント

まるやまの自然と文化を守る会 宮尾陽介さん

（事業⑦ ヨシフェスのイベント主催者）

竹林 GAKU で取り組まれている活動は、私たち「まるよし」の活動と共通点が多く、みなさんの活動内容から多くのことを学ばせていただいております。設立時から関わらせていただいていることも縁深く、いつもご協力いただき本当にありがとうございます。

まるよしでは、管理が行き届かなくなってきたヨシ原を見て何かできることはないかと考え、ヨシ刈りやヨシ焼きといった活動を行っています。こういった活動は継続してこそ意義があるのですが、現時点では助成金に依存した活動となっているため、持続性を高めるためには自主財源の確保が必要と考えています。そこで、まるよしでは、活動で刈り取ったヨシを使った工芸品を製作するなどの事業にも取り組んでいます。

一方、竹林 GAKU では、犬上川の放置竹林を整備し、整備で得た竹で工芸品等を製作するという活動を継続するだけではなく、他団体との交流にも意義を見出されており、この考え方は当時の私にはなかったことであり、すごく感銘を受けています。まるよし、竹林 GAKU、それぞれが活動するフィールドや取り扱う素材に違いはありますが、地域資源の活用に取り組む精神はこれからの時代に求められるものであり、これからもともに歩んでいければ心強く思うので、どうぞよろしくお願いいたします。

指導教員より

環境科学部 肥田嘉文・荒木希和子

本年度はコロナ禍での規制も少し緩み、一年を通して様々な活動を実施することができました。まずは主要な活動である竹林整備を定期的に実施できたことが良かったです。竹を伐採してから処理するまでにはいくつもの行程があるので、負担を減らして計画的にできるとより良いと思います。また竹材の魅力を伝える活用面では、湖風祭での出展をはじめ、地域の方々と協力したイベントや企画を複数回実施し、多くの方々に竹材の価値や竹林管理放棄問題に触れる機会が提供できたと思います。経験豊富な地域の方との活動を通じて子どもたちとの関わり方について学びがあったことも大きな収穫でした。参加者のご様子にメンバーが手応えを感じることができたという新しい竹細工への挑戦など、新しい試みは今後の発展につなげていって欲しいです。2つの大きな活動がありますが、それぞれが得意な活動を優先しつつ、活動内の緩やかな連携を取っていけると良いと思います。また整備には人手が必要なので、参加頻度が少ない人でも参加しやすい雰囲気づくりがあると良いかもしれません。

リスク安全管理の取組

活動安全マニュアルによる取組

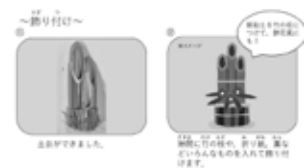
- ・ 竹林内でのルール、注意点
- ・ 竹林での作業の手順
- ・ 活動後の片づけ

DELIVERABLE

成果物／制作物



活動紹介ポスター



「こまい門松作り方」手順書

<その他成果物>

「2023 年度竹処理重量」資料



沖島でまなぶ・まじわる・ささえる

日本で唯一、湖に人が暮らす島、沖島。島民は漁業を生業に琵琶湖と共に暮らしてきましたが、過疎化などにより、暮らしの継承が危ぶまれます。このような沖島の状況で「学生も何かできるのでは?」と「まなぶ」「まじわる」「ささえる」の3つを目標に島の振興のため活動しています。

TEAM DATA

チーム名：座・沖島

代表者：南沙耶（人間文化学部）

メンバー数：18名

指導教員：上田洋平（地域共生センター）

活動場所：学内、沖島（近江八幡市沖島町）

関係団体：沖島町離島振興推進協議会

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 畑作業



畑作業の様子（11/11）

(2) おきしまるしえ

(3) 小学生と展望台でピクニック

★見出し写真：ピクニックの様子（05/04）

(4) 沖島運動会参加

(5) 春祭り



春祭りに参加（05/03）

(6) 資料館の年表づくり

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度は島のイベントをお手伝いさせていただく機会が多く、地域の人と多く関わることができたように感じます。そして島の人たちが、私たちが訪れるたびに暖かく迎え入れてくださり、活動をしていく中でコミュニケーションを取ってくださったことは、沖島の人たちと楽しみながら関わることができる機会に繋がり、沖島の魅力を感じることができたように思います。しかし、島の人たちから受け取っていることが多く、自分たちから関わっていく機会が少なかったように考えました。また、島の人たちと関わる機会は多くありましたが、イベントなどの短時間での関わりが大半であり、深く島や島の人たちのことについて知ることができる機会は少なかったように感じます。島の魅力をどうすればもっとよく知ることができるのか、自分たちが島でできることは何であるのか、メンバーと島の人たちで話し合いながら活動について考えていくことが必要であると思います。

また、メンバーの中で実際に活動に参加している人数が少なく、イベントのみの参加の人が大半であることも課題であるように感じました。イベント以外の活動は畑での作業がほとんどであったこともあり、興味を持って活動に参加することができる人が少ないのではないかと思います。沖島でどのような活動を行うのかについて考えているメンバーが限られていることも、「自分たちも座・沖島のメンバーである」という感覚や、活動への興味が薄くなってしまうことに繋がっていたように感じます。メンバーが主体的に関わることができるように、何か島の人から依頼されたことや、畑作業以外にも島に関わることができる活動を考え、メンバーからも「何を座・沖島の活動として行いたいのか」を聞きながら活動を行っていきたいです。

活動を通して学んだこと

座・沖島の活動を通して、こんなにも身近に自然にあふれたのどかな場所があることを知りました。沖島では車が一台も通らないため、穏やかで時間の流れがとてもゆっくりに感じました。島民の方々もとても温かく、「島」という空間だからこそ地域やコミュニティとしての団結力を感じました。

荻野真柚奈（地域文化学科1回生）

今年度は春祭りや運動会、マルシェといったイベントを通して沖島の人々と交流することができました。おきしま資料館の開館にも年表作りなどを通して携わらせていただき、良い経験となりました。来年度は他の近江菜座とも連携しつつ、楽しみながら新たな活動を行っていききたいと思います。

高山梨香（地域文化学科2回生）

今年度は沖島での行事、祭り等に参加し、運営の手伝いなどをさせていただきました。他のメンバーや地域の方と協力し、イベントを成功させることができました。自分ができることを積極的に探し、行動する力を身につけることができたと思います。

後藤千彬（国際コミュニケーション学科2回生）

島に行く時に様々な人たちに支えられ活動を行うことができていたのだということを感じました。島の人たちに暖かく受け入れていただいたことで、楽しみながら活動を行うことができたと思います。これからも人との関わりを大切に、「自分たちに何ができるか」を考えて活動を行っていききたいです。

南沙耶（人間関係学科2回生）

地域からのコメント

沖島町離島振興推進協議会 小川文子さん

昨年度に引き続き、島の人が耕作できなくなった畑でパパイアを育てる活動をしていただきました。暑い中、周辺の草刈りなど大変だったと思いますが、無事収穫できたことで次年度に繋がる活動となりました。

また、小学校と地域住民の交流の場である運動会や離島振興推進協議会主催のおきしまるしえにも参加して、一緒に盛り上げてくださいました。定期的に沖島に足を運んで一緒に活動して下さることが沖島を元気づける何よりの助けになるので、これからもよろしくお願いします。

指導教員より

地域共生センター 上田洋平

ようやくコロナ禍を抜け出た。元に戻るものも、もとに戻れないほどこに変わってしまったものもあるだろう。初めて沖島を訪れた人はよく「時間がゆっくり流れているような」とか「時間が止まったような」という感想を言うけれど、むしろもっともはやく、またはげしく、日本の地方地域社会の課題に直面している地域でもある。おしよせる変化に向き合いながら、淡々と繰り返される左義長、春・秋の祭り、運動会、湖魚まつり（おきしまるしえ）……。さまざまな祭りや行事によって「事態変化の再調整」を図りながら、地域の暮らしはじわじわと進んでいく。

報告書はしばしば「この一年での特筆すべき出来事」や「めざましく変わったこと」を求めてくるので困る。変わらずにあることや変わらなかったことも見つめていこう（昨年は「変化になれ」といったけれど）。植物学者にして「分類学の父」と呼ばれたカール・フォン・リンネは「自然は飛躍しない」といった。ぐるぐると螺旋を描くような進み方は、堂々巡りのように同じ風景が見えているようだけれども、少しずつ広く遠くまで見えるようになっていく。座・沖島にとっては恩人ともいえる良平さんが亡くなった。そのほかにも何人も、お世話になった人たちが亡くなって、それは年々加速度を増す。人が生まれて死んでいく。地域にとってそれ以上に特筆すべき事件があるだろうか。一人ひとりの人の存在の重み。地域の皆さんがそうして下さるように、私たちも一人ひとりのみなさんと丁寧におつきあいしていこう。

リスク安全管理の取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・畑作業等、活動前の島の人への声かけ
- ・畑作業の際のケガ防止

DELIVERABLE

成果物／制作物



青パパイア

17 おとくらプロジェクト



高宮の町に新しい風を吹かせましょう

彦根市高宮町で、築 200 年の古民家を学生が改修してできたコミュニティスペース「ギャラリー喫茶おとくら」の運営を軸とし、地域活動への参加、イベントなどを行い、地域をより元気にすることを目的に活動しています。

TEAM DATA

チーム名：おとくらプロジェクト

代表者：永津幹一（人間文化部）

メンバー数：16 名

指導教員：迫田正美（環境科学部）

活動場所：彦根市（高宮町）

関係団体：高宮連合自治会

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 喫茶活動



メニューの作成 (02/04)

(2) イベント活動



高宮宿場祭りに出店 (09/16)

(3) ギャラリー運営

★見出し写真：ギャラリー輪々で展示 (02/06)

(4) 広報活動

1 年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

今年度は、2020 年から続いた新型コロナウイルス対策がようやく緩和され、高宮地区で開催されるお祭りが復活し、おとくらも再び参加することができた。メンバーはコロナ以前の様子を知らないため、試行錯誤しながらの参加となったが、高宮地区の方々と交流できる喜びを共有できた。

活動の成果については、今年から再開された高宮祭り、高宮宿場祭りへの参加である。高宮祭り、高宮宿場祭りは高宮地区で行われるお祭りで、コロナ禍の影響により開催していなかったが、今年、復活した。おとくらも数年ぶりにお祭りに参加できることになり、メンバーも活気のあるお祭りに参加できる楽しさを感じることができたと思う。お祭りにより高宮地区との関わりが増えた。

課題の 1 つ目は、来訪者の数が少ないことである。中山道を歩く人が少ない冬は特に少ない。これには 2 つの原因があると考えられる。1 つは、おとくらが活動していることが伝わっていないということである。特に広報について改善が必要と感じる。おとくらつうしんや SNS の発信を工夫していきたい。2 つ目は、おとくらの魅力が足りないということである。ターゲット層を考えて、新メニュー作成、ギャラリーの展示、イベントテーマ、広報活動等を行ってきたい。

課題の 2 つ目は、地域の人との交流が少ないということである。高宮町内のお祭りに参加すれば自然と交流することは出来るが、現状、おとくらでのイベントの際には地域の人が参加してくれることはめったにない。それはおとくらのことが知られておらず、知らない場所のイベントに参加するのは勇気が要ることだからだと考える。そのため、まずは課題の一つ目を解決し、一度はおとくらに来て様子を知ってもらってからイベントに参加してもらうことを目指すべきだと感じる。

活動を通して学んだこと

おとくらの活動を知ってもらうことの大切さを学びました。おとくらは素敵なギャラリーやイベントを行えるスペースがあるのに、その存在が学内で十分に知られていませんでした。そこで、ポスターを作成したり、展示やライブを行える団体に声をかけたりしたところ、今年度は初めておとくらを利用する団体が増えました。

麻中要（人間関係学科2年生）

おとくらを通して学んだのは、心地よく活動するためには積極的に活動に参加するべきだということである。SNSの更新や活動日に関して指摘があったことで、関わる人全てに目を向けるべきだと感じた。またお金や物品の管理を分担することについても学ぶことが出来たと感じている。

尾形早穂（地域文化学科2年生）

活動を通して学んだことは、多様な人と話す楽しさということである。おとくらでは中山道を歩くお年寄りや地域の方や大学生といった初対面のお客さんとお話をする。多様な価値観を持つお客さんと話すことで非常に刺激を受けるため、おとくらでの活動は私にとって最大のインプットの時間であるといえる。

大原結衣（地域文化学科2年生）

メニュー班での活動を通して、地域の方々やお客様と接する中で、どういったメニューが喜ばれるか、また取り入れやすいかなどを会話の中から得たことから、コミュニケーションの必要性を学んだ。また、そのようなコミュニケーションを取りやすい空間を作ることが地域の活性化に繋がると感じた。

山根さくら（生活栄養学科2年生）

地域からのコメント

おとくら家主 加藤義朗さん

今年度は、うれしい事がふたつありました。

おとくらの活動の手足をもぎ取り続けたコロナが5月よりインフルエンザと同じ5類へと、本当に良かったです。でも3年間苦しかったですね。ありがとう。やっと高宮の行事も全て4年ぶり復活。太鼓祭、宿場祭におとくらメンバーが参加。高宮に新しい風を吹かせくれました。また湖風祭を楽しむ姿は、本来のおとくらの活動であり学生の力、おとくらここにありを実感しました。

もうひとつ嬉しかった事は、おとくら発足から参加してたすわっちが建築士一級合格の報告に、3代目代表やっさんが奥さんといっしょにおとくらご来店と、いっぱいのおBOGが近況報告来てくれました。現役メンバーの刺激にもなった事かな？

本当に偶然ですが、中山道を歩いておられるご夫婦に声をかけると子どもが県大生で、おとくらでお世話になったと・・・お祖父さんが栗農家のあずみんとわかりビックリ、これもおとくら！継続は、力なりですね。

来年度は、おとくら15年目、いっぱい嬉しい事がありますように！

また いっぱいおとくらで楽しんでくださいな。

これが おとくら、これぞ おとくら、よろしくお願いします。

指導教員より

環境科学部 迫田正美

コロナ感染も治りを見せ、高宮祭りなどの地域イベントも再開されたことで地域活動に参加できたことは喜ばしいことでした。数年間のプランクがありましたので、戸惑うこともあったと思いますが、地域の方々との対面での触れ合いを経験できたことは今後の活動を進める上でも大きな収穫となったと思います。

参加者やお客さんの数が少なくなったと感じることもあると思いますが、地道に活動することがコロナの影響からの回復には必要なのだと思います。焦らずに皆で楽しみながら活動を続け、次年度以降の活動の展開へと繋げていってほしいと切に願います。

リスク安全管理の取組

- ・感染防止対策の徹底
- ・衛生管理の徹底
- ・ミーティングごとの議事録作成と情報の共有

DELIVERABLE

成果物／制作物



「おとくらつうしん」

18 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト



モットーは「無理なく、楽しく！」

障がい者を有する人と学生が互いに成長することを目的に、NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディーの支援活動を行っています。活動を通じて、障がい児・者を支える地域づくりを推進することも目指しています。

TEAM DATA

チーム名：ボランティア部 Harmony

代表者：西村侑花（人間文化学部）

メンバー数：20名

指導教員：中村好孝、杉浦由香里（人間文化学部）

活動場所：学内他

関係団体：NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会 メロディー

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 定例活動

★見出し写真：定例活動の様子（12/23）

(2) クリスマスコンサート



コンサートの様子（11/18）

(3) 定例会議

(4) おとくら展示



展示の様子（06/03）

(5) 水郷めぐり

1年のまとめ・考察（成果と課題）（抜粋）

「コロナ前の活動規模に戻す」を目標に活動を行い、大方達成できたと感じています。障がいのある方と接する以上、Harmonyの感染対策の緩和は他団体より慎重にせざるを得ません。そのため、気候の良い日は外で定例活動を行ったり引き続きマスクの着用をしたりするなどの工夫を行いました。その結果コロナが原因の活動中止はなく、中止されていた複数のイベントを再開することができました。また今年度のクリスマスコンサートはコロナ前とほぼ同等の開催規模に戻し、非常に多くの方々に来場していただきました。加えて、今年度は地域の方々や子ども連れ家族など一般からの参加者が半分を占め、開催目的である「障がいの有無や年齢に関わらず、多くの方に音楽を楽しんでいただくこと」が実現し、多くの人々に Harmony の活動を知っていただくことができました。

また、定例活動を中止することなく定期的に実施できたことにより、一人ひとりに合わせた丁寧なサポートの継続に繋がりました。その甲斐あって、障がい児・者の方たちが制作する作品に大きな変化がみられるようになりました。定例活動の目的である「自由に、思いのままに活動し表現できる場を設ける」ことができたと考えています。昨年度から行っているグッズ制作は多くの方々からご好評いただき、障がい児・者の方たちの作品に気軽に触れていただけるツールとして、これからも制作していきます。

今後の課題としては、どのような目的を基に各活動が行われているのかをメンバー個人が明確に認識することが挙げられます。昨年度はボランティアをするためのノウハウ（障がい児・者の方たちへの接し方や活動に対する姿勢、活動が行われている背景）を学ぶ学習会が実施されていました。しかし今年度は実施されなかったため、メインメンバーがそれらを知らずに活動しているという状態になってしまいました。次年度は学習会を定期的に開催するなど、メンバー内でのノウハウの共有を目標に活動していきたいと考えています。

活動を通して学んだこと

マッキーを使うと本人が決め油絵へ意識を向けさせるか悩んだが、楽しむことが一番だと思い、彼の思うまま活動が出来るようサポートした。意思の疎通がしっかり出来たわけではないが、手を洗いにいくときは素直についてきてくれて、話は聞いてくれていて嬉しく思った。私も楽しく充実した時間だった。

塩見凜（人間関係学科1回生）

一緒にブロッコリーを描きました。ブロッコリーがやや右寄りに置かれていたので、絵のブロッコリーも右に寄りました。モチーフを描きやすい位置に動かしたらいいですね。担当の子は時々話しながらも、絵にとても集中していました。ブロッコリーのモコモコを○で描くなど、独自?の表現が面白いです。

川上しずく（地域文化学科3回生）

金時人参をモチーフにして、オレンジ色のベースに様々な色を重ねていった。人参の表面が茶色や白など複雑な色味をしていたので、ひとつひとつじっくり観察して、混ぜ色をしながら丁寧に筆を運ばせていたのが印象的だった。

西村侑花（国際コミュニケーション学科3回生）

地域からのコメント（抜粋）

NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディー

藤本悦子さん

特に力を入れている定例の油絵創作は、アート公募展への出展に向けて取り組んでいます。障がいを持つメロディーのメンバーが、落ち着いた雰囲気の中で自由に心のままに創作できるのは、学生ボランティア・ハーモニーとの信頼関係があるからです。コミュニケーションをとるのが難しいながらも個々に合わせてそっと寄り添い、サポートしてもらっている姿にいつも感じています。そして我が子たちが創作している間、親同士は雑談しながらほっと一息できる有意義な時間をもらっています。これからも親子で楽しむこの時間を大切にしていきたいと思っています。今後に期待することは、この作品を沢山の方の目に触れるよう作品展の開催やグッズ制作を進められるといいなと思っています。アート作品を通じて障がい者の魅力や特性が認められ、理解を深めてもらえる機会が作れたら嬉しいです。

指導教員より

人間文化学部 中村好孝

今年度の定例活動で、カルチャールームの障子を破ってしまったことがあった。大学内の活動であり近江楽座の活動なので、顛末書を提出したり、再発防止に努める等は大切ではあって、そういう対応は学生がきちんとやった。これはこれで必要なことだ。

しかし同時に、障がい児・者の地域生活について考えるときには、これは色々と考えるに値する事例なのである。そもそも地域での生活にはトラブルはつきものだ。それがまったくない生活はありえないし、おそらくはつまらないだろう。たとえば大学に入って一人暮らしを始める場合、親元の生活と比べるとトラブルや危険は増えるけれども、より自由だ。逆に、トラブルのない安全性を最優先するのであれば、一人暮らしには反対することになるだろう。歴史的には、半世紀前の障がい者の自立生活運動は、そういったトラブルの可能性はあるが自由な生活を、なぜ自分たちはしてはいけないのか？ してもいいじゃないか、と問うた。怪我などの危険はなるべくないように努める必要はあるだろうけれども、障子を破る程度のこともまったくない完全に安全な活動もそれはそれで違うのではないか。だから、こういった経験は本プロジェクトにとって良かったとすら、個人的には思っている。今年度も、メロディーをはじめとする地域の方々やOB・OGに支えられ、本プロジェクトがそういった経験をできたことに感謝しております。

リスク安全管理の取組

- ・学生の付き添いとしっかりした見守り
- ・サポート体制
- ・事故の未然防止と事故が起こった場合の対応
- ・感染防止対策の徹底
- ・メロディーとのこまめな相談・検討
- ・定例会議（毎月1回リモート）の開催

DELIVERABLE

成果物／制作物



「Harmony&Melody クリスマスコンサート」
パンフレット・ポスター・チラシ・アンケート



「喫茶おとくらギャラリー輪々」展示チラシ

<その他成果物>

新入生勧誘チラシ

19 日夏里かがやけプロジェクト



日夏でひかりかがやけ！

日夏町にはヴォーリス建築の日夏里館（ひかりかん）や朝鮮人街道があり、気になる歴史が詰まっています。私たちは、日夏町で野菜・果樹栽培、販売を通じて地域の人と交流すること、日夏町の魅力を発信して、多くの人に足を運んでもらうことを目標に活動しています。

TEAM DATA

チーム名：リソーズ

代表者：西脇小夏（環境科学部）

メンバー数：17名

指導教員：平山奈央子（環境科学部）

活動場所：彦根市（日夏町）

関係団体：日夏里館運営団体

近江楽座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

(1) 畑活動

★見出し写真：冬野菜の種まき（09/22）

(2) 日夏里館での活動

(3) アボカドの栽培



アボカドのつぼみ（02/13）

(4) 日夏山お別れ会



日夏山お別れ会の様子（10/22）

(5) ひこねで朝市出店

1年のまとめ・考察（成果と課題）

昨年度は畑の活動を行うことで精一杯で日夏町に人を呼び込むという段階に至っていないという振り返りがあった。よって、2023年度のリソーズでは、畑での活動量を維持しつつ日夏里館での活動を増やすことを目標に1年間活動を行ってきた。

成果は大きく2つあった。まず、一つ目は人員が増えたことである。昨年は立ち上げメンバー9人で活動をしていたが、今年は新たに8名が加わり17名で活動することができた。人員の増加により、畑での活動を楽に行うことができたり、準備に動くことのできる人が増えたためイベントにも参加しやすくなった。二つ目は、目標通り日夏里館での活動を増やすことができたことである。湖風祭の模擬店の試作品作りや、新入生歓迎会などリソーズの団体として利用したり、リソーズ秋の収穫祭を地域の催し「日夏山お別れ会」とコラボして地域の方を招待したイベントを行うなどした。1年間で約5回利用した。また、これまでは日夏里館の管理人でありよくしてくださっている古川さんと多く関わってきたが、元JA役員の方や日夏町で生まれ育った方などとも知り合うことができた。

課題としては、イベントで出会うことのできた方との交流を大切にすること。広報用チラシは1ヶ月前に配るなどしたい。そして、畑の管理では、計画的に行うことを目標にしたい。水やりが古川さんに任せきりになっていたためリソーズメンバーでやりくりできるようにしたい。

活動を通して学んだこと

農業やその町の雰囲気を感じ取ることができました。普段スーパーでしか見ない食材の葉っぱや花が観察できたり、獣害対策を考える機会があったので、獣害について調べることで知識が得られました。畑を貸していただいている方に獣害についてのお話もしていただきました。自分から進んで活動を行うことが自分に豊かな知識をつけられると学びました。

今井直翔（環境建築デザイン学科 1 回生）

今年度は人数も増え、イベントを行う回数が増えたのがとても良かったと思う。活動を行う中で学年にとらわれずにたくさんコミュニケーションをとることが大切だと感じた。畑で作業をしながら世間話をしたり、ちょっとした合間に話をしたりすることで学年、学科が違っていても同じ方向に向かって活動できると思った。

湯川綾（生物資源管理学科 3 回生）

会計担当として、必要な物品の金額が適切かどうかの判断や購入までのメンバーとの連携について学んだ。加えて、立替金や領収書等において金銭の収支管理について学んだ。また、「ひこねで朝市」、「チャレンジショップ」や普段の活動から農作物を栽培してそれを販売するのは容易でないと学んだ。大井兵集（生物資源管理学科 2 回生）

活動に積極的に参加していくことが大切だと思いました。農業は大学で学んでいる分野とは異なっているため、最初は何をしたらいいのかも分からず、ただ言われたことをするのみでした。しかし、実際に活動していくにつれて要領が分かってきたり、改善点が見つかったりするなど得るものが多くありました。

野村優月（地域文化学科 2 回生）

高校生の時は学外の活動でも学生間での話し合いばかりだったが、リソースでは地域の人と直接関わることで地元への愛着や地元を盛り上げるための努力をより近くで感じ、学ぶことができた。

笹原彩恵子（生物資源管理学科 1 回生）

地域からのコメント

日夏里ファンクラブ 古川与志継さん

地域課題である「日夏山お別れ会」を共同で取り組んでいただき、ありがとうございました。地域の人々の参加もあり、よかったと思います。共同企画の推進を期待します。ハウス栽培のアボカドにつぼみがついてきているので、楽しみです。畑の野菜を育てることは学ぶことも多く、経験としても有益です。種まき・植え付け・水やり・収穫等計画的に進めるといいと思います。

指導教員より

環境科学部 平山奈央子

活動を始めてまだ 2 年かと思いますが、日夏地域の畑を活用して野菜等を育て、古川さんを中心に地域の方々との交流をしているとのこととで団体の目標に応じた活動を進められていることが分かります。今年度から活動メンバーが増え、また複数学部・学科が混在していることで、今後は多様な視点から活動に取り組めるのではないかと思います。古川さんのおかげで活動拠点を地域に置くことができ（農作業についてはお手伝いいただいていることもあるということですが）、メンバーそれぞれが学内とは違う学びを得られているのではないのでしょうか？特に、地域の皆様が大切にしてきた日夏山お別れの時に立ち会ったことは貴重な体験になったことと思います。今後も、地域の方々と交流する中で、日夏の思い出や課題などを聴き取り、活動に活かせるとうまいかと思います。リソースの活動が日夏地域にとって有意義なものになることを期待しています。

リスク安全管理の取組

・感染防止対策の徹底

DELIVERABLE

成果物／制作物



活動紹介ポスター



「日夏山」模型

<その他成果物>

新入生勧誘チラシ
地域交流イベントチラシ

20 はっしん歴史遺産@近江



地域と一緒に発進・発信！

滋賀県内の歴史遺産の保全と集落の持続可能性を高めることを目標に、情報発信活動や地域内でのイベントを開催しています。現在は長浜市余呉町菅並集落をメインの活動場所として、地域の方々との交流や地域行事への参加、パンフレットづくりなどを行っています。

TEAM DATA

チーム名：リソース

代表者：椎葉真結（環境科学研究科）

メンバー数：19名

指導教員：高屋麻里子（環境科学部）、石川慎治（人間文化学部）

活動場所：学内、長浜市余呉町菅並地区

関係団体：湖北古民家再生ネットワーク

近江築座活動年度：2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

- (1) パンフレット作成準備
- (2) 「すがなみ展」の開催
★見出し写真：展示の様子（09/23）
- (3) 吉田一郎氏との写真整理準備会
- (4) 地域行事への参加



菅並洞寿院開山忌に参加（06/25）

- (5) 菅並散策会



散策の様子（09/24）

1年のまとめ・考察（成果と課題）

菅並集落は滋賀県と福井県のほぼ県境に位置し、かつてのダム計画によりさらに奥の集落は離村してしまいました。この地域は、高時川上流部の離村した集落の暮らしぶりを伝える、最後の要の場所でもあります。しかし、菅並の方々が高齢化が進み、若い担い手がいなかったことから将来に対する希望や明るい話題が少ないというようなお話をされることがあります。伝建調査の一通りの終了を経て、その調査結果をわかりやすく、地域の方々に還元して伝えること、学生の視点からの魅力探しを行うことが、菅並の方々のジビックプライドの醸成に繋がれることを意識して取り組む必要がありました。活動の中で、菅並の方々とお話を続けると、昔どのようなイベントがあつて楽しかったのかなど段々と話題にさせていただけるようになりました。例えば地区での運動会があつてその当時の動画や、集落の人みんな旅行に行った時の写真を見せていただく場面があり、この体験も若い学生には新鮮なものでこれからの活動のヒントにもなるのではないかと考えました。

活動は6月に開山忌への参加、9月に菅並展の開催が主になりました。反省点は広報の力が足りず、事前告知や色んな人の参加を促せませんでした。一方で、菅並の地域に住む方や現在は菅並地区に住まわれない方がわざわざ足を運んでくれたこともあり、学生と地域に関係する身内での交流会ができました。集落模型も興味深くみて、菅並についてお話される機会ができたことは良い点です。来年度以降の活動について、菅並の土蔵をはじめとする修繕が必要な建物についてどうするか、学生から議論する場、もしくは実際に修繕を行うことは理想です。今年度の活動のように交流会をメインでも良いと思われます。菅並集落だけにとどまらず、広く協力団体を探していくのが今後、活動の重要なキーポイントになると考えられます。その点において、吉田一郎氏の保管する膨大な写真整理の話は、新しい活動につながる第一歩です。菅並集落に係る記録の収集から湖北、さらに滋賀県内全体へと活動の場を広げることができるのではないかと考えています。まだ設立したばかりで活動の軸を探しているところは不安定な状態ではありますが、さまざまなことに挑戦しつつ確かな基礎を築き上げていきたいです。

活動を通して学んだこと（抜粋）

歴史的建造物の保存や修復、伝統的建築工法の継承など、全国各地で行われている歴史的建造物に対する取組について関心を持つきっかけとなりました。その中で実際に歴史的価値のある建造物を保存する難しさ（費用、技術、時間）や地域社会との関係性を構築する重要性を実感し、単純にモノを守りたいという思いだけでは事は動かないのだと分かりました。

中村悠（環境建築デザイン学科4回生）

多くの市町村で問題となっている高齢化や人口減少を身をもって知ることができました。菅並集落の方とお会いしお話を聞く中で集落に対する強い想いと、地域創生の難しさを学ばせていただきました。

奥山麟人（環境建築デザイン学科4回生）

文化財としての保存と生活環境の維持について考えさせられました。伝統的建造物群保存地区選定に向けて調査が進められていることは地域にとって明るい話題だけではなくてきていることを感じました。維持管理を誰がしていくのか、住む人はいなくなる一方で保存する価値とは、と課題は多く残されています。地域の方々が故郷を好いて、残していきたいと考えている限りは、目を背けず課題解決を考えることが今は大事だと思うことができました。 椎葉真結（環境科学研究科環境計画学専攻2回生）

菅並集落の方々と会話を重ねて、集落を継続していきたいという想いを「すがなみ展」の開催によって形にできたのが良かったです。

中井渉斗（環境建築デザイン学科4回生）

地域からのコメント

菅並自治会 杉山 靖さん

菅並は、平均年齢が60歳以上で高齢者ばかりの地域です。若い人もおらず、この先集落の存続さえ危ういという厳しい環境があります。昔は、余呉型民家と呼ばれている三角屋根の家がたくさん並んでいました。しかし、今は解体している家も年々多くなり、最後は何軒残るだろうかといまも地域に残っている人たちで話しています。また、雪の多い場所でもあるので、冬の除雪などにはとても苦労しています。

週ごとに開いている健康体操会や映画鑑賞会は、少しでも日頃の楽しみになるようにと開催しています。学生たちには、活動を通して、何か明るい話題や楽しみが増えることを期待しています。洞壽院の開山忌はお寺主催のものですが、集落により近い観音堂の開帳は、菅並集落の地域の人が主催となる行事です。本来は33年に一度で、中開帳として17年ごとに姿を見せる式年のものでした。最近では2020年に開催しましたが、みんな歳を取ったので次はできないかもしれないと話していました。もし、縁が続いて、若い子達が来てくれるのであれば観音堂の開帳は続いてほしいことです。

指導教員より（抜粋）

環境科学部 高屋麻里子

地域の歴史資産と地域の生活を発信することで、地域の建造物を継続させる手掛かりとする活動に着手している。建築とその建築を成立させている環境そのものを継続させるための情報発信という地域住民に寄り添う目線は、これからの伝統的建造物の保存活動として期待できる。限られた活動期間でありながら、地域との関係を築いており、制作物なども好意的に受け入れられている様子である。まさに学生ならではの活動と評価できる。活動報告書なども非常に丁寧に取まとめられており、情報発信力につながっているものだろう。次年度へもぜひ引き継いで欲しいところである。滋賀県内の写真撮影の第一人者である吉田一郎氏との知己を得たことで、今後はいっそう情報発信にも厚みが増すことが期待できよう。

人間文化学部 石川慎治

2020-2022年度に行われた伝統的建造物群保存対策調査での縁をきっかけに、長浜市余呉町菅並における歴史的遺産の保全とそれに伴うネットワーク作りを目標として活動を開始している。今年度の活動については、地道な活動で地元住民との信頼関係を築けているのでは、と思う。上述の調査終了後、本来は行政が主体となって伝統的建造物群保存地区を含めたまちづくり活動を盛り上げていくべきだが、現在、行政内の組織改編などもあってやや停滞気味にみえる。その意味でも「はっしん歴史遺産@近江」のメンバーの今年度の活動の意義は大きい、といえる。また、地道な活動もあって、吉田一郎氏との共同活動という可能性が見えてきたが、来年度の活動にどうつながっていくのが楽しみである。

リスク安全管理の取組

- ・新型コロナウイルス等感染防止対策
- ・取材に際する交通安全対策
- ・活動中の災害等非常事態に対する対策
- ・著作権侵害、個人情報の管理

DELIVERABLE

成果物／制作物



「菅並集落」模型



「すがなみ展—みんなでつくる集落記録」チラシ

<その他成果物>

「菅並探索日記」

21 Cebu Parian Project



環境問題の改善・教育、地域活性化

文化遺産 Jesuit House の保存を継続支援しながら、プラスチックのリサイクルを行い、地域で出たプラスチックゴミを地域の中でクリエイティブに再生し、新しい循環型社会を目指しています。

TEAM DATA

チーム名: Cebu Parian Project

代表者: 境理央 (環境科学部)

メンバー数: 15 名

指導教員: ヒメネス・ベルデホ・ホアン・ラモン (環境科学部)

活動場所: フィリピンセブ市内、滋賀県内

関係団体: NPO 法人 Foot Roots、HO-TONG FOUNDATION

近江楽座活動年度: 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011
2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019
2020 2021 2022

PROJECT

実施事業

- (1) リサイクル国内ワークショップの開催 (滋賀県)
- (2) フィリピンにて国際ワークショップの開催
★見出し写真: ワークショップの様子 (06/23)
- (3) フィリピンにてチャペル施工



チャペルの竣工 (12/09)

1 年のまとめ・考察 (成果と課題)

今年は多くの活動を行い、充実したプロジェクトにすることができた。昨年度に引き続きプラスチックリサイクルのワークショップを行っているが、今年は昨年に比べて多く実施した。特に彦根市で積極的にワークショップをし、地域に対してプラスチック問題を啓蒙することができた。また国外でのワークショップも昨年度に比べ多く行うことができ、プラスチックの問題をより広い視点で考えるきっかけになった。今後の課題としては、この活動と問題をより認知、体験してもらうことが重要だろう。さらに、そこから発展した活動、アイデアなどもあればよりよいと思う。

今年から始まったセブ市にある児童養護施設のチャペル設計、施工に関しては大変意義のあるものになった。以前はプラスチックの廃棄物に問題意識をおき、それらをどうリサイクルできるかだったが、今回はリサイクルしたプラスチックのプロダクトを作成し、更にそれがどう人々の生活や身の回り、空間に還元できるかということまで思考、実施することができた。これらは学生による小さなプロジェクトかもしれないが、新しい循環型社会を目指す一種の表現としては社会的に大きな意義があるのではないかと考える。そして、この活動が実現できたのも NPO 法人 Foot Roots や三峰グループの協力あつてのことだ。

今回の成果としては主に 2 つにまとめることができる。1 つめはこのプロジェクトを行う次の人達に引き継げるような新たな活動と実績を残せたこと。2 つめは昨年度に引き続き活動ができたことだ。今後も Cebu Parian Project が滋賀という地域に対して貢献できることを祈る。

活動を通して学んだこと

昨年度に引き続きワークショップの活動を行いつつ、今年度はチャペルの設計、施工というリサイクルから発展した活動ができ、非常に嬉しいです。次の後輩たちへと引き継いでいてもらうことが大事だと思うので、ぜひ来年度もこの活動ができることを願っています。

大柳 諒（環境建築デザイン学科4年生）

私自身初めての国外ワークショップが今回の活動でした。普段、何気なく利用しているプラスチックに対してより意識的になることができたと感じています。これからこの活動で学んだことを活かして、環境問題にしっかりと意見や考えを持てるようになりたいです。

佐野花佳（環境建築デザイン学科4年生）

プラスチックのリサイクルはもちろん、それからプロダクトを作して、チャペルの施工を行うというところまでできたのが大きい発展だと思います。このようにプラスチック問題に対して体系的に学ぶことができ、価値のあるものになったと感じました。

境理央（環境建築デザイン学科4年生）

今回の活動を通して印象に残ったことは朝市のワークショップです。意外にも地域の方々がプラスチックの問題、リサイクルに興味を示してくださり、感心しました。また国外の活動を通して、世界でもこういった共通の問題があることを肌で実感しました。今後もこういった活動に関心を持ちたいです。

矢間寛汰（環境建築デザイン学科4年生）

地域からのコメント（抜粋）

ワークショップ参加者の声

- ・リサイクル問題に目を向けるきっかけになったと思った。
- ・こんなにもゴミがリサイクルできることを理解できた。
- ・リサイクルの仕組みを理解することが出来た。
- ・リサイクルすることによる可能性を考えられるようになった。
- ・環境問題は重要な問題で、色んな人に知ってもらいたい。
- ・ワークショップをしてみて環境問題について詳しく知ることができ、初めてリサイクル方法を知った。
- ・リサイクルの種類の提案の可能性が増えていくと思う。
- ・リサイクル意識を増やしていくべき。
- ・リサイクルを身近に感じる事が出来た。

指導教員より

環境科学部

ヒメネス・ベルデホ・ホアン・ラモン

今年はコロナ禍による制限も弱まり、コロナ禍以前のような羽を広げて活動することができました。また、Cebu Parian Project の活動も継続することができ大変喜ばしいです。今年度は滋賀県内でワークショップが6回、海外でのワークショップが6回と多くの活動ができたと思います。そして、今年度から始まったプラスチックリサイクルを利用したチャペルの設計と施工も成功に収めることができました。大変長い期間をかけてプロジェクトを進行してくれた学生、協力してくださったNPO法人Foot Rootsと三峰グループに感謝を述べ、来年も実行できることを願います。

リスク安全管理の取組

- ・住民への配慮ある行動と衛生管理の徹底
- ・リサイクル機械を使用する際、取り扱う側、参加者とも火傷やケガのないよう十分に注意する。
- ・溶かしたプラスチック製品の取扱い（軍手の着用）

DELIVERABLE

成果物／制作物



ワークショップポスター



プラスチックリサイクルによるプロダクト

<その他成果物>

「チャペル」イメージパース・模型

2-2 『らくざしんばん』

「らくざしんばん」はチームが1年の活動をまとめた活動報告新聞です。共通トピックである①「チームのビッグニュース」②「プロジェクト紹介」③「プロジェクト自慢」④「地域の声」⑤「成果と課題」を中心に記事を作成しています。

近江楽座ホームページの「楽座文庫」に、カラー版のPDF ファイルを掲載しています。ぜひ御覧ください。

< 近江楽座ホームページ「楽座文庫」 >
<http://ohmirakuza.net/books/>

01 政所茶レン茶〜



02 BAMBOO HOUSE PROJECT



03 男鬼里山再生プロジェクト



04 廃棄物バスターズ

発行日 2024年3月31日

廃棄物バスターズ 新聞

新たな環境モデルの構築へ 廃棄物バスターズが活躍

当団体の活動は、廃棄物処理の効率化と環境負荷の低減を図ることにあります。廃棄物バスターズは、地域の環境改善に貢献しています。

◆環境意識の改革を目指して
地域住民への啓発活動を行い、環境意識の向上を図っています。

◆マイクログラスチック学
中学生と協働して、プラスチックの再利用について学びました。

◆その他の活動
環境フェスティバルに参加し、環境保護の大切さをアピールしました。

◆今後の展望
さらなる活動の拡大と、地域社会との連携を強化していきます。

地域の方の声
「廃棄物バスターズの活動のおかげで、地域の環境がきれいになりました。これからも頑張ってください。」

05 とよさと快蔵プロジェクト

発行日 2024年3月31日

快蔵新聞

20周年を迎えることができました！

〇〇と共に関心をもち、20周年を迎えることができました。快蔵プロジェクトは、地域の文化遺産を保護し、後世に伝えることを目的としています。

◆ついに『たく庵』完成！...か？
長年の努力の甲斐あって、ついに『たく庵』の復元が完了しました。地域の歴史を伝える貴重な場所となりました。

◆地域の方の声
「快蔵プロジェクトの活動のおかげで、地域の文化が生き生きと蘇りました。これからも頑張ってください。」

06 未来看護塾

発行日 2024年3月31日

活動報告新聞

ビッグニュース

未来看護塾は、地域の若者に看護の魅力を伝え、人材育成に取り組んでいます。

◆プロジェクト紹介
未来看護塾は、地域の若者に看護の魅力を伝え、人材育成に取り組んでいます。

◆地域の方の声
「未来看護塾の活動のおかげで、地域の若者が看護に興味を持つようになりました。」

◆今後の展望
さらなる活動の拡大と、地域社会との連携を強化していきます。

07 あかりんちゅ

発行日 2024年3月31日

あかりんちゅ新聞

第13回 毎日地球未来賞 奨励賞を受賞

あかりんちゅは、地域の環境改善に貢献しています。第13回 毎日地球未来賞 奨励賞を受賞しました。

◆あかりんちゅとは
あかりんちゅは、地域の環境改善に貢献しています。

◆地域の方の声
「あかりんちゅの活動のおかげで、地域の環境がきれいになりました。」

◆今後の展望
さらなる活動の拡大と、地域社会との連携を強化していきます。

08 かみおかべ古民家活用計画

発行日 2024年3月30日 組織 県立大学 近江楽園 かみおかべ古民家活用計画

イベント事業の復活

かみおかべ新聞

かみおかべ古民家活用計画とは

2023年度号

クリスマスツリーを製作！?

自家製味噌作り

地域の声

1年間のまとめ

09 ヴォーリス研究会

発行日 2024年3月30日 ヴォーリス研究会

VORIES NEWS

ヴォーリス建築図面展を開催！

ヴォーリス研究会では、ヴォーリス建築の魅力を広く知ってもらうことを目的として、3月27日まで開催しました。ヴォーリスの建築図面を展示し、その魅力を伝えることができました。

ヴォーリス研究会のプロジェクト

ヴォーリスの建築図面を多くの人に知ってもらうことが目的です。そのために、ヴォーリスの建築図面を展示し、その魅力を伝えることができました。

「小さな」ヴォーリス建築の展示

展示会は、多くの建築図面を展示し、その魅力を伝えることができました。そのために、ヴォーリスの建築図面を展示し、その魅力を伝えることができました。

地域の方から、展覧会への反応

展示会では、多くの建築図面を展示し、その魅力を伝えることができました。そのために、ヴォーリスの建築図面を展示し、その魅力を伝えることができました。

成果と課題

展示会では、多くの建築図面を展示し、その魅力を伝えることができました。そのために、ヴォーリスの建築図面を展示し、その魅力を伝えることができました。

10 フラワーエネルギー「なの・わり」

発行日 2024年3月31日 楽園新聞

フラワーエネルギー「なの・わり」

英種豊作！

湖風祭で自家製菜種油が盛況

プロジェクト紹介

地域の声

成果と課題

1年間の活動まとめ

11 内湖の再生と地域の水辺コーディネート

発行日 2024年3月30日

生き物研究会と生き物報告新聞

プロジェクト

地域の声

出張！小学校で出前講座

1年間の活動まとめ

13 三津屋町地域活性化プロジェクト



no image

15 犬上川竹林整備プロジェクト

[illegible]

16 座・沖島

2024年3月31日

座・沖島プロジェクトとは

座・沖島プロジェクトとは、座・沖島が主催する、地域住民と連携した活動です。座・沖島は、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。座・沖島プロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

座が被害を受ける

座・沖島は、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。座・沖島プロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

おきしまるしえでのお手伝い

座・沖島は、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。座・沖島プロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

地域の方の声

座・沖島は、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。座・沖島プロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

プロジェクト自慢

座・沖島は、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。座・沖島プロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

一年間の活動を通じて

座・沖島は、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。座・沖島プロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

17 おとくらプロジェクト

2024年3月31日

おとくらプロジェクト
2023年度活動実績報告

おとくらプロジェクトは、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。おとくらプロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

入場者数の制限なし！
大好評だった出店

おとくらプロジェクトは、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。おとくらプロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

18 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト

2024年3月31日発行

障がい児・者 支援・共生社会プロジェクト
Harmony新聞

クリスマスコンサート大成功！

座・沖島は、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。座・沖島プロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

プロジェクト紹介

座・沖島は、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。座・沖島プロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

1年間の活動を通して

座・沖島は、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。座・沖島プロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

19 日夏里かがやけプロジェクト

2024年3月31日 発行

リソース
日夏里かがやけプロジェクト

リソースってどんな団体？

座・沖島は、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。座・沖島プロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

リソースのセグニュース

座・沖島は、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。座・沖島プロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

リソースの中の人意見箱

座・沖島は、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。座・沖島プロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

地域の方の声

座・沖島は、地域の文化や歴史を伝えるために、様々な活動を行っています。座・沖島プロジェクトは、地域住民と連携し、地域の文化や歴史を伝えるための活動です。

20 はっしん歴史遺産@近江

[illegible]

21 Cebu Parian Project

広告掲載情報

2012年7月号(第13号)

チャペルついに完成！！

学生らで設計、施工まで

チャペル完成の様子

「Cebu Parian Project」は、フィリピン・セブ島の貧困地域に、学生が設計・施工したチャペル（礼拝堂）を建設するプロジェクト。このプロジェクトは、2011年に開始され、2012年に完了した。このプロジェクトは、学生が設計・施工したチャペル（礼拝堂）を建設するプロジェクト。このプロジェクトは、2011年に開始され、2012年に完了した。

このプロジェクトは、学生が設計・施工したチャペル（礼拝堂）を建設するプロジェクト。このプロジェクトは、2011年に開始され、2012年に完了した。このプロジェクトは、学生が設計・施工したチャペル（礼拝堂）を建設するプロジェクト。このプロジェクトは、2011年に開始され、2012年に完了した。

近江楽座新聞

近江楽座新聞
近江楽座新聞
近江楽座新聞
近江楽座新聞

近江楽座新聞

地 域 の 声

県内（近畿圏）でカワサキショップを通して

「カワサキショップ」は、近畿圏でカワサキショップを通して、地域の声を伝える。このショップは、近畿圏でカワサキショップを通して、地域の声を伝える。このショップは、近畿圏でカワサキショップを通して、地域の声を伝える。

写真

「カワサキショップ」は、近畿圏でカワサキショップを通して、地域の声を伝える。このショップは、近畿圏でカワサキショップを通して、地域の声を伝える。このショップは、近畿圏でカワサキショップを通して、地域の声を伝える。

近江楽座新聞

3 共通プログラムの報告



3-1 活動の安全確保のためのスキルアップ講座

危機対応講習

活動にはあらゆるシーンで様々な危険が潜んでいます。近江楽座ではより安全に地域活動を行うため、専門家を招いて危機対応講習を開催します。この機会にスキルアップを図り、活動に活かしましょう！社会に出てからも大いに役立ちます！本学学生ならどなたでも参加歓迎です！

7/11(火) 18:10-20:10

第1回 ボランティア活動における実践的安全管理について

日常生活をはじめボランティア活動時にも様々なリスクがあります。安全管理の基本はリスクを知ることです。知ることで予測が生まれ、予測から対応が生まれます。この一連の流れをグループワーク等を通して実践的な安全管理について学んでいきます。また、プロジェクトの安全管理マニュアルの実例を踏まえ、具体的に学びます。

講師 深山 恭介さん
NPO法人国際ボランティア学生協会(IVUSA)

大学卒業後、日本有数の豪雪地帯である新潟県十日町市で、地域おこし協力隊として3年間の活動。その間に都市の企業や山岳地域を事業拠点とする。2013年にIVUSAに入社し、現在はIVUSA危機対応研究所の主任研究員として、災害危機事業をはじめとする各種事業、各種研修の企画・実施、運営を担当。

対象：近江楽座学生および本学学生(50名程度)
場所：滋賀県立大学 湖風会館(A7棟)会議室・談話室

！問い合わせ・申し込み
事前予約を下記連絡先までお願いします。
当日参加も受け付けています。
近江楽座事務局（担当：杉田、●）
TEL: 0749-28-8616 (内線: 8616)
E-mail: info@ohmirakusa.net



講師の深山恭介さん

〈当日の流れ〉

0. NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA) について
1. リスクヘッジについて
2. 危険予測活動について
3. 安全管理チェックシートについて

0. NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA) について

IVUSA は、学生が主体となって国内外でボランティア活動を行う NPO 法人です。1993 年設立、2002 年に NPO 法人となりました。日本最大級の学生ボランティア団体であり、約 80 大学、2,600 人の学生が所属しています。国際協力・災害救援・環境保護・地域活性化・子どもの教育支援の 5 つの分野で活動しており、国内外で様々な社会貢献活動を行っています。

1. リスクヘッジについて

リスクとは、ある行動に伴って（あるいは行動しないことによって）、危険に遭う可能性や損をする可能性のことです。そして、リスクヘッジとは事前に想定できるリスクのうち、予測・準備・対応を行うことでリスクそのものを回避・軽減することです。講座では 4～5 名程度のグループに分かれ、与えられ

「スキルアップ講座」は、近江楽座の学生に、自分たちの活動に活かすことができるスキルを身につけてもらうための講座です。活動にはあらゆるシーンで様々な危険が潜んでおり、安全に活動を行うため、専門家を招いて危機対応講習を開催しました。

Ⅰ ボランティア活動における実践的安全管理について

日時：2023 年 7 月 11 日（火）18：10～20：10

会場：湖風会館（A7 棟）会議室・談話室

講師：NPO 法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)

危機対応研究所 深山恭介さん

内容：安全管理の基本はリスクを知ることです。知ることで予測ができ、対応が可能となります。この一連の流れ（リスクを知る→予測→対応）をグループワークで実践的に学びました。

た課題に取り組むことで、これらの言葉の意味を具体的に理解することができました。



会場の様子



グループワークの様子

検討しました。

講習会終了後のアンケートでは、小グループでワークを行いながら講習が進行されたことで、より内容の理解が進んだとの声が多く見られました。「自分が思い浮かばなかった考えを得られた」「複数の人とリスクについて考えを共有することが大事だと感じた」等の感想がありました。

全体を通じての感想としては、「少しでも危ないと感じたことをそのままにしない」「事前の用意やチームの意識を高めることが大事である」「自分たちのチームにも応用できるものがある」等、これからの活動にどのように活かすのか記されており、今後、チームメンバーと共有し、実践していただく。

2. 危険予測活動について

楽座チームが実際に活動している写真を題材にしてグループワークを行いました。どこに危険が潜んでいるのか、危険のポイントを抜き出し、そこから具体的な対策を考え、最終的にグループの行動目標を設定しました。

3. 安全管理チェックシートについて

ハインリッヒの法則の説明の後、グループで過去の自分たちのヒヤリ・ハットを書き出し、共有し、過去の自分にアドバイスをする形で安全管理チェックシートを作成しました。また、近江楽座チームが作成した安全管理マニュアルを基に具体的に



3-2 中間報告会「地域での経験を語り合う」－先輩を交えた情報交換会



近江楽座ではコロナ禍で活動が制約を受けながらも、それぞれのプロジェクトは工夫をしながら、地域での活動を継続してきました。学生たちは地域との関わりの中で様々なことを考え、悩み、実践を重ねながら、多種多様な活動スタイルを生み出しています。しかし、その一方で課題も抱えています。

そこで、今年度の中間報告会では「地域での経験を語り合う」と題して、学生たちの経験や気づきを共有し、情報交換を行いました。また、近江楽座で活動されていた先輩をゲストにお招きし、活動へのアドバイスをいただきました。

日 時：2023 年 12 月 12 日（火）16:30 ～ 18:00
12 月 13 日（水）18:10 ～ 19:40
12 月 15 日（金）16:30 ～ 18:00
会 場：湖風会館（A7 棟）談話室・会議室

<プログラム>

1. 各チームからの活動報告
(発表時間：各チーム 5 分)
2. 各報告へのコメント
(質問や共感、意見などの書き出し)
3. コメントの共有と先輩ゲストのアドバイス

<中間報告会日程>

	12/12(火) 5限(16:30～18:00)	12/13(水) 6限(18:10～19:40)	12/15金 5限(16:30～18:00)
1	政所茶レン茶 ^①	かみおかべ 古民家活用計画	BAMBOO HOUSE PROJECT
2	オオリヤロウ	ヴォーリス研究会	とよさと快蔵 プロジェクト
3	廃棄物バスターズ	沖島RYUBOKU HUT プロジェクト	未来看護塾
4	あかりんちゅ	スチューデント・ キュレイターズ	三津屋町地域活性化 プロジェクト
5	フラワーエネルギー 「なの・わり」	座・沖島	おとくらプロジェクト
6	滋賀県大生き物 研究会	リソーズ	ボランティア部 Harmony
7	竹林GAKU	はっしん歴史遺産 @近江	Cebu Parian Project

Ⅰ 1日目(12/12)

ゲスト：大賀雄介さん

(2015～2018 政所茶レン茶^①で活動)

司会者：印南比呂志先生（人間文化学部）

参加者：23 名

大賀雄介さんから

このような活動は、もっと大人たちに頼ってもよいのではないかな。自分たちだけで解決したいという思いもわかるが、学生だけでできることは限られています。頼ることでさらに活動の内容・精度も上がるのではないのでしょうか。

学生の地域活動がモデル化されれば、他の地域

でもパッケージとして生かされていくのではないのでしょうか。

印南比呂志先生から

かつて日本各地の大学が近江楽座と同様の活動を行ったが数年しか続かなかった。しかし、本学が20年間続けてこられたことは奇跡だと思っている。

これからも活動がさらに10年へと、続くことが当たり前になって欲しい。みなさんには未来を作っていて欲しい。



大賀雄介さん（左）と印南比呂志先生（右）



参加者からの質問等を基に発表者と意見交換

Ⅱ 2日目 (12/13)

ゲスト：久保瑞季さん

(2015～2018 かみおかべ古民家活用計画、
2016～2018 座・沖島で活動)

司会者：吉川直樹先生（環境科学部）

参加者：21名

久保瑞季さんから

この活動は基本的に答えがないものですが、まちにとって、学生にとって何が一番良いものなのかを常に考え続けて答えを出していきましょう。

活動をするにあたり、自分たちが楽しむことが一番大事です。自分たちが楽しいと思っているところに人も学生も集まります。とにかく学生時代を楽しんでください。

吉川直樹先生から

活動するにあたって、「学生自身が楽しむこと」、「学生の成長に繋がること」、「地域のために役立つこと」が大事です。そういった方向で工夫をしていきましょう。これからの活動に期待しています。



久保瑞季さん（左）と吉川直樹先生（右）



発表者との意見交換

| 3 日目 (12/15)

ゲスト：久保晃さん

(2011～2014 おとくらプロジェクトで活動)

司会者：佐藤亜聖先生 (人間文化学部)

参加者：23 名

久保晃さんから

楽しさは「継続」と「理解」から来ると思います。私は楽座に参加することが義務的なものになっていた時期もありましたが、続けることで気づいたら楽しくなり繋がりもできました。「理解」についても続けることでこの活動の意義みたいなものがわかってきました。続けることで見えてくることもありますし、社会に出ても楽座で頑張った4年間の経験が糧になっています。今、苦しいこともあるかと思いますが、楽座間の交流、休憩もしながら続けてください。

佐藤亜聖先生から

みなさん、地域の方とよく対話をされていて、ひとりよがりではない活動の形をとっているのが心に残りました。自分たちが行ったことを地域の方がどう思っているのか、地域とのキャッチボールを続けていくことは大事で、今後も続けていただき、新しい活動に反映してください。OB・OG さんとの繋がりも大切にしてください。



佐藤亜聖先生 (左) と久保晃さん (右)



コメントの書き出し



発表者との意見交換

<中間報告会を終えて>

中間報告会のアンケートでは、学生のプレゼンテーションやホワイトボードに掲示された資料について、一般参加者の方々から多くのお褒めの言葉をいただきました。特に、スライドを巧みに使った分かりやすい発表に驚かれていました。

今回の報告会では、近江楽座のチームで中心的メンバーであった先輩をお招きし、活動経験者としてお話を伺いました。「大人に頼ろう」「楽しもう」「続けよう」という先輩からのメッセージは、忙しく、そして近江楽座の運営に悩む現役学生に強く響いたと思います。活動には様々な苦勞も伴いますが、「授業では得られない学び」があり、それが「将来社会に出て、必ず役立つ」というお話もありました。

今年で20年を迎える近江楽座は、地域の方々や卒業生をはじめ、多くの方の支えによって成り立っています。これら関係者の方々には、これまでのご支援に心より感謝申し上げますとともに、これからも活動を見守っていただけたら幸いです。

3-3

活動成果報告会 まちづくり farmer's festa - まちをたがやす人たちの感謝祭 -



2023 年度近江楽座活動成果報告会を 4 月 20 日に開催しました。また、「三津屋町地域活性化プロジェクト」が公益財団法人 電通育英会の令和 6 年度の助成団体に選ばれ、冒頭に井手慎司理事長より助成決定の伝達式が行われました。

報告会は、全 21 プロジェクトが「環境負荷削減への貢献」「地域へのインパクト」「学びと学生力の可能性」の 3 つのテーマで 3 会場に分かれて、それぞれ 1 年間の活動内容を発表しました。その後、各セッションの内容の報告と全体まとめが行われました。

<プログラム>

- 開会挨拶 (井手慎司 理事長)
- 活動発表会
- 全体まとめ
- 交流会

日 時：2024 年 4 月 20 日 (土) 13:30 ～ 16:30

会 場：滋賀県立大学 交流センター

(ホール、ホワイエ、研修室 1 ～ 3)

<各セッションのテーマとチーム割>

	【セッション 1】	【セッション 2】	【セッション 3】
テーマ	環境負荷削減への貢献	地域へのインパクト	学びと学生力の可能性
1	政所茶レン茶ー	とよさと快蔵プロジェクト	男里山再生プロジェクト
2	BAMBOO HOUSE PROJECT	かみおかへ古民家活用計画	未来看護塾
3	廃棄物バスターズ	沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト	ヴォーリス研究会
4	あかりんちゅ	三津屋町地域活性化プロジェクト	内湖の再生と地域の水辺コーディネート
5	フラワーエネルギー「なのわり」	座・沖島	地域博物館プロジェクト
6	犬上川竹林整備プロジェクト	おとくらプロジェクト	障がい児・者、自立支援共生社会プロジェクト
7	Cebu Parian Project	日夏里かがやけプロジェクト	はっしん歴史遺産@近江
司会進行	吉川 直樹 先生 (環境科学部)	柳澤 淳一 先生 (工学部)	北野 大輔さん (淡海生物研究会)

Ⅰ 電通育英会助成決定伝達式

電通育英会は1963年に株式会社 電通により設立された奨学財団で、奨学金の給付・貸与を行っており、NPO 法人や大学内組織など非営利団体が行う次世代リーダーを育成する活動に対して年間10件程度の助成を行っています。

三津屋町地域活性化プロジェクトの助成決定は、昨年度、一昨年度のとよさと快蔵プロジェクトに続くもので、近江楽座のチームとしては3年連続になります。三津屋町地域活性化プロジェクトでは、助成金を古民家の改修費用等に充当し、整備後は地域活動の拠点としてイベントや交流の場として活用する計画です。

< 決定内容 >

団 体 名：三津屋町地域活性化プロジェクト

助 成 金 額：100 万円

助 成 期 間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日



伝達式の様子

井手慎司理事長からは、「今回の100万円という助成金額は学生の活動に対する助成金としてはとても高額なものです。それだけみなさんの活動の可能性への評価が高かったということで嬉しい

ことです。しかし、同時にそれだけ重い責任があるということを考えてください。これからは、申請した事業を計画通りに実施するだけでなく、資金の支出、活動の成果について、きちんとした説明をする必要があります。社会全体に対しては、選ばれたことに相応しい団体だと証明していかなければなりません。そのことを忘れずに1年間頑張ってください」と、激励の言葉をいただきました。

Ⅱ セッション1 テーマ：環境負荷削減への貢献

会 場：交流センター ホール

司会者：吉川直樹先生（環境科学部）



活動発表の様子



質疑応答と意見交換の様子

報告まとめ（吉川直樹先生）

「環境負荷削減への貢献」をテーマにまちづくりや廃棄物のリサイクル等、様々な課題に取り組

むチームからの発表がありました。地域活動では、地域あるいは地域に関係する方々との取組が必須となりますが、各チームとも地域と環境負荷削減に取り組み、地域の活性化等に貢献されていました。

今後の取り組みについては、例えば「長距離の車での移動を改善する」「あるプロジェクトの不要物を他のプロジェクトが活用する」「他地域や他のプロジェクトとの連携を深める」などの提案もあり、より良い展開が可能になると思います。

｜ セッション2 テーマ：地域へのインパクト

会 場：交流センター ホワイエ

司会者：柳澤淳一先生（工学部）



活動発表の様子

報告まとめ（柳澤淳一先生）

「地域へのインパクト」をテーマに、近江楽座発足当初から続くプロジェクトから比較的若いプロジェクトまで発表してくれました。古民家の改修や喫茶の営業等地域との関わりを持ちやすいプロジェクトが多いのかなと感じました。また、地域の方も参加いただき貴重なコメントをたくさんいただきました。

地域で長く活動が続けてきたプロジェクトは、これまでの蓄積があり、地域とのつながりを作りながら活動すればいいのですが、若いプロジェク

トは、まず地域を知ることから始めることが大事ではないでしょうか。また、地域課題への取組については、すべて自分たちで解決することはできないので、できそうなこと、大事なことから始めてもらったらと思います。そして、他のプロジェクトにも協力してもらうなど、プロジェクト同士のコラボレーションを進めることも、より地域の方に知ってもらえることになるので、可能性があるのではないのでしょうか。

｜ セッション3 テーマ：学びと学生力の可能性

会 場：交流センター 研修室1～3

司会者：北野大輔さん（淡海生物研究会）



活動発表の様子



質疑応答と意見交換の様子

報告まとめ(北野大輔さん)

「学びと学生力の可能性」をテーマに発表いただきました。意見交換では「学生力」とは何かを各プロジェクトに聞いたところ、「学生は時間的に余裕があり、難しいことへの準備ができ、実行もしやすい」「若い人のエネルギーが地域に入ること
で地域を明るく元気にできる」「体力がある」「専門知識、技術を地域に還元できる」等の意見がありました。

「学び」については十分議論する時間がありませんでした
でしたが、私は学生が助成を受けることで生まれる「責任」とは、ここでしか得られないことを学ぶことだと思います。近江楽座では「資料作成やプレゼンテーション能力」が鍛えられるので、今後、得たものを積極的にアピールしていってもらえたら
と思います。

Ⅰ 全体まとめ(井手慎司理事長)

7チームの発表を聞きましたが、その際、学生が地域に入る
ことの意味について考えていました。大学の実験・実習には必ず
終わりがあり、学生には卒業があります。しかし、地域での活動は、常に新たな地域課題も生まれてきており、終わりのない
ものです。

地域の方お一人お一人を縦糸だとすると、学生は横糸として
地域に入り、一緒になって織り上げていく織物のような
ものです。みなさんの目の前の活動も大事ですが、時にはこれまで先輩達と地域の方とで織り上げたものを、一度眺めてみては
いかがでしょうか。すると横糸として、自分たちが
できる活動が新しい視点で見えてくるかもしれません。
また次の1年間も頑張ってください。

Ⅰ 交流会

ホールでの全体のまとめが行われた後、ホワイエに移動し、地域の方、学生、教職員等が政所茶レン茶[®]のメンバーが淹れた政所茶をいただきながら親交を深めました。在来種の有機栽培、手摘みといった伝統的農法で栽培された政所茶は香り、味わいが良く、たいへん好評でした。



4 学生有志活動



4-1 近江楽座合同説明会



“近江楽座や近江楽座チームをもっと知ってもらおう!”、“活動に興味を持ってもらおう!”という目的から、有志チームによる近江楽座説明会が開催されました。

Ⅰ 合同説明会

日 時：2023 年 4 月 17 日 (月)、18 日 (火)、
19 日 (水) 16：30～18：30

会 場：交流センター ホワイエ

開催内容：

- ブース相談会
- 2022 年度の活動報告新聞の展示
- 近江楽座の紹介展示

＜参加チーム＞

17 日：5 チーム

- ・あかりんちゅ
- ・滋賀県大生き物研究会
- ・竹林 GAKU
- ・かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-
- ・政所茶レン茶[®]ー

18 日：6 チーム

- ・滋賀県大生き物研究会
- ・竹林 GAKU
- ・リソース
- ・沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト
- ・座・沖島
- ・CEBU PARIAN PROJECT

19 日：4 チーム

- ・ボランティアサークル Harmony
- ・リソース
- ・かみおかべ古民家活用計画
- ・沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト

会場には、入学して間がない新入生が友人を連れ添い、興味のあるプロジェクトのブースを訪れていました。各チームは、ポスターやパソコン等を使って熱心に自分たちの活動を説明していました。参加チーム同士の交流を図ることもできました。



合同説明会の様子

4-2 近江楽座チャレンジショップ

日 時：2023 年 12 月 18 日（月）～22 日（金）

11:30 ～ 12:30

場 所：学生ホール

12 月中旬の約 1 週間、自粛していた近江楽座チャレンジショップを 4 年振りに学生ホールで行いました。政所茶レン茶[®]とリソースの 2 チーム（リソースは 21 日と 22 日の 2 日間）が出店し、学生や教職員にお茶の試飲を勧めたり、自分たちが育てたこだわりの農産物を販売しました。

政所茶レン茶[®]は、“政所茶”の良さを知ってもらうことに重点を置き、先生や学生に「まずはお試しください」と呼びかけました。試飲は好評で、気に入った方は、家族や友人のお土産にと購入されていました。また、来られた方と話をすると、大学の授業や近江楽座のホームページ等を通じて、政所茶レン茶[®]がどういった団体なのかを知っている方が多いこともわかりました。1 週間で煎茶、ほうじ茶、番茶に精製した政所茶が約 30 袋売れ、想定を上回る売上となりました。

リソースでは日夏町で学生が手作りした野菜であること、大根一本の大きさ、太さは小さいけれども一人暮らしの一食分にちょうど良いとアピールしました。2 日間の出店で用意した無農薬大根約 50 本がほぼ完売となりました。ショップに出店することで、初めてリソースを知ったという方も多く、チームが品種や栽培方法等にもこだわっていることに、多くの方に知ってもらいました。



野菜の販売



政所茶の試飲と販売



4-3 B プロジェクト「県営開出今団地コミュニティ再生プロジェクト」

滋賀県と協定を締結し、県営住宅の空き住戸を活用して地域コミュニティの活性化を図る取組を進めました。活動は3つの柱からなり、1つがシェアハウス。学生が実際に暮らしながら地域と関わる活動を進めました。2つ目が、学生活動の拠点「楽座ルーム」の利用・運営。3つ目は、地域に向けてのイベントの開催です。

Ⅰ シェアハウス

4名の学生が1年間県営住宅団地で生活し、草むしりや階段清掃等の共同活動、町内会費の集金などの活動を行いました。若い子が入ってきてくれて嬉しいと声をかけてくださる方がいたり、近所の方とあいさつする回数が増えたり、足腰の悪い方の階段の上り下りのお手伝いをしたりと、団地の中で気兼ねなく助け合える関係を築くことができました。

Ⅱ 「楽座ルーム」の利用・運営

コロナ禍の収束により地域行事やイベント等も復活し、楽座ルームの今年度の利用は57回と昨年に比べ18回の増加となりました。特に政所茶レン茶[®]とあかりんちゅの利用が多く、袋詰め作業やキャンドル制作、イベント・物品販売などの準備をしました。

Ⅲ イベントの開催

日 時：2023年12月3日（日）10:00～14:00

場 所：彦根市開出今団地

参加者：14名

内 容：あかりんちゅ「キャンドル製作体験」と政所茶レン茶[®]「政所のお茶の淹れ講座」
開出今団地のボランティア団体「ツリーハウス」との協働開催

12/3(日) 滋賀県立大学 近江楽座

×

開出今団地

イベント開催！



あかりんちゅ
時間 10:30～11:30

<イベント内容>
あかりんちゅは、主にお寺から廃棄予定のろうそくを頂き、それらを再利用したキャンドルの製作といった活動をしています
今回は、キャンドルの製作体験をしていただけます！ぜひ自分だけのキャンドルを作ってみてください！

政所チャレン茶[®]
時間 11:30～13:00 予定

<イベント内容>
政所チャレン茶[®]は、政所茶の茶畑を借り、学生自らが政所茶の魅力を発信しています
今回は、政所のお茶入れ講座を開催します！入れたお茶と一緒にのびのびと召し上がっていただけます！ホッと一息いかがですか？





<イベント開催場所>
あかりんちゅ、政所チャレン茶[®]どちらも
開出今団地 B-231(楽座ルーム)

ぜひお越しください！
お待ちしております



キャンドル製作体験の様子

5 その他トピックス



5-1 全国公立大学学生大会 LINK topos

2013年11月、岩手県立大学で公立大学の学生ネットワークの第1回大会が開催されたのが始まりです。topos(トポス)は、場を意味するギリシャ語で、学生間の交流、情報交換等を通じて学生の地域における活動の促進、向上、そして活動を行う上での課題等の解決のための情報共有を目的としています。

本年度は9月4～6日までの3日間、沖縄県立芸術大学と沖縄県立看護大学にて開催されました。本学からは近江楽座の「廃棄物バスターズ」が参加し、ポスター発表や那覇市街地の清掃活動を行いました。

<ポスター発表>

18大学から18チームが登場。7分間の発表のあと5分の質問時間が設けられ、活発な意見交換が行われました。「廃棄物バスターズ」は、プロジェクトの成り立ちや、昨年と今年の活動内容を中心に発表を行いました。発表を聞いた他大学の教員から「今後の社会を見据えた素晴らしい活動」「メンバーに工学部生が多いことならではの取り組みが良い」等、高く評価され、翌日も発表を要請され、2度目の発表を行いました。



沖縄県立看護大学でのポスター発表の様子



廃棄物バスターズの発表ポスター

<那覇市国際通りでの清掃活動>

「廃棄物バスターズ」は、普段から彦根駅前など、人が多く集まる場所での清掃活動を行っています。今回のLINK topos 2023への参加にあたり、大会での活動とは別に、9月4日の正午から約1時間、那覇市役所周辺や国際通りで独自に清掃活動を行いました。

彦根市での清掃活動と比較すると、国際通りはゴミの量がかなり多く、特にたばこのポイ捨てが多いという結果になりました(下記ゴミ調査カード参照)。そのため、ここでは匂いが残らないようゴミを速やかに取り除く必要があると感じたということです。



那覇市街での
清掃活動の様子



ゴミ調査カード

5-2 一般社団法人 滋賀県建設コンサルタント協会 活動助成

一般社団法人 滋賀県建設コンサルタント協会では、社会資本の整備に貢献することを目的に、NPO 団体や大学・専門学校を対象にした支援活動を行なっています。具体的には、道路や河川などの研究・提言、まちづくりに関する啓発活動を行う団体に助成金交付等の支援を行うものです。

2023 年度の NPO 活動支援事業の助成団体に、本学から 4 団体、うち近江楽座からは「かみおかべ古民家活用計画」「BAMBOO HOUSE PROJECT」「男鬼プロジェクト」の 3 チームが選ばれました。

7 月 10 日（月）本学理事長室において、活動支援事業に選ばれた 4 団体の中から 2 団体（3 名）が出席し、助成金の交付式が行われました。

同協会理事の中川輝氏より、「当協会は社会資本の整備を図る公共事業に関する調査・企画・設計等のコンサルタント企業が集まっており、本支援事業が地域の為に少しでもお役に立てれば幸いです。今後の皆様方のご活躍を期待しています」と祝辞をいただきました。



本学理事長室にて行われた助成金交付式



学生との意見交換

<採択された近江楽座の 3 団体と活動名>

- かみおかべ古民家活用計画「古民家を活かした学生居住・短期滞在の準備活動」
- BAMBOO HOUSE PROJECT「BAMBOO HOUSE PROJECT（放置竹林の整備・活用）」
- 男鬼プロジェクト「男鬼プロジェクト（廃村となった男鬼集落の持続的な再生）」

※各団体それぞれに助成金 10 万円を支援

5-3 表彰・助成

「あかりんちゅ」が第13回毎日地球未来賞 奨励賞受賞

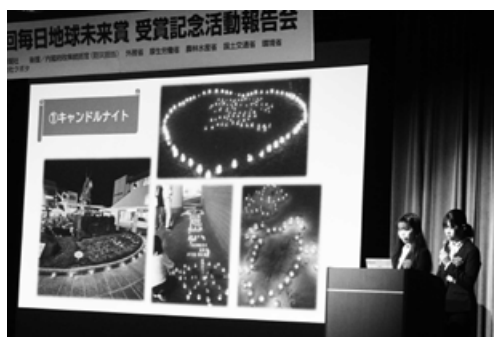
「あかりんちゅ」が、毎日新聞社が主催する第13回毎日地球未来賞 奨励賞を受賞し、2024年2月10日（土曜日）、毎日新聞オーバルホールで、代表の太田恵里佳さんと副代表の西村早織さんが「エコでスローな夜を」と題して、受賞記念活動報告を行いました。

本賞は、未来の子どもたちに良好な環境を残すため、「食料」「水」「環境」の分野で問題解決・改善に尽力する市民団体や個人・学生の活動を顕彰するものです。

「あかりんちゅ」は、寺院の儀式で使われたろうそくがやむなく廃棄されていることに着目し、寺院に寄付してもらったろうそくでリサイクルキャンドルを作り、キャンドルナイトや手作り教室を開催するとともに、販売も行っています。キャンドルを使って資源を工夫して有効に使うことを多くの人に伝えていることやイベントで使用する分は社会福祉法人に製造委託することで、障害者の社会参加の一助としていること、活動費は全てイベントの報酬や売上金で賄う自立した活動行っていること等が評価されました。



表彰式の様子



受賞記念活動報告の様子

「BAMBOO HOUSE PROJECT」が学生ボランティア団体活動助成活動レポート 優秀レポートに選出

一般財団法人学生サポートセンターが主催する「学生ボランティア団体活動助成活動レポート」において「BAMBOO HOUSE PROJECT」が優秀レポートに選ばれました。

「BAMBOO HOUSE PROJECT」は、湖南省をフィールドに手入れの行き届かない竹林を整備し、竹を利用した遊具や構造物の製作をしており、環境保全への貢献や地域のコミュニティを支える取組が評価されました。2024年2月14日（水）に行われた表彰式では、受賞者を代表して箱田里菜さんがこれまでのプロジェクトの取組みを発表しました。



BAMBOO HOUSE PROJECT の取組を発表



放置竹林を整備、建築された竹遊具

「とよさと快蔵プロジェクト」電通育英会 助成事業に選出（2年連続）

「とよさと快蔵プロジェクト」が公益財団法人電通育英会の次世代リーダーを育成する活動助成事業に昨年度に続けて選ばれました。

「とよさと快蔵プロジェクト」は、豊郷町内に点在する空き家となった民家や蔵を学生の視点で活用し、地域を盛り上げる活動を行っています。具体的には、Bar の運営、イベントの企画運営、古着のリメイク等です。地域と共に歩み、活動 20 周年を迎えました。昨年度、初めて助成を受けた際には、電通育英会が発行する広報誌「IKUEI NEWS 100 号」に取り上げられ、活動の詳しい内容が掲載されました。



20 周年イベントの様子

「未来看護塾」の提案事業が『健康しが』 活動創出支援事業」に採択

滋賀県では、健康寿命のさらなる延伸に向けて、健康増進や生活習慣病の発症予防、重症化予防などを通じた「健康なひとづくり」と、おのずと健康的な生活を送ることのできる「健康なまちづくり」を企業や大学、地域団体、自治体等の多様な主体で構成する「健康しが」共創会議を設け、進めています。

2023 年度の県民の健康づくりに資する取組として、未来看護塾の提案事業「地域に住む高齢者が心身ともに健康に過ごせる地域づくり」が採択されました。

提案活動は、滋賀県彦根市在住の高齢者を対象に、健康やリラクセーションに関する知識を持つ看護学生による転倒予防体操とハンドマッサージを実施し、心身ともに健康に過ごせる地域づくりを行うというもので、彦根市平田町の高齢者の方を対象とした取組を行います。



高齢者の方にハンドマッサージを行う学生



5-4 近江楽座 20 周年写真展「記憶・語り・つながり」

近江楽座が 2024 年 10 月で 20 周年を迎えることから、これまでのプロジェクトの活動を振り返る、「近江楽座 20 周年 写真展『記憶・語り・つながり』」を学内交流センターホワイエにて、2023 年 12 月 21 日～ 2024 年 1 月 11 日まで開催しました。

学生・教職員と地域の方々との活動の厚みが詰まった内容で、写真を通して当時の記憶や体験を語り合い、次の活動に繋がってもらえたらとの願いを込めました。

本写真展の様子は毎日新聞、京都新聞、中日新聞の 3 社で、写真入りの記事として大きく取り扱っていただきました。



近江楽座 20 周年写真展 活動を写真で紹介





6-1 ホームページ、リーフレット、キャンパスガイド

｜ 近江楽座ホームページの運営

URL : <https://ohmirakuza.net/>

滋賀県立大学における、学生の地域活動に関するポータルサイトでもある近江楽座ホームページの運営を行い、随時最新情報を更新しています。

<楽座文庫等への追加コンテンツ>

「近江楽座 活動報告書」、「近江楽座 START BOOK(キャンパスガイド 2024)」、楽座新聞、活動紹介リーフレット等を追加

｜ 活動紹介リーフレット 2023

デザイン：河野麗

取材協力：井上聖花、綾部仁子

近江楽座プロジェクトで活動する学生に依頼し、近江楽座全体の取組や、2023 度近江楽座に採択されたプロジェクト 21 件と B プロジェクト 1 件を写真入りで紹介するリーフレットを作成しました。リーフレットのデザインと近江楽座 OB・OG にインタビューした「-VOICE- 先輩の声」の取材は近江楽座で活動する学生に協力いただきました。

リーフレットは近江楽座ホームページの楽座文庫からご覧いただけます。



近江楽座活動紹介リーフレット 2023

｜ CAMPUS GUIDE 2024

キャンパスガイドに近江楽座の活動を紹介したブックインブック「近江楽座 START BOOK」を制作しました。



近江楽座 START BOOK

｜ プロジェクトの Instagram をリポスト

各プロジェクトが投稿した Instagram を近江楽座のアカウントでリポストしています。

#rakuzausp で発信してもらっています。

<掲載ページ>

<https://www.instagram.com/ohmirakuza/>



7 付録



7-1 プログラム推進メンバー※

事業推進代表者

滋賀県立大学理事長 井手慎司

事業推進責任者

近江楽座専門委員会 委員長 印南比呂志

近江楽座専門委員会

環境科学部

浦部美佐子

林宰司

平岡俊一

金子尚志

迫田正美

工学部

河崎澄

柳澤淳一

人間文化学部

石川慎治

印南比呂志

佐々木一泰

原未来

人間看護学部

伊丹君和

横井和美

地域共生センター

鵜飼修

近江楽座事務局

秦憲志

杉田弘一

森久友紀子

※ 2023 年度 (2024 年 3 月末時点)

このほか、近江楽座に関わり支援いただいたすべての方にお礼申し上げます。



7-2 メディア掲載一覧

No	日 時	チーム	メディア・団体	見出し
1	2023.5.18	政所茶レン茶 [®] ー	京都新聞 16 面	政所茶 外国人が関心 東近江 農家に交じり手摘み 無農薬、安心安全で評価
2	2023.5.26	政所茶レン茶 [®] ー	NHK おうみ発 630	「政所茶レン茶 [®] ー」のメンバーが永源寺町政所で新茶摘みをしている活動風景を放送
3	2023.5.29	政所茶レン茶 [®] ー	NHK 列島ニュース	東近江市で政所茶の摘み取り 最盛期
4	2023.6.26	政所茶レン茶 [®] ー	京都新聞 20 面	政所茶 香り・味楽しむ 東近江市で催し 観光客らのど潤す
5	2023.8.17	BAMBOO HOUSE PROJECT	中日新聞 12 面	県立大・陶器教授の研究室 日本建築学会賞を受賞 地域貢献や竹材の構造研究 評価
6	2024.2.25	BAMBOO HOUSE PROJECT	毎日新聞 京都版	放置竹林を有効活用するボランティアに取り組む滋賀県立大大学院の箱田里菜さん
7	2023.7.25	廃棄物バスターズ	中日新聞 15 面	社会貢献活動 世界へ発信 県立大「廃棄物バスターズ」 廃プラでプランター 障害者の就労支援も 9 月の国際大会 日本代表で出場
8	2023.11.22	廃棄物バスターズ	中日新聞 14 面	琵琶湖の環境保全学ぶ 県立大生が中央中生に校外学習
9	2023.11.25	廃棄物バスターズ	滋賀彦根新聞 1 面	マイクロプラスチック学ぶ 中央中生が県大生から湖岸で実験
10	2024.2.28	廃棄物バスターズ	びわ湖放送	たねやグループが湖岸清掃
11	2023.10.28	とよさと快蔵プロジェクト	中日新聞 17 面	あの日のびわこ版 (2016 年 10 月 28 日付) 出会いの場紡いで 10 年 県立大生経営 豊郷のバー「タルタルーガ」
12	2024.2.27	とよさと快蔵プロジェクト	中日新聞 15 面	江戸期一現代 ひな人形巡ろう 豊郷の 5 施設 琵琶湖八景や人気アニメ題材に飾る
13	2023.7.25	あかりんちゅ	中日新聞 14 面	ビアガーデン、子どもの遊びも 29 日 大学生が催し「熱風」銀座商店街ビル屋上
14	2024.1.10	あかりんちゅ	毎日新聞 1 面	第 13 回地球未来賞 受賞者決まる ＜奨励賞（学生の部のみ）＞ 滋賀県立大学近江楽座あかりんちゅ（太田恵里佳代表、彦根市）
15	2024.3.14	あかりんちゅ	毎日新聞 17 面	第 13 回地球未来賞 奨励賞 近江楽座あかりんちゅ
16	2024.1.29	ヴォーリズ研究会	中日新聞 12 面	先見性があったヴォーリズ建築 近江八幡 再評価の理由 パネル討論
17	2024.1.31	ヴォーリズ研究会	Z-TV おうみからわ版 近江八幡放送局	ヴォーリズ建築 パネルディスカッション
18	2024.2.16	ヴォーリズ研究会	びわ湖放送「オモロしが」	今こそ学ぼう！ヴォーリズの精神
19	2024.2.19	ヴォーリズ研究会	Z-TV おうみかわら版 近江八幡放送局	ヴォーリズ建築図面展
20	2024.2.24	ヴォーリズ研究会	NHK 関西 NEWS Web	滋賀 近江八幡 建築家 ヴォーリズの設計図面を展示
21	2023.12.7	フラワーエネルギー「なの・わり」	中日新聞 15 面	菜種油の燃料でゴーカート 県立大生が児童に環境授業
22	2023.12.13	フラワーエネルギー「なの・わり」	滋賀彦根新聞 1 面	「バイオエネルギー」児童学ぶ 県大生が講師、ゴーカート運転も

No	日 時	チーム	メディア・団体	見出し
23	2023.12.22	フラワーエネルギー 「なの・わり」	豊郷町隣保館だより	「すっごーい。めっちゃ、走るやん！」 りんぼかん開放で県大生と交流学習 ～菜種油の燃料でゴーカート運転も～
24	2023.4.1	座・沖島 沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト	京都新聞 30 面	「沖島資料館」復活 近江八幡、あす 4 年ぶりオープン 住民や県立大生ら尽力 「愛され長く続いて」
25	2023.4.1	座・沖島 沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト	中日新聞 13 面	沖島島民の熱意 「資料館」あす再開 県立大生が改修や展示協力
26	2023.4.2	座・沖島 沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト	毎日新聞 21 面	熱意結実 きょう再開 4 年ぶり 伝統漁法や歴史紹介
27	2023.5.7	座・沖島 沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト	読売新聞 21 面	沖島暮らし「もんでみて」資料館 4 年ぶり復活 漁具や写真パネル展示
28	2023.10.30	座・沖島 沖島 RYUBOKU HUT プロジェクト	中日新聞 9 面	沖島でマルシェ 近江八幡 来島者増、今年も臨時便
29	2023.10.16	ボランティア部 Harmony	京都新聞 5 面	福祉のページ 広がる地域の輪 滋賀県立大学「ボランティア部 Harmony」 障害者の創作・体験活動支援 普通に友達と 接するように
30	2023.11.15	ボランティア部 Harmony	滋賀彦根新聞 2 面	障害者と音楽会
31	2023.11.17	ボランティア部 Harmony	京都新聞 17 面	まちかど彦根 ハーモニー & メロディー クリスマスコンサート
32	2023.11.19	ボランティア部 Harmony	中日新聞 16 面	生の音楽 誰もが自由に 一足早くクリスマスコンサート
33	2024.3.17	はっしん歴史遺産 @近江	京都新聞 23 面	よし笛 菅並集落と余呉型民家
34	2023.12.24	近江楽座	京都新聞 20 面	「近江楽座」写真で紹介 県立大の教育プログラム 来夏 20 周年 延べ 1 万人「地域に貢献」
35	2024.1.5	近江楽座	中日新聞 16 面	近江楽座 20 年 写真で振り返る 県立大生の地域教育プログラム
36	2024.1.9	近江楽座	毎日新聞 17 面	近江楽座 20 周年 写真で振り返る 県立大

7-3 近江楽座・活動安全マニュアル

近江楽座・活動安全マニュアル（活動場面と注意事項）（2022.10.17版）

<プロジェクト共通事項 編>

このマニュアルは、全てのプロジェクトに共通する安全管理について、展開される活動の場面ごとに注意すべき事柄を取り上げています。しかし、これで万全というわけではありません。危機対応には次の3つのステップがあります。

【知る】（どんなリスクが存在するかを「知る」）

【予測】（どんなリスクが発生するかを「予測」する）

【対応】（そのリスクを未然に防ぐ「準備」、発生した場合の「対処」について検討・実施）

事前に想定できるリスクのうち、予測・準備・対応を行うことでリスクそのものを回避・軽減すること（リスクヘッジ）ができます。プロジェクトによって活動内容が異なりますので、自分たちのプロジェクトの内容に沿った安全管理についてメンバーで話し合い、個別のマニュアルも作成してください。

1. 活動の準備段階

😊 (1) 目標を立てよう

活動を進めていく上では、関わるメンバー全員が活動に参加している意識を持つことが大切です。そのために、まずチームとしての1年間の目標、そして、関わるメンバーがそれぞれ活動を通じての目標を設定してみましょう。

😊 (2) 役割分担を決めよう

一部の学生に作業が集中しないよう、リーダーやサブリーダー、会計、記録担当など、上手に役割を分担し、協力しましょう。

😊 (3) チームで情報を共有しよう

ミーティングで決まったことや事務局からの連絡事項など、チームメンバー全員で共有するようにしましょう。緊急の場合の連絡先や連絡体制をあらかじめ決めておきましょう。

😊 (4) 地域、関係団体等との事前調整、説明をしっかりとしよう

楽座の活動は地域や関係団体の皆様のご理解や協力がなければ成り立ちません。活動計画を立てるに当たっては必要に応じて、関係の皆様と事前調整、説明をし、理解を得ましょう。

😊 (5) 活動計画を提出しましょう

毎月の活動計画書を前月15日までに事務局に提出しましょう。事務局から活動内容の確認や修正の指示があった場合はすぐに対応し、相談しましょう。

😊 (6) 新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底しましょう

近江楽座の活動は地域に入っていくため、他人に感染させない、自分も感染しないよう万全の感染対策をとりましょう。

2. 地域で活動する

☺ (1) きちんとあいさつをしよう、地域のルールを守ろう

楽座では地域で活動します。地域におじゃまし、地域の人たちが普通に生活されておられる中で活動をさせていただくわけですから、礼儀が必要です。きちんと挨拶をする。ルールを守る。迷惑をおかけしない。お世話になる方々や周りの方たちには常に敬意を持って、接しましょう。

☺ (2) 協力団体との連携を密にしよう

活動に協力していただく地域団体との協働関係をなくして、活動は成り立ちません。活動時には必要な説明をするとともに、メンバー間で定期的なミーティングを行い、意思疎通、連携を図るとともに、連絡事項や決まったことはコアメンバーだけでなく、全員で情報を共有するようにしましょう。

☺ (3) 活動計画等を共有しよう

多くの人が参加する活動においては、物資等準備を行い、関係者の協力や実施体制を決め、実行計画書を作成し事前にメンバー全員で共有しましょう。また参加者が多い場合は、班分けし責任者を決めるなど各参加者が自らの役割を認識し責任ある行動をとれるようにしましょう。

☺ (4) 作業やイベントの直前に短時間のミーティングをしよう

当日の活動に潜む危険を短時間で話し合い、安全・健康管理、事故防止・対応などを共有しましょう。気づいた危険に対する対策を決め、行動目標を立て、一人ひとりが実践するようにしましょう。そして、要所、要所で心を込めて指差し呼称をしましょう。

【危険予知(KY)活動】－(〇〇ヨシ！ △△ヨシ！ □□ヨシ！)

☺ (5) 道具の扱いには細心の注意を払おう

建物改修や環境整備、イベント、調理などでは、様々な道具を使用します。特に危険を伴う道具や普段使い慣れていない道具を扱う時は、ケガをしないよう、必要な服装・装備で、集中して細心の注意を払って作業をしましょう。先輩が後輩を、熟練者が未熟練者をしっかり指導しましょう。

☺ (6) 整理整頓をしよう

活動には多くのメンバーが参加します。あらかじめ道具などを片付ける場所を決めておいて、次に使う人が使いやすいように整理整頓、整備をしましょう。また、安全に効率よく作業を行うには、作業動線を確保することが大切です。現場を片付け、清掃することは活動の基本です！！

☺ (7) 火災及び盗難に注意しましょう

各施設を使用する場合は火災の発生に特に注意し、消火器の場所も確認しましょう。盗難が発生することがあるので、ドアや窓の戸締り、貴重品の管理等はメンバーで責任もって行いましょう。

3. 移動に自家用車を利用する

☺ (1) 事故を防ぎましょう

運転手は自己の体調管理をしっかり行い、安全運転と乗員の安全確保を充分に行いましょう。無理をしないようにしましょう。同乗者も運転手をサポートしましょう。

4. 事前の備えをする

☺ (1) 保険に加入しましょう

多くの部外者を集めて行うイベントなどでは、万一に備えてボランティア保険に加入しましょう。また、建物等の利用だけでなく管理も行う場合は、所有者と話し合っ て火災保険等に加入しましょう。

☺ (2) 法令を遵守し届け出を行ったり、必要な安全講習を受けましょう

たとえば喫茶営業を行う場合、県条例に基づき食品衛生責任者を置かなければなりません。責任者になるためには一定の要件があり、養成講習の受講等が必要です。また、チェーンソーや草刈り機など危険を伴う道具を扱う必要がある場合は、専門機関や関係団体が行っている安全講習を受けましょう。活動内容や場所によっては、事前の届出や許可を得る必要がある場合があるため、消防や警察等への届け出を含め、予め確認の上、実施前に所定の手続きをしましょう。

☺ (3) 災害から身を守りましょう

誰もが、地震や台風、雪害などの自然災害や事故等の人為災害に遭遇する可能性があります。日頃からの心の準備と備え、日程の変更や防ぐ手だてを尽くしながら、危険性を感じたら、一人ひとりの命を大切に「逃げる」ことを考えましょう。

5. 報連相（報告・連絡・相談をする）

☺ (1) 活動実績報告書を提出しましょう

活動を行った場合は翌月 15 日までに活動実績を提出しましょう。

☺ (2) 報連相をしましょう

悪いことほど早く報告・連絡・相談をしましょう。失敗は隠さず蓄積し、蓄積されたノウハウをメンバーで共有し、後輩に引き継ぎましょう。

6. 事故等が起こった場合の対応

☺ (1) 応急対応

事故が発生した場合は傷病者に対して速やかに手当てを行うと同時に、周囲の状況をよく観察し、他のメンバーや関係者の安全を確保し、被害の拡大防止に努めましょう。

☺ (2) 連絡体制

活動中に事故が発生した場合は、次のとおり楽座事務局、顧問の先生に連絡しましょう。緊急の場合は 119 番通報、最寄りの医療機関、必要に応じて警察に連絡しましょう。日頃から事故等の発

生した場合の救急体制の確認をするとともに、メンバー間の緊急連絡網の作成など事前の備えを十分に行いましょう。

☺ (3) 事故届

事故が発生した場合は、事務局に事故届を提出しましょう。

7. その他

☺ (1) 個人情報の取扱い

関係団体やメンバーの個人情報を保有する場合は必要最小限のメンバー限りとし、本人の承諾なしに第三者へ提供や漏洩がないように十分に注意しましょう。

☺ (2) 著作権の侵害

市販等されている冊子等を複写して使用する場合は、必要に応じ著作権者からの許諾を得るなど著作権を侵害しないように十分に注意しましょう。

【困った時の相談窓口】

- 各プロジェクトの指導教員（日頃から活動内容を伝え、コミュニケーションを！）
- 近江楽座事務局（交流センター、TEL:0749-28-8616、メール info@ohmirakuza.net）



7-4 お知らせ

チームへのお知らせ

配信日	タイトル	内容
2023.4.17	2023 年度 近江楽座プロジェクトの募集について (4/17～5/15)	2023 年度 近江楽座プロジェクトの募集開始のお知らせ
2023.5.18	2023 年度 近江楽座プレゼンテーション要領について	2023 年度 近江楽座申請チームにプレゼンテーション要領を通知
2023.6.1	近江楽座活動説明会のご案内 (6/5、12 時 30 分～13 時 00 分)	近江楽座に採択されたチームに活動説明会開催の案内
2023.6.19	「第1回近江楽座代表者会議」について (開催案内)	「第1回近江楽座代表者会議」開催日決定のお知らせ
2023.6.19	2023 学生ボランティア団体助成事業「学生ボランティア団体活動レポート」募集案内	2023 学生ボランティア団体助成事業「学生ボランティア団体活動レポート」エントリーチームを募集
2023.6.20	第1回スキルアップ講座「危機対応講習」について (開催案内)	第1回スキルアップ講座「危機対応講習」の開催日決定のお知らせ
2023.7.21	令和5年度 全国公立大学学生大会 (LINKtopos2023) 参加者募集	「令和5年度 全国公立大学学生大会 (LINKtopos2023)」参加チームの募集
2023.8.29	「飛びす講をジャックせよ」彦根地域活性化事業へ参加しませんか	中心市街地でのイベントに参加するチームを募集
2023.9.22	「ひこねの文化祭」の開催について (イベント案内)	荒神山でのイベントに参加するチームを募集
2023.10.5	「近江楽座活動助成金中間ヒアリング」の日程について	中間ヒアリングを実施する時間割を通知
2023.10.10	「第2回近江楽座代表者会議」について (開催案内)	「第2回近江楽座代表者会議」開催日決定のお知らせ
2023.11.10	「2023 年度 近江楽座中間報告会」の開催について	「2023 年度 近江楽座中間報告会」開催概要を通知
2023.11.21	「近江楽座チャレンジショップ」について (出店チーム募集)	「近江楽座チャレンジショップ」出店チームを募集
2023.12.6	「第3回近江楽座代表者会議」について (開催案内)	「第3回近江楽座代表者会議」開催日決定のお知らせ
2023.12.22	「近江楽座 20 周年写真展」の開催について	近江楽座の 20 年を振り返る写真展開催のお知らせ
2024.2.5	「2023 年度 近江楽座活動実績報告」について (3/15 締切)	「2023 年度 近江楽座活動実績報告」報告書作成要領を通知
2024.2.15	4 月 20 日 (土)「近江楽座活動報告会」を開催します	「近江楽座活動成果報告会」開催日決定のお知らせ
2024.2.15	「近江楽座活動助成金最終ヒアリング」の日程について	最終ヒアリングを実施する時間割を通知
2024.2.26	「2024 年度 近江楽座合同説明会」の開催について	新メンバー募集のための「2024 年度 近江楽座合同説明会」開催のお知らせ
2024.3.25	「2023 年度 近江楽座活動成果報告会」を開催します (発表資料準備のお願い)	「2023 年度 近江楽座活動成果報告会」の開催概要を通知
2024.4.8	「近江楽座よろず相談会」の実施について (4/15、16、17 開催)	「近江楽座よろず相談会」実施のお知らせ

近江楽座ホームページ掲載お知らせ

掲載日	タイトル	内容
2023.4.6	2023 年度 近江楽座合同説明会を開催します（新メンバー募集）	2023 年度 近江楽座 新メンバー募集のための合同説明会開催について
2023.4.17	2023 年度 近江楽座プロジェクト募集（4/17～5/15）を開始します	2023 年度 近江楽座プロジェクトの募集について
2023.5.18	2023 年度 近江楽座 公開プレゼンテーションの開催について（5/27）	2023 年度 近江楽座 採択に向けて行われる公開プレゼンテーションの開催について
2023.6.1	2023 年度 近江楽座プロジェクト審査結果発表	2023 年度「近江楽座」に採択されたプロジェクトについて
2023.6.14	2023年度 近江楽座Aプロジェクト 継続審議の再審査結果について	2023 年度 継続審議となったプロジェクトの再審査の結果について
2023.6.26	2023年度 第1回スキルアップ講座「危機対応講習」を開催します(7/11)	地域活動・ボランティア活動等を安全に行っていくための講習の開催について
2023.7.24	「一般社団法人 滋賀県建設コンサルタント協会 令和5年度 NPO活動支援事業」に本学の近江楽座を中心とする4団体が採択され助成金が交付されました	近江楽座の「かみおかべ古民家活用計画」、「BAMBOO HOUSE PROJECT」、「男鬼プロジェクト」が一般社団法人 滋賀県建設コンサルタント協会の令和 5 年度 NPO 活動支援事業に採択されたことについて
2023.8.2	2023年度 第1回スキルアップ講座「危機対応講習」を開催しました！	2023 年度 第 1 回スキルアップ講座「危機対応講習」の実施報告について
2023.9.28	令和5年度 全国公立大学学生大会（LINKtopos2023 in沖縄）に「廃棄物バスターズ」が参加しました	令和 5 年度 全国公立大学学生大会（LINKtopos2023 in 沖縄）に参加した「廃棄物バスターズ」の現地での活動について
2023.9.28	令和 5 年度「健康しが」活動創出支援事業に近江楽座の『未来看護塾』が採択されました	近江楽座の「未来看護塾」が滋賀県が取り組む令和 5 年度「健康しが」活動創出支援事業に採択されたことについて
2023.12.1	『社会を明るくする運動』への貢献により近江楽座の「あかりんちゅ」と「未来看護塾」に大津保護観察所長より感謝状が贈られました	近江楽座の「あかりんちゅ」と「未来看護塾」に大津保護観察所長から感謝状が贈られたことについて
2023.12.6	“「2023 年度 近江楽座中間報告会」『地域での経験を語り合う』—先輩を交えた情報交換会—”を開催します	“「2023 年度 近江楽座中間報告会」『地域での経験を語り合う』—先輩を交えた情報交換会—”開催について
2023.12.28	近江楽座 20 周年写真展を開催しています	近江楽座の 20 年を振り返る写真展開催について
2024.2.9	「ヴォーリス研究会」が設計図面からヴォーリス建築の思想を読み解く企画展とシンポジウムを開催します	近江楽座の「ヴォーリス研究会」が企画展とシンポジウムを開催することについて
2024.2.19	2023 年度 近江楽座中間報告会『地域での経験を語り合う』—先輩を交えた情報交換会—を開催しました	2023 年度 近江楽座中間報告会『地域での経験を語り合う』—先輩を交えた情報交換会—の実施報告について
2024.2.29	「あかりんちゅ」が『第 13 回毎日地球未来賞』の奨励賞を受賞しました	近江楽座の「あかりんちゅ」が『第 13 回毎日地球未来賞』の奨励賞を受賞したことについて
2024.3.1	「近江楽座チャレンジジョブ」を開催しました	「近江楽座チャレンジジョブ」の実施報告について

公立大学法人 滋賀県立大学
スチューデントファーム「近江楽座」
まち・むら・くらしふれあい工舎

2023 年度活動報告書

2025 年 3 月発行

発行	公立大学法人 滋賀県立大学 地域共生センター 〒 522-8533 滋賀県彦根市八坂町 2500 TEL. 0749-28-8616 FAX. 0749-28-8473
企画・編集	近江楽座事務局
印刷・製本	近江印刷株式会社
構成・デザイン	秦 憲志・石見春香

本書の一部あるいは全部を無断で複写・複製、転載することは禁止されています

最新情報は、近江楽座ホームページ：<http://ohmirakuza.net/> をぜひ御覧ください

